

尾道市立大学授業計画

授業科目名		キャリア形成入門		開講年次	1年	開講年度学期	2025年度後期		単位数	2単位
科目コード		G-LC-111L		担当教員名	八木 力俊			担当形態	単独	
【科目の位置付け】										
この授業の基礎となる科目					次に履修が望まれる科目			キャリア形成演習		
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) この授業の目的は、キャリアの考え方を理解することです。そして、自己分析と自己理解を通じて自らのキャリアを見つめ将来像を描きます。また、そのための基盤となる、以下のような「基礎的・汎用的能力」を身につけることです。										
(受講生の到達目標) 到達目標1. 本学から広がる将来への可能性や学生生活について説明することができる。 到達目標2. 学問的・専門的知識を活かした将来を見据えて計画を立てることができる。 到達目標3. 課題を見つけ将来に向けて学生生活を主体的、行動的に過ごすことができる。										
【授業の概要】										
本学から広がる将来展望に必要な考え方や学生生活について学びます。将来を見据えた計画を立て、必要とされる基礎的・汎用的能力や、人とのかわり方(ヒューマンスキル)を演習から習得します。その為、講義中は、自己分析を行ったり、講師に指示に従った演習を行います。クラスのメンバー間で意見交換を行い、対話から他者との交流や関わり方を学習し、自己分析や自己理解を行ってください。 なお、受講人数や状況により、自己分析や演習内容等が変わる場合があります。										
【授業計画と授業の方法】										
講 義 内 容										
(授業計画) 第1回:キャリア形成入門とは～講義の進め方、評価など(講義) (事前学修)「キャリア」についてインターネットや書籍で調べ、文章にしておくこと(約30分) (事後学修)リフレクションシートへ講義の学びをまとめておくこと(約30分) 第2回:キャリアデザインの時代を生きる～人生全体のキャリアについて(講義、演習) (事前学修)「終身雇用」、「年功序列」、「人生100年時代」の意味についてインターネットや書籍で調べ、文章にしておくこと(約30分) (事後学修)リフレクションシートへ講義の学びをまとめておくこと(約30分) 第3回:大学生のゴールとは～大学を終えた後の自分について考える(講義、演習) (事前学修)事前課題の「履歴書」を作成しておくこと(約50分) (事後学修)リフレクションシートへ講義の学びをまとめておくこと(約30分) 第4回:大学生の生活とは～大学生活に求められることを考える(講義、演習) (事前学修)「大学生の社会的立場」についてインターネットや書籍で調べ、文章にしておくこと(約30分) (事後学修)リフレクションシートへ講義の学びをまとめておくこと(約30分) 第5回:学生生活と学びの特質①～人との対話や関わりについて(講義、演習) (事前学修)「対人関係地図」を事前に作成しておくこと(約30分) (事後学修)リフレクションシートへ講義の学びをまとめておくこと(約30分) 第6回:大学生活と学びの特質②～対人関係について(講義、演習) (事前学修)「社会的スキル」についてインターネットや書籍で調べ、文章にしておくこと(約30分) (事後学修)リフレクションシートへ講義の学びをまとめておくこと(約30分) 第7回:経験と学びについて①～事例による理解(講義、演習) (事前学修)「経験してきたこと」を他者に説明できるよう文章にしておくこと(約30分) (事後学修)リフレクションシートへ講義の学びをまとめておくこと(約30分) 第8回:経験と学びについて②～演習による理解(講義、演習) (事前学修)「経験を見える化する」のシートを作成しておくこと(約30分) (事後学修)リフレクションシートへ講義の学びをまとめておくこと(約30分) 第9回:情報の質と収集方法①～メディア別の情報の特徴とそれを活かす方法について(講義) (事前学修)「メディアの特徴」についてインターネットや書籍で調べ、文章にしておくこと(約30分) (事後学修)リフレクションシートへ講義の学びをまとめておくこと(約30分) 第10回:情報の質と収集方法②～メディアによる情報収集について(講義) (事前学修)「課題映像」を視聴して、文章にまとめておくこと(約60分) (事後学修)リフレクションシートへ講義の学びをまとめておくこと(約30分) 第11回:資格を活かす生き方～資格取得について(講義、演習) (事前学修)学生時代に取得したい資格についてインターネットや書籍で調べ、文章にしておくこと(約30分) (事後学修)リフレクションシートへ講義の学びをまとめておくこと(約30分) 第12回:ICT社会のキャリア形成～コンピュータ技術を用いた生活を考える(講義) (事前学修)「ICT」等の意味についてインターネットや書籍で調べ、文章にしておくこと(約30分) (事後学修)リフレクションシートへ講義の学びをまとめておくこと(約30分) 第13回:ワークスタイルからみる働き方～自らに合った働き方について考える(講義) (事前学修)「ワークスタイル」の意味についてインターネットや書籍で調べ、文章にしておくこと(約30分) (事後学修)リフレクションシートへ講義の学びをまとめておくこと(約30分) 第14回:「計画された偶然」を引き寄せる～機会を前向きに捉える学習方法を学ぶ(講義) (事前学修)「偶然によって決まったこと」について他者に説明できるよう文章にしておくこと(約30分) (事後学修)リフレクションシートへ講義の学びをまとめておくこと(約30分) 第15回:ライフプラン、キャリアプランの作成(講義、演習) (事前学修)「プランシート」を作成しておくこと(約60分) (事後学修)リフレクションシートへ講義の学びをまとめておくこと(約30分)										
※ 授業内容は、受講人数や状況に応じて変更することがあります。										
(授業の方法) 講義は、テキストの内容について教員が講義し、その後、受講生が実践する形で授業を進めます。基本的には教員と学生や学生同士がインタラクティブ(双方向)で対話をしながら進めていきます。 演習は、毎回テキストの指示に従って、クラスメイト同士で問題を解決するワークを行います。 また、質問シートを使った自己分析やキャリアデザインを描くシートなども作成します。										
テキスト・参考書		必要に応じて、レジュメを配布します。								
授業時間外の学修		上記シラバスの各回の説明を参考に、事前、事後の学修を行ってください。								
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 中間レポート(20%) 最終試験(60%) 授業中の発言や質問、参加態度(20%) (成績評価の基準) 1. 正しい形式で分かりやすいレポートが作成できる 2. 自己分析を行い、自己理解をした上で、自分の言葉で自己PR等の表現や発表ができる 3. 授業中に学んだキャリアの定義や理論を用いて、キャリアビジョンを描くことができる								
備考										
担当教員の実務経験の有無		○		実務経験の具体的内容			キャリアコンサルタントの経歴を有する教員による実践的な授業			

尾道市立大学授業計画

授業科目名		キャリア形成演習		開講年次		2年		開講年度学期		2025年度後期		単位数		2単位	
科目コード		G-LC-211S		担当教員名		八木 力俊				担当形態		単独			
【科目の位置付け】															
この授業の基礎となる科目		キャリア形成入門		次に履修が望まれる科目				インターンシップ							
【授業の目的と到達目標】															
(授業の目的) この授業の目的は、学部を超えた学生同士との演習を通じて、キャリアを形成していくための基盤となる、「基礎的・汎用的能力」を身につけることです。															
(受講生の到達目標) 到達目標1. 自分の強みと弱みを理解し、将来を見据えた計画を立てることができる。 到達目標2. 対話を通じて視野を広げ、他者との協力や問題解決に取り組むことができる。 到達目標3. 働く意味を理解し、就職に向けて情報収集や行動をすることができる。															
【授業の概要】															
この授業は、自分が社会ではどのように働き、どんな人生を送りたいのかという、自律・自立した「自分らしい生き方」をデザインして実践できる知識や方法を学びます。終身雇用・年功序列・右肩上がりといった、会社がキャリアを保障する時代から、キャリアの自律を求められる時代に变化した今、大学時代から自分のキャリアをデザインすることが求められています。自己分析や演習を通じて将来への目標設定を行い、社会化への意識を高めることや、受講生同士の「対話」、「課題解決」、「プレゼンテーション」等を行い、コミュニケーションスキルの向上を目指して取り組みます。 なお、受講人数や企業との協力の状況により、演習内容等が変わる場合があります。															
【授業計画と授業の方法】 講義内容															
(授業計画) 第1回:オリエンテーション 「講座の進め方」「キャリアについて」他(講義) (事前学修)「キャリア」の意味についてインターネットや書籍で調べ、文章にしておくこと(約30分) (事後学修)リフレクションシートへ講義の学びをまとめておくこと(約30分) 第2回:プレ演習(1) 「チーム編成」、「自己紹介」他(講義、演習) (事前学修)「自己紹介シート」を完成させてくること(約30分) (事後学修)リフレクションシートへ講義の学びをまとめておくこと(約30分) 第3回:プレ演習(2) 「ミーティング技術」「ファシリテーション」他(講義、演習) (事前学修)「ファシリテーション」についてインターネットや書籍で調べ、文章にしておくこと(約30分) (事後学修)リフレクションシートへ講義の学びをまとめておくこと(約30分) 第4回:プレ演習(3) 「課題の設定と進行方法」他(講義、演習) (事前学修)「問題と課題」の意味についてインターネットや書籍で調べ、文章にしておくこと(約30分) (事後学修)リフレクションシートへ講義の学びをまとめておくこと(約30分) 第5回:プレ演習(4) 「チーム内演習」他(演習) (事前学修)演習に向けて前回の学びを再確認してくること(約30分) (事後学修)リフレクションシートへ講義の学びをまとめておくこと(約30分) 第6回:クラス内発表会(1) プレゼンテーション (事前学修)プレゼンに向けて練習してくること(約60分) (事後学修)リフレクションシートへ講義の学びをまとめておくこと(約30分) 第7回:プレ演習(5) 「リフレクション、ディスカッション演習」他(講義、演習) (事前学修)プレゼンの感想や改善点についてクラス内共有できるようまとめてくること(約30分) (事後学修)リフレクションシートへ講義の学びをまとめておくこと(約30分) 第8回:本演習(1) 「企業研究の方法」他(講義) (事前学修)気になる企業についてインターネットや書籍で調べ、文章にしておくこと(約40分) (事後学修)リフレクションシートへ講義の学びをまとめておくこと(約30分) 第9回:本演習(2) 「企業担当者からのプレゼンと質疑応答」他(講義) (事前学修)企業情報についてインターネットや書籍で調べ、文章にしておくこと(約60分) (事後学修)リフレクションシートへ講義の学びをまとめておくこと(約30分) 第10回:本演習(3) 課題発見の方法について(講義、演習) (事前学修)「SDGs」の意味についてインターネットや書籍で調べ、文章にしておくこと(約40分) (事後学修)リフレクションシートへ講義の学びをまとめておくこと(約30分) 第11回:本演習(4) 「プレゼンテーション概論、資料作成」他(講義、演習) (事前学修)「AIDMAの法則」についてインターネットや書籍で調べ、文章にしておくこと(約30分) (事後学修)リフレクションシートへ講義の学びをまとめておくこと(約30分) 第12回:本演習(5) 「企業担当者へのヒアリング」他(演習) (事前学修)企業担当者への質問を考えてくること(約30分) (事後学修)リフレクションシートへ講義の学びをまとめておくこと(約30分) 第13回:本演習(6) 「プレゼンテーション準備、資料作成」他(演習) (事前学修)プレゼンテーション資料を準備してくること(約60分) (事後学修)リフレクションシートへ講義の学びをまとめておくこと(約30分) 第14回:クラス内発表会(2) 全体のプレゼンテーション(クラス内、プレゼンテーション) (事前学修)プレゼンテーションの発表を練習してくること(約60分) (事後学修)リフレクションシートへ講義の学びをまとめておくこと(約30分) 第15回:まとめ 「発表の振り返りと今後に向けて」他(演習) (事前学修)プレゼンテーションのふりかえりをしてくること(約60分) (事後学修)リフレクションシートへ講義の学びをまとめておくこと(約30分) ※ 授業内容は、協力先の企業の都合や社会情勢などの影響により変更することがあります。															
(授業の方法) 講義は、テキストの内容について教員が講義し、その後、受講生が実践する形で授業を進めます。基本的には教員と学生や学生同士がインタラクティブ(双方向)で対話をしながら進めていきます。 演習は、教員が用意した課題解決のテーマや、実際に企業の方をお招きして事例を説明してもらい、クラスメイト同士で解決策を考えるなどのワークを行います。 プレゼンテーションは、クラスメイト同士で話し合った内容を発表します。グループ内で行うものと、クラス全体に向けて行うものがあります。															
テキスト・参考書		必要に応じて、レジュメを配布します。													
授業時間外の学修		上記シラバスの各回の説明を参考に、事前、事後の学修を行ってください。													
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 中間レポート(20%) 最終プレゼンテーション(60%) 授業中の発言や質問、参加態度(20%) (成績評価の基準) 1. 演習に取り組み、課題解決を通じて、将来を見据えた計画を立てることができる。 2. 企業の課題に対して、メンバーと話し合いながら解決策を導き出すことができる。 3. プレゼンテーションスキルを学び、発表を通じて学びを体現することができる。													
備考															
担当教員の実務経験の有無		○		実務経験の具体的内容				キャリアコンサルタントの経歴を有する教員による実践的な授業							

尾道市立大学授業計画

授業科目名		インターンシップ		開講年次		2年		開講年度学期		2025年度前期、2025年度後期		単位数		2単位	
科目コード		G-LC-212P		担当教員名		八木 力俊				担当形態		複数			
【科目の位置付け】															
この授業の基礎となる科目		キャリア形成入門 キャリア形成演習		次に履修が望まれる科目											
【授業の目的と到達目標】															
(授業の目的) この授業の目的は、就業体験を通じて、大学で学んだ理論や知識が実際の社会でどのように活用できるかを確認し、その成果を文章と言葉で表現できることです。同時に、これから社会で求められる、マナーやリテラシーなどを経験から学ぶことです。															
(受講生の到達目標) 到達目標1. 職業観、社会観を養い、具体的な目標を設定して進路に対する考えを明確化することができる。 到達目標2. 就業体験を通して学んだこと、得たことを言語化することで、「気づき」を「経験」として定着させるとともに、他者にわかりやすくて正確に伝えることができる。 到達目標3. 今後の学業や学生生活にどのように生かすかを具体的に考え、行動計画を立てることができる。															
【授業の概要】															
インターンシップ(就業体験学習)は、実社会での研修を通じて社会認識・職業意識を育成すること、適切な就業選択を推進すること、専門分野に関する深い認識を形成することなどです。事前学習では、自己目標の設定等を通じて、就業体験に対する目的意識の明確化を図り、就業体験をより充実したものとします。就業体験終了後の事後学習では、就業体験内容(自己目標の達成度、学んだこと等の自己評価・点検)についての発表を行い、今後の学習意欲・就業意識の向上や、プレゼンテーション能力・コミュニケーション能力の形成を図ります。 なお、実習内容は状況に応じて変更することがあります。															
【授業計画と授業の方法】		講義内容													
(授業計画) 第1回 オリエンテーション 履修上の注意、参加目的、働くということを考える(講義) 第2回 事前学習1 自己分析と自己理解(演習) 第3回 事前学習2 就業体験先の絞り込み、申込書の作成(演習) 第4回 事前学習3 自己目標の設定、自己紹介と志望動機(演習) 第5回 事前学習4 就業体験中の留意点、ビジネスマナー、報告書・プレゼンテーション資料の作成方法(演習) 第6回 <就業体験> インターンシップ先にて就業体験(フィールドワーク1日目) 第7回 <就業体験> インターンシップ先にて就業体験(フィールドワーク2日目) 第8回 <就業体験> インターンシップ先にて就業体験(フィールドワーク3日目) 第9回 <就業体験> インターンシップ先にて就業体験(フィールドワーク4日目) 第10回 <就業体験> インターンシップ先にて就業体験(フィールドワーク5日目) 第11回 事後学習1 就業体験の振り返り、報告書、プレゼンテーション資料の作成(講義) 第12回 事後学習2 就業体験報告 ※グループAのプレゼンテーション(発表) 第13回 事後学習3 就業体験報告 ※グループBのプレゼンテーション(発表) 第14回 事後学習4 就業体験報告 ※グループCのプレゼンテーション(発表) 第15回 就業体験発表会(発表、オブザーブ) 企業の来賓を交えて、代表者による発表会 ※第12回～第14回のプレゼンテーションは、受講人数に応じて発表形式を変更する場合があります。															
(授業の方法) テキストの内容について教員が講義し、その後、受講生が実践する形で授業を進めます。基本的には教員と学生や学生同士がインタラクティブ(双方向)で対話をしながら進めていきます。 第1回～第5回の事前学習では、自己分析から自分の志向を見つけて、企業研究をしてもらいます。自己分析シートや履歴書の作成も行います。第3回ではチームを組んで演習を行います。第4回ではクラス内で自己分析を基にした自己紹介を行います。 第6回～第10回の就業体験では、夏休み期間を利用して実際に5日間～10日間程度の企業での就業体験を行っていただきます。 第11回～第15回の事後学習では、体験の振り返りと発表を行います。第11回はクラス内での振り返りとプレゼンテーションの準備を行います。第12回～第14回のプレゼンテーションは、クラス内で発表をします。第15回は企業の来賓を招いて選抜者による発表会を行います。															
テキスト・参考書		オリジナルプリントを利用します。ポータルより配布します。													
授業時間外の学修		(事前学修) 第1回～第5回では、就業前の自己分析が重要になります。授業が始まる前までにテキストをダウンロードして、自己分析シートや履歴書(要提出)などの空白部分を埋めてくるようにしてください。(所要時間約30分～60分) 第6回～第10回では、就業体験に向けたマニュアルを配布しますので、実習前までに熟読しておいてください(所要時間約60分)第7回～第10回に置いては、就業体験から得たことなどや課題を考えて翌日に参加するようにしてください。(所要時間約30分～60分) 第11回～第15回では、振り返りとプレゼンテーションを行います。毎回、体験したことや感じたことなどをクラス内で伝える時間がありますので、経験を整理したり、ポイントによるプレゼンテーションができるように作成をしておいてください。(所要時間約30分～180分) (事後学修) 毎回プリントの最後にリフレクションシートや課題の指示を出します。この授業で学んだことや次回に使用するものなどを言語化しておいてください。(所要時間約30分～60分)													
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 事前学習への出席と履歴書の提出は、必修です。授業にすべて参加できない場合や履歴書が提出されない場合、単位は付与しません。 ※理由があり、事前または翌週までにキャリア研究室に届け出があった場合は考慮する。 受け入れ先評価(30%)、就業体験報告書(30%)、事後学習プレゼンテーション(30%)授業への参画度(10%)を総合的に評価する。 (成績評価基準) 1. 就業体験に参加する意味や体験中に必要なことを理解することができる。 2. 就業体験中に事前学習で学んだことを活かして積極的に参加できる。 3. 就業体験で学習したことを、文章や発表を通じて伝えることができる。													
備考		学期初めにインターンシップ説明会を開催し、受講の要件(エントリーシートの提出等)について詳しく説明するので必ず参加してください。 事前学習は、全ての回の出席が必須となります。他の講義とのスケジュールを確認して受講するようにしてください。													
担当教員の実務経験の有無			○		実務経験の具体的内容				キャリアコンサルタントの経歴を有する教員による実践的な授業						

尾道市立大学授業計画

授業科目名	尾道学入門			開講年次	1年	開講年度学期	2025年度前期		単位数	2単位
科目コード	G-LC-101L		担当教員名	藤井 佐美			担当形態	オムニバス		
【科目の位置付け】										
この授業の基礎となる科目					次に履修が望まれる科目					
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) 本講義は、尾道市立大学に入学した学生が尾道の歴史・経済・文化活動等をめぐる様々なテーマから地域への関心を深めるとともに、学生生活における探究的な学びを目指すオムニバス授業です。 (受講生の到達目標) 到達目標1:尾道の経済の歴史や現在の財政的特徴について理解できるようになること。 到達目標2:尾道の文化・芸術の特徴について理解できるようになること。 到達目標3:空き家再生など現在の尾道の課題について理解できるようになること。										
【授業の概要】										
尾道の歴史・文化・経済的特徴、まちづくりの課題等に関するオムニバス授業で、地域の特徴を多面的な角度から学ぶことができます。また、尾道の事例を手掛かりとして、出身地や身近な地域社会が抱えている普遍的な課題についても学ぶ機会となります。										
【授業計画と授業の方法】 講義内容										
第1回 ガイダンス(藤井佐美) 第2回 空き家問題 ― 税金の観点からの検討 ―(前田謙二) 第3回 尾道空き家再生プロジェクト(豊田雅子) 第4回 ボクが14年間、尾道で暮らして考えたこと(小川長) 第5回 尾道・しまなみ海道の観光施策(山本淳) 第6回 「平山郁夫」を伝えるということ ―平山郁夫美術館の役割―(吉田守) 第7回 負の地域資源と美術活動(小野環) 第8回 尾道と近代文学(原卓史) 第9回 都市尾道の歴史的環境とまちづくり(真野洋介) 第10回 名誉市民・小林和作と尾道を巡る(梅林信二) 第11回 尾道市立大学史を紐解く:中井正一という人(林直樹) 第12回 風景画から知る尾道の魅力(中村謙) 第13回 尾道地方の方言(灰谷謙二) 第14回 メディア化される尾道 ―江戸時代～現在まで―(森本幾子) 第15回 地域学の発掘 ―「尾道学」構築と実践のあらまし―(林良司)										
(授業の方法) この講義は対面型授業ですが、第13回のみリアルタイムのオンライン型授業です。全15回すべての講義終了後に各講義担当者が課題を出題します。課題内容と提出方法・提出期限等については、各授業中の指示に従って対応してください。										
テキスト・参考書		(授業資料) 毎回、teamsに資料を提示します。資料を配布する場合もあります。								
授業時間外の学修		授業によっては、講義時に適宜紹介します。								
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 15回にわたって毎回出題されるレポート課題等の提出物により成績評価を行います(100%)。各講義内容と無関係な内容や、指示に沿わない内容や回答方法であると判断された場合は採点不可となります。また、課題提出において初回ガイダンスで説明した注意事項を遂行できていない場合、受講姿勢不十分とみなし減点対象とすることがあります。 (成績評価の基準) 到達目標1:各課題や字数に沿った内容の文章表現ができています。 到達目標2:課題内容を踏まえ、地域の課題について理解できている。 到達目標3:尾道の地域的特質について、様々な角度から理解できている。								
備考		①第1回授業のガイダンスで受講上の重要な注意点を説明しますので、受講者は必ずガイダンスに出席してください。 ②毎回の提出課題についてはformsで行います。詳細は第1回授業のガイダンスで説明します。 ③「尾道学入門」に関する重要なお知らせは主にteamsを通して行います。 ④出席は指定時間帯におけるスマホ登録により行います。 ⑤学外(一般)の方が参加可能な公開授業回もあります。 ⑥履修登録が確定した後は、座席指定制度を導入しますので指示に従って着席し受講してください。なお、座席指定表はteamsを確認してください。 ⑦授業の連絡先(地域総合センター)から発信される随時の伝達事項を遂行できていない場合は、受講姿勢不十分とみなし減点対象となる場合があります。								
担当教員の実務経験の有無			○			実務経験の具体的内容		創作活動、制作活動を行っている芸術家等による授業		

尾道市立大学授業計画

授業科目名	地域の伝統文化(囲碁)			開講年次	1年	開講年度学期	2025年度後期		単位数	2単位
科目コード	G-LC-102L		担当教員名	山本 賢太郎				担当形態	単独	
【科目の位置付け】										
この授業の基礎となる科目			次に履修が望まれる科目							
【授業の目的と到達目標】										
(1) 囲碁のルールを習得し19路盤で対局できるようになること (2) 囲碁の世界、歴史全般及び囲碁と尾道市との歴史的関係を知ること 2項を柱に、日本の伝統文化である囲碁を体験し、教養として身につけることにある。 到達目標1;19路盤での対局が自力のできる事によりルール説明ができる。 到達目標2;囲碁の知識を得て競技の魅力を説明できる。										
【授業の概要】										
江戸時代の囲碁の巨人「本因坊秀策」が因島生まれであることに由来し、囲碁は尾道市の市技である。 本講義では、この日本の伝統文化を身につけ、囲碁の持つ力※を修得することはもちろんのこと、尾道のより一層の理解に役立てる。(※囲碁の持つ力とは…(1)大局観を養える、(2)答えのない局面で考える力を身につけられる、(3)論理的な思考・集中力・認識力を養える、(4)日本の伝統文化を学び、国際交流のコミュニケーション力を身につけられる、(5)負ける経験をして、克服する力を鍛えられる、(6)能動的に考えることに慣れる)										
【授業計画と授業の方法】 講義内容										
第1回 ガイダンス 第2回 ルールの解説 第3回 ルールの復習 第4回 終局の説明 第5回 対局の流れと初歩技術の解説 第6回 授業内テスト(1) 第7回 模範碁の解説と対局(1)(19路盤での終局の判断と、整地の仕方) 第8回 模範碁の解説と対局(2)(19路模範碁の解説と、実践対局) 第9回 囲碁の世界(映写資料を使用予定) 第10回 模範碁の解説と対局(3)(19路模範碁の解説と、実践対局) 第11回 9子局の解説と連碁 第12回 模範碁の解説と対局(4)(ペア碁) 第13回 授業内テスト(2) 第14回 模範碁の解説と対局(5)(19路模範碁の解説と、実践対局) 第15回 代表者対局 まとめ 授業方法 前半は9路盤の大盤を使用しルール説明等を中心におこない実技(実戦対局)で感覚を養う 中盤から19路盤の大盤を使用し打ち方等の説明をおこない実技で19路盤での打ち方を習得 後半では引き続き19路盤の大盤解説をおこない目標である終局ができるよう実戦で学んでいく。										
テキスト・参考書		東大教養囲碁講座(光文社新書)2007年発行、著者:石倉昇、梅沢由香里、黒瀧正憲、兵頭俊夫								
授業時間外の学修		(事前学習) (世界でいちばんやさしい囲碁問題集) 競技の基礎となるルール説明・棋力向上に関する問題集などができるアプリとなっています 授業前の予備知識をつけるため取り組んでください。 (事後学修) (囲碁であそぼ・囲碁クエスト) 実戦等ができるアプリです、授業で得た知識を実戦でどれくらい活かせるか取り組んでください。								
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 授業態度30%実技の習得度70%で総合的に評価する。 (成績評価の基準) 到達目標1、19路盤で終局を自力で行う事が出来、基礎のルール説明を行う事ができる。 到達目標2、実戦での経験に基づき協議の魅力を伝える事ができる。								
備考		予習として(授業時間外の学修)記載のアプリを練習しておくこと。								
担当教員の実務経験の有無			○			実務経験の具体的内容			現役棋士による囲碁の力を身につける授業	

尾道市立大学授業計画

授業科目名		文化財学		開講年次	1年	開講年度学期	2025年度後期		単位数	2単位
科目コード		G-HU-131L	担当教員名	藤井 佐美			担当形態	オムニバス		
【科目の位置付け】										
この授業の基礎となる科目			次に履修が望まれる科目							
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) 文化財の種々相を学び、歴史的役割と現状を把握し広く社会に活用していくこと、また次世代にその意義を伝えていくための力をつけることを目指す。 (受講生の到達目標) 到達目標1:文化財の最新情報を理解した上で、継続的に実施されてきた調査や取り組み等の歴史について説明することができる。 到達目標2:後世に向けての保護と活用の意義について具体的に論じることができる。 到達目標3:協働的な学びの場においても積極的に参加し、多様な取り組みについても具体的に説明することができる。										
【授業の概要】										
文化財は伝統的建造物群、文化的景観、現実には人の生活や生業が行われている地域も含められ、その対象は広範囲におよぶ。授業では、文化財の現状や社会とのかわりについて学び、フィールドワーク(実地踏査)を通じて地域の事例とともに文化財とは何かを学ぶ。										
【授業計画と授業の方法】 講義内容										
(授業の計画) 第 1回 講義:文化財学入門 (坂本) 第 2回 講義:文化財保護の歴史 (坂本) 第 3回 講義:文化財の保存 (坂本) 第 4回 講義:文化財の調査 (坂本) 第 5回 講義:文化財の修理 (坂本) 第 6回 講義:文化財の活用 (坂本) 第 7回 講義:尾道の茶の湯文化 (坂本) 第 8回 講義:尾道市の文化財 (西井) 第 9回 講義:尾道市の文化財と歴史まちづくり (西井) 第10回 講義:尾道の美術工芸品Ⅰ (宇根元) 第11回 フィールドワーク (宇根元) 第12回 フィールドワーク (西井) 第13回 講義:尾道の美術工芸品Ⅱ (宇根元) 第14回 講義:尾道市の日本遺産Ⅰ (柿本) 第15回 講義:尾道市の日本遺産Ⅱ (柿本) (授業の方法) ※学外講師4名によるオムニバス授業。第1回～第7回(坂本直子)、第8回～第13回(宇根元了、西井亨)、第14回～第15回(柿本真琴) ※フィールドワーク(授業2回分)の詳細は担当講師(宇根元・西井)により日程調整がおこなわれ次第周知する。 例年11月下旬～12月下旬までの土曜日(午後～)1日で実施されているが、実施日は補講日でない場合もあるため上記周知内容については注意すること。なお、フィールドワークが社会情勢等の理由により実施できない場合や、適切な申請書類が提出された場合の欠席については代替授業で対応する。 (フィールドワークの内容) 第11回授業内容 尾道旧市街地にあるおのみち歴史博物館、爽籐軒庭園など尾道市重要文化財を観覧し、文化財の活用について現地研修する。 第12回授業内容 日本遺産箱庭的都市尾道の対象エリアである尾道旧市街地を歩き、町の移り変わりや様々な文化財をみて、現在の課題などを把握する。 オムニバスの責任者(学内連絡係):藤井										
テキスト・参考書		資料を配付する。								
授業時間外の学修		(事前学修) 各回のテーマに関するリサーチを、担当講師の指示に基づく適切な方法で進めておくこと。 (事後学修) 各回の課題に取り組み、指定期日までに提出すること。								
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 毎回の課題提出内容の積み重ね(80%)と、授業連絡への回答を含む受講姿勢(20%)により総合評価をおこなう。 (成績評価の基準) 到達目標1:文化財の基礎知識をふまえ、各回の授業内容を正しく理解し文章化している。 到達目標2:文化財の保護と活用の意義について、自分の考えを適切に伝えることができる。 到達目標3:実地踏査の意義を理解し、社会的な取り組みについても具体的に説明することができる。								
備考		学外講師4名(坂本直子 宇根元了 西井亨 柿本真琴)によるオムニバス授業であり、各回講師の授業指示に従い受講すること。 随時必要が生じた場合の授業伝達はポータルサイト(必要に応じteamsを併用する場合もある)を通じて連絡係(藤井)より配信する。なお、連絡に対し回答を求める場合があるため注意すること。								
担当教員の実務経験の有無		○	実務経験の具体的内容			学外での実習、フィールドワーク等を伴う授業				

尾道市立大学授業計画

授業科目名	美術表現入門			開講年次	1年	開講年度学期	2025年度後期		単位数	2単位
科目コード	G-HU-121L		担当教員名	中村 諲			担当形態	オムニバス		
【科目の位置付け】										
この授業の基礎となる科目					次に履修が望まれる科目					
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) 美術表現のみならず、広い視野に立って「表現」の意味を主体的かつ意識的に捉えられることを目標とします。 (受講生の到達目標) ・到達目標1;豊かな人間性をもとに美について思考・判断することができる。 ・到達目標2;幅広い教養を身につけることができる。 ・到達目標3;自己表現に取り組むことができる。										
【授業の概要】										
講義・実習などを通して多様な美術表現に触れてもらいながら、さまざまな手法による「表現」を知り、自己表現も試みます。										
【授業計画と授業の方法】 講義内容										
第1回 ガイダンス「講義」 第2回 日本絵画 鑑賞の楽しみ(市川)「講義」 第3回 油彩技法とその変遷(西村)「講義」 第4回 古典模写(山梨)「講義」「演習」 第5回 宗教画解説からはじめる西洋美術史入門(西嶋)「講義」 第6回 箔、砂子の話(鈴木)「講義」「演習」 第7回 水彩を知る(橋野)「講義」 第8回 映像は万能か?ーWeb CMから考えるー(黒田)「講義」 第9回 日本のグラフィックデザイン史(伊藤)「講義」 第10回 眼を 観て 描く(小野)「講義」「演習」 第11回 尾道をモチーフとした絵画作品をスライドを使って鑑賞(中村)「講義」 第12回 彫刻の素材と技法及び尾道の街中の彫刻について(桜田)「講義」 第13回 工芸とデザイン(林)「講義」 第14回 アーティスト・キュレーター(稲川)「講義」 第15回 アニメーションの世界(西原)「講義」 (授業方法) 美術学科教員によるオムニバス形式の授業です。講義形式の回は主にコメントシート、演習形式の回は主に作品の提出を求めます。										
テキスト・参考書		使用しません。								
授業時間外の学修		ありません。								
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 授業への積極的な参加や課題への真摯な取り組み(60%)授業後に提出するコメントシートへの記述や提出作品の内容(40%)を基準として総合的に評価します。 (成績評価の基準) 到達目標1;豊かな人間性をもとに美について思考・判断ができている。 到達目標2;幅広い教養を身につけることができている。 到達目標3;自己表現に取り組むことができている。								
備考		普段の生活において、身の回りにあるさまざまな物事を意識的に観察してみてください。 科目コード:G-人-1-21-L								
担当教員の実務経験の有無			☐			実務経験の具体的内容			創作活動、制作活動を行っている芸術家等による授業	

尾道市立大学授業計画

授業科目名		思考とデザイン		開講年次	1年	開講年度学期	2025年度後期		単位数	2単位
科目コード		G-HU-123L	担当教員名	黒田 教裕				担当形態	単独	
【科目の位置付け】										
この授業の基礎となる科目		美術表現入門		次に履修が望まれる科目						
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) 与えられたテーマから、ものごとに対する自身の視点を発見し、他者とのコミュニケーションを通してより良いアイデアを構築していく力を身につけることがこの授業の目的です。 (受講生の到達目標) 到達目標1:与えられたテーマと自身のアイデアを結びつけ、リアクションツールに記述することができる。 到達目標2:他者とのディスカッションを通して、より良いアイデアにし、リアクションツールやコメントで提起することができる。 到達目標3:自身でテーマを設定したレポートを作成することができる。										
【授業の概要】										
この授業は概念的なテーマからアイデアを発想し、そのアイデアとテーマの関係を見つけ、次のアイデアを発想することを反復しながら進めていきます。 発想と思考をトレーニングしていく授業形態になりますので、積極的な参加を望みます。										
【授業計画と授業の方法】 講義内容										
(授業計画) 第1回【講義】『見ると見る』団リエンテーション、授業の目的・到達目標・各回授業の内容と方法 第2回【講義】『見ると見る』<u>対</u>談回 第3回【学生発表】『見ると見る』<u>グル</u>ープディスカッションでアイデアをより良いかたちにしていく 第4回【講義】『見せると魅せる』<u>対</u>談回 第5回【講義】『見せると魅せる』<u>互</u>に見えるとはどういうことか 第6回【学生発表】『見せると魅せる』<u>互</u>ィスカッションからより良いアイデアを作っていく 第7回【講義】『他者と私』<u>対</u>談回 第8回【講義】『他者と私』<u>□</u> 第9回【学生発表】『他者と私』<u>互</u>ィスカッションからより良いアイデアを作っていく 第10回【講義】『余白と空白』<u>対</u>談回 第11回【講義】『余白と空白』<u>□</u> 第12回【学生発表】『余白と空白』<u>互</u>ィスカッションからより良いアイデアを作っていく 第13回【講義】『無知と知』<u>対</u>談回 第14回【講義】『無知と知』<u>あ</u>なたは”知らなかったこと”をどうやって知りましたか 第15回【学生発表】『無知と知』<u>互</u>ィスカッションからより良いアイデアを作っていく (授業の方法) この授業は、一つのテーマで展開する授業を3回行い、合計5つのテーマを扱う全15回の授業となります。 テーマごとに本学の他の教員を招いての対談授業を1回ずつ行う予定です。 また、3〜4名程度のグループに分かれて、ディスカッションと発表を各テーマの最終回で行います。 全ての授業回でリアクションツールを用いた課題を授業内で出題します。 上記の各テーマの内容は変更する場合があります。										
テキスト・参考書		(テキスト)適時教材を講義中に配布します。 (参考書)授業内で紹介します。								
授業時間外の学修		(事前学修) 必要に応じてテーマに関する事柄についての情報収集を行ってください。 (事後学修) 最終レポート作成の題材を探したり、テーマについてより深めた資料を探してみてください。								
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 講義内課題(リアクションツールへの記述等) 全15回: 40% 期末レポート: 60% (成績評価の基準) 到達目標1:与えられたテーマと自身のアイデアを結びつけ、リアクションツールに記述している。 到達目標2:他者とのディスカッションを通して、より良いアイデアにし、リアクションツールやコメントで提起している。 到達目標3:テーマを自身で設定し、そのテーマについて自身の考えとその根拠を示した最終レポートを作成している。								
備考		履修定員は70名です。受講者が多い場合は抽選になります。								
担当教員の実務経験の有無			☐			実務経験の具体的内容			創作活動、制作活動を行っている芸術家による授業	

尾道市立大学授業計画

授業科目名		Topics in Language, Culture, and Society		開講年次	2年	開講年度学期	2025年度前期		単位数	2単位
科目コード		G-HU-202L	担当教員名	平山 直樹、Dawn Kobayashi、KLOEPFER THOMAS				担当形態		
【科目の位置付け】										
この授業の基礎となる科目		総合英語I,II		次に履修が望まれる科目						
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) 本授業の目的は、言語・文化・社会について、英語を通して幅広い教養を身につけることを目的としています。 (授業の到達目標) 到達目標1: 多言語社会について、基礎的知識を英語で説明することができる。 到達目標2: 英語の歴史について、基礎的知識を英語で説明することができる。 到達目標3: 英文学について、基礎的知識を英語で説明することができる。										
【授業の概要】										
言語・文化・社会について、英語で講義を行う。コミュニケーション、言語の歴史、文学などのテーマを設定し、それぞれの分野における基礎的知識を教授し、講義を軸に様々な授業活動を通じて、言語・文化・社会に関わる諸問題を幅広く理解をしてもらう。										
【授業計画と授業の方法】 講義内容										
(授業計画) 1. Course introduction (講義) 〈Language & Communication〉 2. Bilingualism(1) overview (講義) 3. Bilingualism(2) social level (講義) 4. Bilingualism(3) individual level (講義) 5. Bilingualism(4) language learning (講義) 6. Review & Project/Test (講義) 〈History of Language〉 7. History of English(1) overview (講義) 8. History of English(2) early modern English (講義) 9. History of English(3) modern English (講義) 10. Review & Project/Test (講義) 〈Literature〉 11. English Literature(1) overview (講義) 12. English Literature(2) novels (講義) 13. English Literature(3) poems (講義) 14. English Literature(4) dramas (講義) 15. Review & Project/Test (講義) (授業の方法) 第2回～第5回、第7回～第9回、第11回～第14回では、スライドと配布資料にそって講義を行う。 第6回、第10回、第15回は、各テーマのレビュー及び小テストを行う。										
テキスト・参考書		なし								
授業時間外の学修		(事前学修) 配布資料を予習してください。 (事後学修) 配布資料を復習してください。								
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 授業参加30%、試験/課題70% (成績評価の基準) 到達目標1: 多言語社会について、小テスト・課題で基礎的知識を英語で適切に記述・説明している。 到達目標2: 英語の歴史について、小テスト・課題で基礎的知識を英語で適切に記述・説明している。 到達目標3: 英文学について、小テスト・課題で基礎的知識を英語で適切に記述・説明している。								
備考										
担当教員の実務経験の有無		☐	実務経験の具体的内容				ネイティブ教員による実践的な語学教育を伴う授業			

尾道市立大学授業計画

授業科目名		建築環境論		開講年次	1年	開講年度学期	2025年度前期		単位数	2単位
科目コード		G-NS-132L	担当教員名	渡邊 義孝			担当形態	単独		
【科目の位置付け】										
この授業の基礎となる科目			次に履修が望まれる科目							
【授業の目的と到達目標】										
日ごろ意識していない住まいや環境、まちなみに目を向け、生活やアートの根本にある建築空間への理解を深める。そして持続可能な社会、環境共生の具体的手法について、自分の意見を持ち実践できる主体となることを目標とする。 (受講生の到達目標) ・到達目標1:建物を目視して、その建築構法や意匠的な特徴について説明できる。 ・到達目標2:地球環境問題と建築の課題の連関を理解し、望ましい建築のあり方について自身の意見を表明できる。 ・到達目標3:尾道市内の特徴的な建築遺構やまちなみについて他者に説明できる。										
【授業の概要】										
主に住宅建築の計画と生活空間としての都市景観、建築や町を媒体とした環境共生のあり方について学ぶ。 教室での学習の他に、空き家再生に取り組むNPO等と連携しながら、尾道のまちなみや再生民家を巡るフィールドワークを取り入れ、斜面地の特異なまちなみの歴史と構成を理解し、歴史的建造物を維持、活用する方法と理論を学ぶ。 スクラップアンドビルドではない持続的な住まい観を、日本の伝統的な民家の姿に求めながら、実際に講師が関わった住宅再生の現場と、ユーラシアをはじめとした異文化圏での調査を元にして、展開する。										
【授業計画と授業の方法】 講義内容										
第 1回 尾道の都市景観(坐学講義とフィードバック) 第 2回 近代住宅建築の成立と変遷 ～洋館の誕生と尾道(坐学講義とフィードバック) 第 3回 民家から何を学ぶか(坐学講義とフィードバック) 第 4回 長江通りに見る街の形成史【まちあるきフィールドワーク1】 第 5回 アジアの住宅に見るエコロジー(坐学講義とフィードバック) 第 6回 セルフビルド住宅 ～家をつくる自由(坐学講義とフィードバック) 第 7回 海と山に刻まれた歴史を辿る【まちあるきフィールドワーク2】 第 8回 健康と建築空間 ～シックハウス問題から見えるもの(坐学講義とフィードバック) 第 9回 山手の住まいとかわるまち ～空き家再生・環境負荷と自然エネルギー(坐学講義とフィードバック) 第10回 斜面地に見る尾道の建築の多様性【まちあるきフィールドワーク3】 第11回 民家再生と耐震補強(坐学講義とフィードバック) 第12回 環境共生と持続可能性(坐学講義とフィードバック) 第13回 空き家はいかに再生されたか【まちあるきフィールドワーク4】 第14回 温熱環境と光を学ぶ(坐学講義とフィードバック) 第15回 人が生きるまちの再生へ～空き家再生と定住化をめざして(坐学講義とフィードバック)										
(授業の方法) 坐学では、プロジェクトを使用した授業とともに適宜実験や実演を行なう。フィードバックとしてリアクションペーパーに「質問・意見」等を記入し提出。必要に応じて次回授業にて講師より補足説明などを行なう。 フィールドワークでは、講師とともに実地でまちあるきを行なう。										
各回授業の事後学習にはおよそ1時間程度を必要とし、課題を課す場合は指示された宛先に指定期日までに提出すること。										
テキスト・参考書		テキスト:なし 参考書:蔵前仁一・矢津田義則・渡邊義孝『セルフビルド 家をつくる自由』(旅行人／2007年) 大西一也『すまいのかたち』(日本教育訓練センター／2011年) 渡邊義孝『台湾日式建築紀行』(KADOKAWA／2022年)								
授業時間外の学修		(事前学習)特になし (事後学習)新しい専門用語などについて自身で検索等を行なって理解を深め、学んだ内容が自分の住居や生活空間において、実際にどのように機能しているかを検証する。60分程度。								
成績評価の方法と基準		試験成績(50%)、毎回提出させるリアクションペーパーの内容(40%)、授業への意欲・姿勢(10%)の積み重ねによる総合評価。 (成績評価の基準) ・到達目標1:授業内容を理解するだけでなく、自身の経験をふまえて主体的に検証・応用する姿勢を持っている。 ・到達目標2:地球環境問題の解決に向けて、自分の言葉で建築のあり方を提案できる。 ・到達目標3: 尾道市内の特徴的な建築遺構やまちなみについて他者に説明できる。								
備考		計4回のまちあるきフィールドワークは、尾道市中心部で実施する。朝8時または10時に指定場所に集合する。 フィールドワークの訪問先の都合、天候などにより、カリキュラムの順番を入れ替えて実施する場合がある。 状況に応じて、一部または全部をオンライン(オンデマンド)形式とする場合がある。その場合は、TeamsとYouTubeを併用し、視聴後にアンケートを提出させてフィードバックを行なう。								
担当教員の実務経験の有無		○	実務経験の具体的内容			創作活動、制作活動を行っている芸術家によるフィールドワークを伴う授業				

尾道市立大学授業計画

授業科目名	総合英語1			開講年次	1年	開講年度学期	2025年度前期		単位数	2単位
科目コード	G-FL-101L		担当教員名	KLOEPFER THOMAS				担当形態	単独	
【科目の位置付け】										
この授業の基礎となる科目			次に履修が望まれる科目			総合英語II				
【授業の目的と到達目標】										
授業の目的) 話す、聞く、読む、書く能力を伸ばすことで、英語での総合的なコミュニケーション能力を向上させる。 日常的な話題 について意見を述べる能力と自信を身につけることに重点を置く。 異文化コミュニケーションと理解のための言語としての英語の役割を理解する。 (受講生の到達目標) 到達目標1:適切な文法と語彙を用いて、日常的な話題について英語で会話することができる。 到達目標2: 出来事を説明したり、意見を述べたりするパラグラフを書くことができる。 到達目標3:やさしい英語の本を読むことができる。										
【授業の概要】										
授業中に英会話スキルを学習する。英語のコミュニケーション能力を養うとともに、英語を話す自信を身につけ、異文化理解を深める。										
【授業計画と授業の方法】 講義内容 授業計画) 第1回 オリエンテーション 授業の進め方の説明。簡単な自己紹介、授業で使える英語。 第2回 'Friends & Family'のテーマで使用するフレーズと文法の紹介。 第3回 'Friends & Family'のテーマに基づいたグループディスカッション、ロールプレイ、アクティビティを行う。 宿題:テーマについて100語のパラグラフを書く。 第4回 'Hobbies & Interests'のテーマで使用するフレーズと文法の紹介。 第5回 'Hobbies & Interests'のテーマに基づいたグループディスカッション、ロールプレイ、アクティビティを行う。 宿題:テーマについて100語のパラグラフを書く。 第6回 'Food & Restaurant'のテーマで使用するフレーズと文法の紹介。 第7回 'Food & Restaurant'のテーマに基づいたグループディスカッション、ロールプレイ、アクティビティを行う。 宿題:テーマについて100語のパラグラフを書く。 第8回 'Music & Movies'のテーマで使用するフレーズと文法の紹介。スピーキングテスト練習。 ブックレポートの提出。 第 9回 'Music & Movies'のテーマに基づいたグループディスカッション、ロールプレイ、アクティビティを行う。 スピーキングテスト練習。 宿題:テーマについて100語のパラグラフを書く。 第10回 'Money & Shopping'のテーマで使用するフレーズと文法の紹介。スピーキングテスト練習。第11回 'Money & Shopping'のテーマに基づいたグループディスカッション、ロールプレイ、アクティビティを行う。 スピーキングテスト練習 宿題:テーマについて100語のパラグラフを書く。 第12回 'Travel Plans'のテーマで使用するフレーズと文法の紹介。 スピーキングテスト練習。 第13回 'Travel Plans'のテーマに基づいたグループディスカッション、ロールプレイ、アクティビティを行う。 スピーキングテスト練習。 宿題:テーマについて100語のパラグラフを書く。 第14回 スピーキングテスト:学生によるプレゼンテーション。 第15回 復習とテスト準備: 授業内容の復習、期末試験対策のサポートとフィードバック。 (授業の方法) 第1回: パワーポイントを使った授業進行の説明。授業目的についてグループディスカッション。第2回~第13回:グループ、ペア、個人の課題を通して、英語を学び、使う実践的な授業。第14回:学生によるプレゼンテーション。第15回:パワーポイントを使った復習、期末テスト対策のサポートとフィードバック。										
テキスト・参考書		なし。資料を配信します。								
授業時間外の学修		(事前学習) 配布資料を予習すること。 (事後学習) 配布資料を復習すること。 新しい語彙の意味を理解し、例文とともにノートに記録する。								
成績評価の方法と基準		(成績評価の基準) 成績評価の方法) 試験成績 =30%、ブックレポート=20%、文章作成課題 = 20%、スピーキングテスト = 3 0% 到達目標1:試験成績とスピーキングテストを評価基準とします。 到達目標2:第3回,第5回,第7回,第9回,第11回,第13回の文章作成課題を評価基準とします。 到達目標3:ブックレポートを評価基準とします。								
備考		資料の配信、課題の提出はTEAMSで行います。								
担当教員の実務経験の有無			○ 実務経験の具体的内容			ネイティブ教員による実践的な語学教育を伴う授業				

尾道市立大学授業計画

授業科目名		総合英語1		開講年次	1年	開講年度学期	2025年度前期		単位数	2単位
科目コード		G-FL-101L	担当教員名	三上 ジュディス				担当形態	単独	
【科目の位置付け】										
この授業の基礎となる科目		次に履修が望まれる科目								
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) 話す、聞く、読む、書く能力を伸ばすことで、英語での総合的なコミュニケーション能力を向上させる。日常的な話題について意見を述べる能力と自信を身につけることに重点を置く。異文化コミュニケーションと理解のための言語としての英語の役割を理解する。 (受講生の到達目標) 1. 一般的な話題について英語でコミュニケーションでできること。 2. 話す・聞く・読む・書く四つのスキルを駆使して、英語で効果的に議論できるようになる。										
【授業の概要】										
授業中に英会話スキルを学習する。英語のコミュニケーション能力を養うとともに、英語を話す自信を身に付け、異文化理解を深める。										
【授業計画と授業の方法】 講義内容										
第1回 オリエンテーション 授業の進め方の説明。簡単な自己紹介、授業で使える英語。Self introduction, interests and hobbies. 第2回 Describe your hometownのテーマに基づいたグループディスカッション、ロールプレイ、アクティビティを行う。 宿題: テーマについて100語のパラグラフを書く。 第3回 University Lifeのテーマで使用するフレーズと文法の紹介。 第4回 University Lifeのテーマに基づいたグループディスカッション、ロールプレイ、アクティビティを行う。 宿題: テーマについて100語のパラグラフを書く。 第5回 Food Cultureのテーマで使用するフレーズと文法の紹介。 第6回 Food Cultureのテーマに基づいたグループディスカッション、ロールプレイ、アクティビティを行う。 宿題: テーマについて100語のパラグラフを書く。 第7回 Travel and geographyのテーマで使用するフレーズと文法の紹介。 第8回 Travel and geographyのテーマに基づいたグループディスカッション、ロールプレイ、アクティビティを行う。 宿題: テーマについて100語のパラグラフを書く。□ 第9回 What do you think about the Olympics? のテーマで使用するフレーズと文法の紹介。 第10回 What do you think about the Olympics? のテーマに基づいたグループディスカッション、ロールプレイ、アクティビティを行う。 宿題: テーマについて100語のパラグラフを書く。 第11回 Global Culturesのテーマで使用するフレーズと文法の紹介。 第12回 Global Cultureのテーマに基づいたグループディスカッション、ロールプレイ、アクティビティを行う。 宿題: テーマについて100語のパラグラフを書く。□ 第13回 How do you declare love in other cultures? のテーマで使用するフレーズと文法の紹介。 第14回 How do you declare love in other cultures? のテーマに基づいたグループディスカッション、ロールプレイ、アクティビティを行う。 宿題: テーマについて100語のパラグラフを書く。 第15回 復習とテスト準備: 授業内容の復習、期末試験対策のサポートとフィードバック。 (授業の方法) 第1回: パワーポイントを使った授業進行の説明。授業目的についてグループディスカッション。 第2回～第13回: グループ、ペア、個人の課題を通して、英語を学び、使う実践的な授業。 第14回: パワーポイントを使った復習、期末テスト対策のサポートとフィードバック。学生によるプレゼンテーション。 第15回: 学生によるプレゼンテーション。										
テキスト・参考書		Open Voice Basic by Dr. K. Chida & Dr M. Matsuda, KGC Publishing, Published 2020 Extra Listening Workbook, KGC Publishing, Published 2022 Online resources and tools for example.								
授業時間外の学修										
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 試験成績 = 30%、ブックレポート = 20%、文章作成課題 = 20%、スピーキングテスト = 30% (成績評価の基準) 到達目標1: 試験成績とスピーキングテストの評価基準とします。 到達目標2: 第2回、第4回、第6回、第8回、第10回、第12回、第14回の文章作成課題の評価基準とします。 到達目標3: プレゼンテーションの評価基準とします。								
備考		資料の配信、課題の提出はTEAMSで行います。								
担当教員の実務経験の有無		○	実務経験の具体的内容				ネイティブ教員による実践的な語学教育を伴う授業			

尾道市立大学授業計画

授業科目名	総合英語Ⅰ			開講年次	1年	開講年度学期	2025年度前期		単位数	2単位
科目コード	G-FL-101L	担当教員名	Dawn Kobayashi				担当形態	単独		
【科目の位置付け】										
この授業の基礎となる科目		次に履修が望まれる科目				総合英語Ⅱ				
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) 話す、聞く、読む、書く能力を伸ばすことで、英語での総合的なコミュニケーション能力を向上させる。日常的な話題について意見を述べる能力と自信を身につけることに重点を置く。異文化コミュニケーションと理解のための言語としての英語の役割を理解する。										
(受講生の到達目標) 到達目標1:適切な文法と語彙を用いて、日常的な話題について英語で会話することができる。 到達目標2: 出来事を説明したり、意見を述べたりするパラグラフを書くことができる。 到達目標3: やさしい英語の本を読むことができる。										
【授業の概要】										
授業中に英会話スキルを学習する。英語のコミュニケーション能力を養うとともに、英語を話す自信を身に着け、異文化理解を深める。										
【授業計画と授業の方法】 講義内容 (授業計画) 第1回 オリエンテーション 授業の進め方の説明。簡単な自己紹介、授業で使える英語。 第2回 'Friends & Family'のテーマで使用するフレーズと文法の紹介。 第3回 'Friends & Family'のテーマに基づいたグループディスカッション、ロールプレイ、アクティビティを行う。 第4回 'Hobbies & Interests'のテーマで使用するフレーズと文法の紹介。 第5回 'Hobbies & Interests'のテーマに基づいたグループディスカッション、ロールプレイ、アクティビティを行う。 宿題:テーマについて100語のパラグラフを書く。 第6回 'Food & Restaurant'のテーマで使用するフレーズと文法の紹介。 第7回 'Food & Restaurant'のテーマに基づいたグループディスカッション、ロールプレイ、アクティビティを行う。 第8回 'Music & Movies'のテーマで使用するフレーズと文法の紹介。スピーキングテスト練習。 ブックレポートの提出。 第 9回 'Music & Movies'のテーマに基づいたグループディスカッション、ロールプレイ、アクティビティを行う。 スピーキングテスト練習。 第10回 'Money & Shopping'のテーマで使用するフレーズと文法の紹介。スピーキングテスト練習。 第11回 'Money & Shopping'のテーマに基づいたグループディスカッション、ロールプレイ、アクティビティを行う。 スピーキングテスト練習 宿題:テーマについて100語のパラグラフを書く。 第12回 'Travel Plans'のテーマで使用するフレーズと文法の紹介。 スピーキングテスト練習。 第13回 'Travel Plans'のテーマに基づいたグループディスカッション、ロールプレイ、アクティビティを行う。 スピーキングテスト練習。 第14回 スピーキングテスト:学生によるプレゼンテーション。 第15回 復習とテスト準備: 授業内容の復習、期末試験対策のサポートとフィードバック。 (授業の方法) 第1回: パワーポイントを使った授業進行の説明。授業目的についてグループディスカッション。 第2回～第13回:グループ、ペア、個人の課題を通して、英語を学び、使う実践的な授業。 第14回:学生によるプレゼンテーション。 第15回:パワーポイントを使った復習、期末テスト対策のサポートとフィードバック。										
テキスト・参考書	なし。資料を配信します。									
授業時間外の学修	(事前学習) 配布資料を予習すること。 (事後学習) 配布資料を復習すること。 新しい語彙の意味を理解し、例文とともにノートに記録する。									
成績評価の方法と基準	(成績評価の方法) 試験成績 = 30%、ブックレポート=20%、文章作成課題 = 20%, スピーキングテスト = 30% (成績評価の基準) 到達目標1:試験成績とスピーキングテストを評価基準とします。 到達目標2:第5回,第11回,の文章作成課題を評価基準とします。 到達目標3:ブックレポートを評価基準とします。									
備考	資料の配信、課題の提出はTEAMSで行います。									
担当教員の実務経験の有無	☐	実務経験の具体的内容				ネイティブ教員による実践的な語学教育を伴う授業				

尾道市立大学授業計画

授業科目名	総合英語2			開講年次	1年	開講年度学期	2025年度後期		単位数	2単位
科目コード	G-FL-102L	担当教員名	KLOEPFER THOMAS				担当形態	単独		
【科目の位置付け】										
この授業の基礎となる科目	総合英語1		次に履修が望まれる科目							
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) 話す、聞く、読む、書く能力を伸ばすことで、英語での総合的なコミュニケーション能力を向上させる。日常的な話題 について意見を述べる能力と自信を身につけることに重点を置く。異文化コミュニケーションと理解のための言語としての英語の役割を理解する。										
(受講生の到達目標) 到達目標1:適切な文法と語彙を用いて、日常的な話題について詳しく英語で会話することができる。 到達目標2: 出来事を説明したり、意見を述べたりするパラグラフを書くことができる。 到達目標3:シンプルな英語の本を読むことができる。										
【授業の概要】										
授業中に英会話スキルを学習する。英語のコミュニケーション能力を養うとともに、英語を話す自信を身に付け、異文化理解を深める。										
【授業計画と授業の方法】 講義内容										
(授業計画) 第1回 オリエンテーション 授業の進め方の説明。簡単な自己紹介、授業で使える英語。 第2回 'Fashion & Appearance' のテーマで使用するフレーズと文法の紹介。 第3回 'Fashion & Appearance' のテーマに基づいたグループディスカッション、ロールプレイ、アクティビティを行う。 宿題:テーマについて150語のパラグラフを書く。 第4回 'Directions & Getting Around' のテーマで使用するフレーズと文法の紹介。 第5回 'Directions & Getting Around' のテーマに基づいたグループディスカッション、ロールプレイ、アクティビティを行う。 宿題:テーマについて150語のパラグラフを書く。 第6回 'Health & The Doctors' のテーマで使用するフレーズと文法の紹介。 第7回 'Health & The Doctors' のテーマに基づいたグループディスカッション、ロールプレイ、アクティビティを行う。 宿題:テーマについて150語のパラグラフを書く。 第8回 'Careers & Future Plans' のテーマで使用するフレーズと文法の紹介。スピーキングテスト練習。ブックレポートの提出。 第 9回 'Careers & Future Plans' のテーマに基づいたグループディスカッション、ロールプレイ、アクティビティを行う。 スピーキングテスト練習。 宿題:テーマについて150語のパラグラフを書く。 第10回 'Past Experiences' のテーマで使用するフレーズと文法の紹介。スピーキングテスト練習。 第11回 'Past Experiences' のテーマに基づいたグループディスカッション、ロールプレイ、アクティビティを行う。スピーキングテスト練習 宿題:テーマについて150語のパラグラフを書く。 第12回 'Role Models' のテーマで使用するフレーズと文法の紹介。 スピーキングテスト練習。 第13回 ''Role Models' のテーマに基づいたグループディスカッション、ロールプレイ、アクティビティを行う。 スピーキングテスト練習。宿題:テーマについて150語のパラグラフを書く。 第14回 スピーキングテスト:学生によるプレゼンテーション。 第15回 復習とテスト準備: 授業内容の復習、期末試験対策のサポートとフィードバック。 (授業の方法) 第1回: パワーポイントを使った授業進行の説明。授業目的についてグループディスカッション。 第2回`第13回:グループ、ペア、個人の課題を通して、英語を学び、使う実践的な授業。 第14回:学生によるプレゼンテーション。 第15回:パワーポイントを使った復習、期末テスト対策のサポートとフィードバック。										
テキスト・参考書	なし。資料を配信します。									
授業時間外の学修	事前学習) 配布資料を予習すること。 (事後学習) 配布資料を復習すること。 新しい語彙の意味を理解し、例文とともにノートに記録する。									
成績評価の方法と基準	(成績評価の方法) 試験成績 =30%, ブックレポート=20%、文章作成課題 = 20%, スピーキングテスト = 3 0% (成績評価の基準) 到達目標1:試験成績とスピーキングテストを評価基準とします。 到達目標2:第3回,第5回,第7回,第9回,第11回,第13回の文章作成課題を評価基準とします。 到達目標3:ブックレポートを評価基準とします。									
備考	資料の配信、課題の提出はTEAMSで行います。									
担当教員の実務経験の有無	○	実務経験の具体的内容				ネイティブ教員による実践的な語学教育を伴う授業				

尾道市立大学授業計画

授業科目名		総合英語2		開講年次	1年	開講年度学期	2025年度後期		単位数	2単位
科目コード		G-FL-102L	担当教員名	三上 ジュディス				担当形態	単独	
【科目の位置付け】										
この授業の基礎となる科目			次に履修が望まれる科目							
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) グローバルおよび国内のビジネスシーンについて話し合う際に、英語でのコミュニケーションの自信を養うこと。新しい世界秩序の異文化理解を得る。 (受講生の到達目標) 1. 一般的な話題について英語でコミュニケーションできること。 2. 話す・聞く・読む・書く四つのスキルを駆使して、英語で効果的に議論できるようになる。										
【授業の概要】										
授業中に英会話スキルを学習する。英語のコミュニケーション能力を養うとともに、英語を話す自信を身に付け、異文化理解を深める。										
【授業計画と授業の方法】 講義内容 第1回 オリエンテーション 授業の進め方の説明。簡単な自己紹介、授業で使える英語。 第2回 Explain about Holidays: Summer Vacationsのテーマに基づいたグループディスカッション、ロールプレイ、アクティビティを行う。 宿題: テーマについて100語のバラグラフを書く。 第3回 If you were a animal...のテーマで使用するフレーズと文法の紹介。 第4回 If you were a animal...のテーマに基づいたグループディスカッション、ロールプレイ、アクティビティを行う。 宿題: テーマについて100語のバラグラフを書く。 第5回 If you lived in the past: Technology and the futureのテーマで使用するフレーズと文法の紹介。 第6回 If you lived in the past: Technology and the futureのテーマに基づいたグループディスカッション、ロールプレイ、アクティビティを行う。 宿題: テーマについて100語のバラグラフを書く。 第7回 Explain about a person who made a difference: Music and Moviesのテーマで使用するフレーズと文法の紹介。 第8回 Explain about a person who made a difference: Music and Moviesのテーマに基づいたグループディスカッション、ロールプレイ、アクティビティを行う。 宿題: テーマについて100語のバラグラフを書く。□ 第9回 If you lived in a foreign country...のテーマで使用するフレーズと文法の紹介。 第10回 If you lived in a foreign country...のテーマに基づいたグループディスカッション、ロールプレイ、アクティビティを行う。 宿題: テーマについて100語のバラグラフを書く。 第11回 Explain about Pop Culture: Art and Fashionのテーマで使用するフレーズと文法の紹介。 第12回 Explain about Pop Culture: Art and Fashionのテーマに基づいたグループディスカッション、ロールプレイ、アクティビティを行う。 宿題: テーマについて100語のバラグラフを書く。□ 第13回 What are the pros and cons of apps and social media?のテーマで使用するフレーズと文法の紹介。 第14回 What are the pros and cons of apps and social media?のテーマに基づいたグループディスカッション、ロールプレイ、アクティビティを行う。 宿題: テーマについて100語のバラグラフを書く。 第15回 復習とテスト準備: 授業内容の復習、期末試験対策のサポートとフィードバック。 (授業の方法) 第1回: パワーポイントを使った授業進行の説明。授業目的についてグループディスカッション。 第2回～第13回: グループ、ペア、個人の課題を通して、英語を学び、使う実践的な授業。 第14回: パワーポイントを使った復習、期末テスト対策のサポートとフィードバック。学生によるプレゼンテーション。 第15回: 学生によるプレゼンテーション。										
テキスト・参考書		Open Voice Intermediate by Dr. K. Chida & Dr M. Matsuda, KGC Publishing, Published 2020 Online resources and tools for example.								
授業時間外の学修										
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 試験成績 = 30%、ブックレポート = 20%、文章作成課題 = 20%、スピーキングテスト = 30% (成績評価の基準) 到達目標1: 試験成績とスピーキングテストの評価基準とします。 到達目標2: 第2回、第4回、第6回、第8回、第10回、第12回、第14回の文章作成課題の評価基準とします。 到達目標3: プレゼンテーションの評価基準とします。								
備考		資料の配信、課題の提出はTEAMSで行います。								
担当教員の実務経験の有無			○ 実務経験の具体的内容			ネイティブ教員による実践的な語学教育を伴う授業				

尾道市立大学授業計画

授業科目名	総合英語2			開講年次	1年	開講年度学期	2025年度後期		単位数	2単位
科目コード	G-FL-102L		担当教員名	Dawn Kobayashi				担当形態	単独	
【科目の位置付け】										
この授業の基礎となる科目	総合英語1		次に履修が望まれる科目							
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) 話す、聞く、読む、書く能力を伸ばすことで、英語での総合的なコミュニケーション能力を向上させる。日常的な話題について意見を述べる能力と自信を身につけることに重点を置く。異文化コミュニケーションと理解のための言語としての英語の役割を理解する。 (受講生の到達目標) 到達目標1:適切な文法と語彙を用いて、日常的な話題について詳しく英語で会話することができる。 到達目標2: 出来事を説明したり、意見を述べたりするパラグラフを書くことができる。 到達目標3: シンプルな英語の本を読むことができる。										
【授業の概要】										
授業中に英会話スキルを学習する。英語のコミュニケーション能力を養うとともに、英語を話す自信を身に着け、異文化理解を深める。										
【授業計画と授業の方法】										
講義内容										
(授業計画) 第1回 オリエンテーション 授業の進め方の説明。簡単な自己紹介、授業で使える英語。 第2回 ‘Fashion & Appearance’のテーマで使用するフレーズと文法の紹介。 第3回 ‘Fashion & Appearance’のテーマに基づいたグループディスカッション、ロールプレイ、アクティビティを行う。 第4回 ‘Directions & Getting Around’のテーマで使用するフレーズと文法の紹介。 第5回 ‘Directions & Getting Around’のテーマに基づいたグループディスカッション、ロールプレイ、アクティビティを行う。 宿題:テーマについて150語のパラグラフを書く。 第6回 ‘Health & The Doctors’のテーマで使用するフレーズと文法の紹介。 第7回 ‘Health & The Doctors’のテーマに基づいたグループディスカッション、ロールプレイ、アクティビティを行う。 第8回 ‘Careers & Future Plans’のテーマで使用するフレーズと文法の紹介。スピーキングテスト練習。 ブックレポートの提出。 第9回 ‘Careers & Future Plans’のテーマに基づいたグループディスカッション、ロールプレイ、アクティビティを行う。 スピーキングテスト練習。 第10回 ‘Past Experiences’のテーマで使用するフレーズと文法の紹介。スピーキングテスト練習。 第11回 ‘Past Experiences’のテーマに基づいたグループディスカッション、ロールプレイ、アクティビティを行う。 スピーキングテスト練習 宿題:テーマについて150語のパラグラフを書く。 第12回 ‘Role Models’のテーマで使用するフレーズと文法の紹介。 スピーキングテスト練習。 第13回 ‘Role Models’のテーマに基づいたグループディスカッション、ロールプレイ、アクティビティを行う。 スピーキングテスト練習。 第14回 スピーキングテスト:学生によるプレゼンテーション。 第15回 復習とテスト準備: 授業内容の復習、期末試験対策のサポートとフィードバック。 (授業の方法) 第1回: パワーポイントを使った授業進行の説明。授業目的についてグループディスカッション。 第2回～第13回: グループ、ペア、個人の課題を通して、英語を学び、使う実践的な授業。 第14回: 学生によるプレゼンテーション。 第15回: パワーポイントを使った復習、期末テスト対策のサポートとフィードバック。										
テキスト・参考書	なし。資料を配信します。									
授業時間外の学修	(事前学習) 配布資料を予習すること。 (事後学習) 配布資料を復習すること。 新しい語彙の意味を理解し、例文とともにノートに記録する。									
成績評価の方法と基準	(成績評価の方法) 試験成績 = 30%、ブックレポート＝20%、文章作成課題 = 20%、スピーキングテスト = 30% (成績評価の基準) 到達目標1:試験成績とスピーキングテストを評価基準とします。 到達目標2: 第5回,第11回の文章作成課題を評価基準とします。 到達目標3:ブックレポートを評価基準とします。									
備考	資料の配信、課題の提出はTEAMSで行います。									
担当教員の実務経験の有無			○	実務経験の具体的内容			ネイティブ教員による実践的な語学教育を伴う授業			

尾道市立大学授業計画

授業科目名	TOEIC1			開講年次	2年	開講年度学期	2025年度前期		単位数	2単位
科目コード	G-FL-201L		担当教員名	池森 典子				担当形態	単独	
【科目の位置付け】										
この授業の基礎となる科目		総合英語1, 2		次に履修が望まれる科目			TOEIC 2			
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) この授業ではTOEICの実践に則したテキストの問題演習やe-Learningでの学習を通して、TOEICに対応するための英語の語彙力や文法力、リスニング能力を高め、英文を正確かつスピーディーに読む読解力を身につけることを目的としています。また、テキストの各ユニットに沿って取り上げられる様々な表現や文化的背景への理解を深め、英語コミュニケーション能力・表現能力の向上を目指します。										
(受講生の到達目標) 到達目標1: TOEICの頻出語句や表現を習得し、基本的な英語を聞いたり読んだり内容を理解できる 到達目標2: ある程度まとまった内容の英語を聞いて理解し、また複数の文書を読み、関連性と内容が理解できる 到達目標3: TOEICの問題を解くためのストラテジーを習得し、実際の問題形式に対応できる										
【授業の概要】										
TOEIC (TOEIC® LISTENING AND READING TEST) は、現在日本でも多くの企業や大学で英語力判定の材料として使われています。この授業では、TOEIC新形式でよく出題される様々なパターンの問題を実際の日常生活やビジネスの場などの各テーマに沿っておこない、基本的な英語力の向上から実践力を伸ばし、TOEIC のスコア向上につなげていきます。 TOEICの頻出単語、文法項目を頻度順に学ぶことができます。また、聞き取りにくい発音や体系的なリスニング問題をディクテーションと合わせて各回継続して取り組んでいくことにより、音声や問題形式に慣れ、実際のTOEIC試験に備えスコアアップする力を養うことができます。リーディング問題については、英文を読むうえで注意すべき点を確認しながら英文を正確かつスピーディーに読む方法を実践問題を通して学んでいきます。また各ユニットのテーマ背景にある文化的な違いや表現についても説明をしていきますので、英語圏の文化的な理解を深めることができます。 TOEICの実践問題で使われる表現を積極的に使って、状況設定や文脈をくみ取りながら発音・音読練習などを行うことによりコミュニケーション能力や表現能力を高めることができます。 授業外学習では、自分のペースで効率的に進めていけるよう、テキストに連動したオンライン学習システムのTESTUDYを利用していきます。										
【授業計画と授業の方法】 講義内容										
(授業計画) 第1回 ガイダンス: Unit 1: Restaurant / 人称代名詞 (講義) 第2回 Unit 2: Entertainment / 再帰代名詞 (講義) 第3回 Unit 3: Business / 現在・過去の時制 (講義) 第4回 Unit 4: Office / 現在完了 (講義) 第5回 Unit 5: Telephone / 前置詞(時・期間) (講義) 第6回 Unit 6: Letter & E-mails / 前置詞(位置、場所) (講義) 第7回 Unit 7: Health / 数量形容詞 (講義) 第8回 まとめと中間試験 (講義、試験) 第9回 Unit 8: The Bank & The Post Office / 自動詞と他動詞 (講義) 第10回 Unit 9: New Products / 接尾辞と品詞-形容詞 (講義) 第11回 Unit 10: Travel / 接尾辞と品詞-副詞 (講義) 第12回 Unit 11: Daily Life / 分詞構文 (講義) 第13回 Unit 12: Job Applications / 比較 (講義) 第14回 Unit 13: Shopping / 受動態 (講義) 第15回 Unit 14: Education / 関係代名詞 (講義)										
(授業の方法) テキストは1回で1ユニット進みます。1ユニットはTOEICの実際の問題形式と同じようにリスニング問題とリーディング問題で構成されています。各実践問題を解きながら解答と解説を行っていきます。										
第1回目 ガイダンスでは授業の内容や進め方、TOEICについて説明をします。また内容に沿って問題演習を行っていきます。 第2-7回目、9-14回目 テキストの内容に沿って問題演習を行っていきます。リスニング問題はディクテーションも行っていきます。次回のリーディング問題は予習課題として授業の前日までに解いておいてください。(解答はMS Teamsから提出してください。)問題の解答と解説を授業内で行います。 第8回目 まとめと中間試験を行います。第1-7回の内容を復習しておいてください。 第15回目 テキストの内容に沿って問題演習を行っていきます。リスニング問題は音声聞きながらディクテーションも行っていきます。問題の解答と解説を授業内で行います。										
テキスト・参考書		テキスト: 『BEST PRACTICE FOR THE TOEIC® L&R TEST -Intermediate-』 (TOEIC® L&R TESTへの総合アプローチ -Intermediate) 2022年 ISBN 9784791972531 (吉塚 弘, Graham Skerritt, Michael Schauerte 成美堂) TESTUDY対応 参考書: TOEICテスト公式問題集 新形式問題対応編 (IIBC)								
授業時間外の学修		各回授業の事前学習に必要な時間は約30分、事後学習に必要な時間は約60分です。 <事前学修> ・テキストの各ユニットのリーディング問題を事前に解いておきます。 回答はMS Formsへ入力してください。また、分からない単語や表現があれば調べておきます。 <事後学修> 1. テキスト内容の復習 間違えたところを中心に復習をします。音声はスクリプトを見ながら聞き直します。 2. Teams内で配信される復習のための小テストを解く。 3. TESTUDYの問題を解く。(使い方については第1回目の授業で説明をします。)								
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 中間試験 (30%), 期末試験 (40%), 予習課題、各回小テスト (20%), TESTUDY及び授業への取り組み (10%) (成績評価の基準) 到達目標1: 各回小テストとSTUDY問題において8割以上正答している。 到達目標2: 予習課題で8割以上解答している。中間・期末試験において8割以上正答している。 到達目標3: TESTUDY問題と中間・期末試験において8割以上正答している。								
備考		・資料の配信、予習課題・各回小テストの提出はMS-Teamsから行います。 ・テキストと連動したe-learningシステムのTESTUDYを活用していきます。 ・MS-teamsがインストールされた大学ネットワークに接続可能なパソコンを用意してください。 ・テキストのリスニング問題の復習はテキストの自習用音声を活用してください。 ・オンライン授業の場合はMS-Teamsを用いたリアルタイム授業を行います。 ・TOEIC公開テスト、および学内でのTOEIC-IPテストの受験を推奨します。								
担当教員の実務経験の有無			○	実務経験の具体的内容			語学を活かした職業経験のある教員による実践的な語学教育を伴う授業			

尾道市立大学授業計画

授業科目名	TOEIC2			開講年次	2年	開講年度学期	2025年度後期		単位数	2単位
科目コード	G-FL-202L		担当教員名	笠本 晃代			担当形態	単独		
【科目の位置付け】										
この授業の基礎となる科目		TOEIC1		次に履修が望まれる科目			上級英語1			
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) 確かな読解能力と文法知識に基づくコミュニケーション能力を身につけることを目指します。 また、各 Lesson のリスニングに出てくる単語・熟語と構文の練習を通して、理解を深め、その内容を説明できるようになることも目指します。 (受講生の到達目標) 到達目標1:コミュニケーションの基礎レベルの文法が理解でき、英文を読解することができる。 到達目標2:リスニングの内容を説明できる。										
【授業の概要】										
テキストに沿って、1回に1レッスンずつ進めていきます。 リスニング問題に答え、読解問題を解きながら、素早く内容把握ができるようになるためのテクニックについて説明します。										
【授業計画と授業の方法】 講義内容										
(授業計画) 第 1回 講義: English Studies, オリエンテーション、授業の内容・到達目標・各回授業の内容と方法 第 2回 講義: Scheduling and Planning 第 3回 講義: Dating, Relationships, and Advice 第 4回 講義: Music and Style 第 5回 講義: Jobs and Employment 第 6回 講義: Health and Fitness 第 7回 講義: Finding Purpose and Setting Life Goals 第 8回 講義: Money and Happiness 第 9回 講義: Travel and Adventure 第10回 講義: Movies and Preferences 第11回 講義: Museums and Culture 第12回 講義: Disabilities and Access 第13回 講義: Alternative Transportation for Students and Employees 第14回 講義: Recycling, Conversation, and Industry 第15回 講義: まとめ (授業の方法) 第1回は、授業の目的・到達目標・各回授業の内容と方法を説明します。 第2回～第15回は、テキストに沿って、1回に1レッスンずつ進めていきます。										
テキスト・参考書		(テキスト) 寺西雅之・Patrick T. Dougherty 『TOEIC Test Success』南雲堂 (参考書) TOEICテスト公式問題集 新形式問題対応編 (IIBC)								
授業時間外の学修		(事前学修) 辞書を引き、付属のCDで聞き取り練習をしてください。 (事後学修) 授業後に、必ず1時間の復習をしてください。								
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 試験成績70%、授業中の発表内容30% (成績評価の基準) 到達目標1: 期末試験における語彙・文法に関する問題、および授業中の発表により評価します。 到達目標2: 期末試験におけるリスニングに関する問題、および授業中の発表により評価します。								
備考		辞書を引き、付属のCDで聞き取り練習をしておくこと。授業後に、必ず1時間の復習をすること。 ※オンライン授業に移行した場合はMS Teamsを用いたリアルタイム授業を行います。								
担当教員の実務経験の有無			○			実務経験の具体的内容			語学を活かした職業経験のある教員による実践的な語学教育を伴う授業	

尾道市立大学授業計画

授業科目名		TOEIC2		開講年次		2年		開講年度学期		2025年度後期		単位数		2単位	
科目コード		G-FL-202L		担当教員名		池森 典子						担当形態		単独	
【科目の位置付け】															
この授業の基礎となる科目		TOEIC 1		次に履修が望まれる科目				上級英語1							
【授業の目的と到達目標】															
(授業の目的) この授業ではTOEIC 1 に引き続き、TOEIC新形式問題の演習を通してTOEICに対応するための実践的な英語力を身につけることを目的としています。TOEIC 1 で習得した英語運用能力とTOEICのための攻略法を学び、より発展した実践的演習を通してTOEICの更なるスコアアップを図ることを目的とします。また、テキストの各ユニットの沿って取り上げられる様々な表現や文化的背景への理解を深め、英語コミュニケーション能力・表現能力の向上を目指します。															
(受講生の到達目標) 到達目標1:TOEICの頻出語句や表現を習得し、基本的な英語を聞いたり読んだり内容を理解できる 到達目標2:ある程度まとまった内容の英語を聞いて理解し、複数の文書を読み、関連性と内容が理解できる 到達目標3:TOEICの問題を解くためのストラテジーを習得し、実際の問題形式に対応できる															
【授業の概要】															
TOEIC (TOEIC® LISTENING AND READING TEST)は、現在日本でも多くの企業や大学で英語力判定の材料として使われています。この授業では、TOEIC 1 に引き続き、TOEIC新形式でよく出題される様々なパターンの問題を実際の日常生活やビジネスの場などの各テーマに沿っておこないます。TOEICの実践問題を体系的に解くことによって学習内容の着実な理解と定着を図るとともに、各テーマに沿った文化的な内容理解も含め、本番のTOEICテストと同様の流れの問題形式に慣れていくことができます。またこれらの演習問題を通し、語彙、文法、リスニングなどの基本的な英語力を強化し、TOEIC新形式のリスニング問題、リーディング問題に対応できる実践的な英語力を身につけていくことができます。授業での発音・音読練習などを通して英語特有の発音やリズムに慣れ、リスニングやスピーキング能力といったコミュニケーション能力を効果的に高めていくことができます。テキストの内容はTOEIC1よりも若干難易度は上がりますが、TOEIC1を履修していない人でも受講できます。															
【授業計画と授業の方法】		講 義 内 容													
(授業計画) 第 1回 ガイダンス Unit 1 : Eating Out 文法:動詞(1) (講義) 第 2回 Unit 2 : Travel 文法:動詞(2) (講義) 第 3回 Unit 3 : Amusement 文法:品詞 (講義) 第 4回 Unit 4 : Meetings 文法:分詞 (講義) 第 5回 Unit 5 : Personnel 文法:不定詞と動名詞 (1) (講義) 第 6回 Unit 6 : Shopping 文法:不定詞と動名詞 (2) (講義) 第 7回 Unit 7 : Advertisement 文法:仮定法 (講義) 第 8回 まとめと中間試験 第 9回 Unit 8 : Daily Life 文法:受動態 (講義) 第10回 Unit 9 : Office Work 文法:代名詞 (講義) 第11回 Unit 10 : Business 文法:数量詞 (講義) 第12回 Unit 11 : Traffic 文法:接続詞 (講義) 第13回 Unit 12 : Finance and Banking 文法:前置詞 (講義) 第14回 Unit 13 : Media 文法:語彙 (講義) 第15回 Unit 14 : Health and Welfare (講義)															
(授業の方法) テキストは1回で1ユニット進みます。1ユニットはTOEICの実際の問題形式と同じようにリスニング問題とリーディング問題で構成されています。各実践問題を解きながら解答と解説を行っていきます。 第1回目 ガイダンスでは授業の内容や進め方、TOEICについて説明をします。また内容に沿って問題演習を行っていきます。 第2-7回目、9-14回目 テキストの内容に沿って問題演習を行っていきます。リスニング問題はディクテーションも行っていきます。次回のリーディング問題は予習課題として授業の前日までに解いておいてください。(解答はMS Teamsから提出してください。)問題の解答と解説を授業内で行います。 第8回目 まとめと中間試験を行います。第1-7回の内容を復習しておいてください。 第15回目 テキストの内容に沿って問題演習を行っていきます。リスニング問題は音声聞きながらディクテーションも行っていきます。問題の解答と解説を授業内で行います。															
テキスト・参考書		テキスト: STEP-UP SKILLS FOR THE TOEIC® LISTENING AND READING TEST: Level 3 -Advanced- [2nd Edition] (一歩上を目指すTOEIC® LISTENING AND READING TEST: Level 3 -Advanced-[二訂版]) (北尾 泰幸, 西田 晴美, 林 姿穂, Brian Covert 編著 朝日出版社) ISBN: 978-4-255-15721-4 参考書: TOEICテスト公式問題集 新形式問題対応編 (iIBC)													
授業時間外の学修		各回授業の事前学習に必要な時間は約30分、事後学習に必要な時間は約60分です。 <事前学修> ・テキストの各ユニットのリーディング問題を事前に解いておきます。 回答はMS Formsへ入力してください。また、分からない単語や表現があれば調べておきます。 <事後学修> 1. テキスト内容の復習 間違えたところを中心に復習をします。音声はスクリプトを見ながら聞き直します。 2. Teams内で配信される復習小テストを解く。													
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 中間試験 (30%)、期末試験 (40%)、 予習課題、各回小テスト (20%)、授業への取り組み (10%) (成績評価の基準) 到達目標1:中間・期末試験において8割以上正答している。発話練習等でアウトプットが正しく出来ている。 到達目標2:予習課題、各回小テスト、中間・期末試験において8割以上正答している。 到達目標3:中間・期末試験において8割以上正答している。													
備考		・資料の配信、予習課題・各回小テストの提出はMS-Teamsから行います。 ・MS-teamsがインストールされた大学ネットワークに接続可能なパソコンを用意してください。 ・テキストのリスニング問題の復習はテキストの自習用音声を活用してください。 ・オンライン授業の場合はMS-Teamsを用いたリアルタイム授業を行います。 ・TOEIC公開テスト、および学内でのTOEIC-IPテストの受験を推奨します。													
担当教員の実務経験の有無				○		実務経験の具体的内容				語学を活かした職業経験のある教員による実践的な語学教育を伴う授業					

尾道市立大学授業計画

授業科目名	中国語1			開講年次	1年	開講年度学期	2025年度前期		単位数	2単位
科目コード	G-FL-131L		担当教員名	張 治清			担当形態	単独		
【科目の位置付け】										
この授業の基礎となる科目		中国語1		次に履修が望まれる科目						
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) この授業の目的は、初めて中国語を学習するのに必要な正しい発音、基本語彙、簡単な文法、日常会話を学ぶことです。一年間の勉強でそれぞれの基礎を身につけていただくことです。 (受講生の到達目標) 到達目標1、ピンイン、声調、子音、母音を聞き分けること、ピンイン見ながら自ら正しく発音できること、挨拶用語や基本的な短文を聞き分け、話せ、読み、書き、通訳・翻訳することができること、中国語で自己紹介ができること。 到達目標2、単位だけではなく、履修と同時に「中国語検定試験の準4級」、または「汉语水平考试(HSK)1級」に挑戦して、資格も取得する。										
【授業の概要】										
中国語を学習するのに、正しい発音を身につけることは大変大事です。また、中国語の文法を知っておく。文の構成が分かった上で、中国語で話したいことは思うように話せるように実現する。										
【授業計画と授業の方法】										
講 義 内 容										
(授業の計画) 第1回目 ①中国語に関するオリエンテーション ②授業中に使う挨拶用語の学習 ③履修学生全員の名前の中国語読みの練習 第2回目 ①中国語のピンインに関する知識の学習 ②中国語短母音(6個)の学習 ③中国語で互いに「名前」について会話する 第3回目 ①中国語子音(23個)の学習 ②子音と短母音と組み合わせる音節の練習 第4回目 ①中国語複母音(9個)・鼻母音(9個)・媒介音のつく母音(11個)の学習 ②子音と複母音・鼻母音・媒介音のつく母音と組み合わせる音節の練習 ③日常挨拶の練習 ④中国語で「小星星」の歌の練習 第5回目 ①第1課の語彙学習1 ②「動詞＋目的語」による語句作り1 ③肯定文と否定文の文型による短文作り 第6回目 ①第1課の語彙学習2 ②「動詞＋目的語」による語句作り2 ③一般疑問文の文型による短文作り 第7回目 ①第1課の総合練習 ②第2課の語彙学習1 ③「有＋目的語」による語句作り1 ④肯定文と否定文の文型による短文作り 第8回目 ①第2課の語彙学習2 ②一般疑問文の文型による短文作り ③第2課の総合練習 第9回目 ①第3課の語彙学習1 ②「是＋名詞」の肯定文と否定文の文型による短文作り 第10回目 ①第3課の語彙学習2 ②一般疑問文の文型による短文作り ③第3課の総合練習 第11回目 ①第4課の語彙学習1 ②疑問詞「什么」「几＋量詞」による短文作り 第12回目 ①第4課の語彙学習2 ②「这＋量詞」「那＋量詞」「哪＋量詞」による短文作り ③第4課の総合練習										
テキスト・参考書		劉郷英・嘉瀬達男・豊後宏記著『中国語精選サラダ』朝日出版社。 補充資料も適宜配布する。								
授業時間外の学修		(事前学修) テキストの該当語彙を予習してください。 (事後学修) 授業後に、学習したものを必ず復習してください。分からない箇所については、次回の授業で積極的に質問してください。								
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 期末試験100% (成績評価の基準) 到達目標 中国語の聴く、話す、読む、書く、通訳・翻訳することが出来る。「中国語検定試験」は年に3回、「汉语水平考试(HSK)」は年に3回あります。「中国語検定試験」の場合、準四級または四級取得していること。「汉语水平考试(HSK)」の場合、1級または2級取得していること。								
備考		各回の授業後、必ず言語環境を作ってください。一人でも喋ること、毎回授業の会話の時、語ってもらう。								
担当教員の実務経験の有無		○		実務経験の具体的内容			ネイティブ教員による実践的な語学教育を伴う授業			

尾道市立大学授業計画

授業科目名	中国語2			開講年次	1年	開講年度学期	2025年度後期		単位数	2単位
科目コード	G-FL-132L		担当教員名	張 治清			担当形態	単独		
【科目の位置付け】										
この授業の基礎となる科目		中国語1		次に履修が望まれる科目						
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) この授業の目的は、中国語Ⅰを履修して、引き続き中国語を学習するのに必要な正しい発音、基本語彙、簡単な文法、日常会話を学ぶことです。一年間の勉強でそれぞれの基礎を身につけていただくことです。 (受講生の到達目標) 到達目標1、日常会話ができる、聴く、話す、読む、書く、通訳・翻訳することが出来る。 到達目標2、単位だけではなく、履修と同時に「中国語検定試験の四級」、または「汉语水平考试 (HSK) 2級」に挑戦して、資格も取得する。										
【授業の概要】										
引き続き中国語を学習するのに必要な基本語彙、文法を深く理解して、運用する。また、発音、文法の他、日本人と中国人の会話習慣の違いを会話練習と同時に紹介する。										
【授業計画と授業の方法】 講義内容 (授業の計画) 1回目 ①期末試験まとめ ②第6課の語彙学習1 ③「名詞＋的＋名詞」による短文作り。 2回目 ①第6課の語彙学習2 ②「形容詞＋的＋名詞」による短文作り ③「動詞句＋名詞」による短文作り 3回目 ①第6課の総合練習 ②第7課の語彙学習1 ③「主語＋在＋場所」による肯定と否定の短文作り 4回目 ①第7課の語彙学習2 ②「主語＋在＋場所」による一般疑問文の短文作り 5回目 ①第7課の総合練習 ②第8課の語彙学習1 ③「場所＋有＋目的語」による肯定と否定の短文作り 6回目 ①第8課の語彙学習2 ②「場所＋有＋目的語」による一般疑問文の短文作り 7回目 ①第8課の総合練習 ②第9課の語彙学習1 ③時間表現①の学習 8回目 ①第9課の語彙学習2 ②時間表現②の学習 9回目 ①第9課の総合練習 ②第10課の語彙学習1 ③「動詞＋過＋目的語」による肯定と否定の短文作り 10回目 ①第10課の語彙学習2 ②「動詞＋過＋目的語」による一般疑問文の短文作り 11回目 ①第10課の総合練習 ②第11課の語彙学習1 ③「動詞＋了」による肯定と否定の短文作り 12回目 ①第11課の語彙学習2 ②「動詞＋了」による一般疑問文の短文作り 13回目 ①第11課の総合練習 ②第12課の語彙学習1 ③助動詞の学習1 14回目 ①第12課の語彙学習2 ②助動詞の学習2 ③第12課の総合練習 15回目 期末試験用準備 期末試験 (授業の方法) 授業は15回全部、各授業に板書でポイントを細かく説明する。各課にある練習問題を一人ずつ朗読させ、発表させる。										
テキスト・参考書		劉鄧英・嘉瀬達男・豊後宏記著『中国語精選サラダ』朝日出版社。 補充資料を適宜配布する。								
授業時間外の学修		(事前学修) テキストの該当内容を予習してください。 (事後学修) 授業後、学習した内容を必ず復習してください。分からない箇所については、次回の授業で積極的に質問してください。								
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 期末試験100% (成績評価の基準) 到達目標 中国語の聴く、話す、読む、書く、通訳・翻訳することが出来る。特に「中国検定試験」に挑戦して、準四級または四級取得していること。または、「汉语水平考试 (HSK)」の1級または2級取得していること。								
備考		各回の授業後、必ず言語環境を作ってください。一人でも喋ること、毎回授業の会話の時、語ってもらう。								
担当教員の実務経験の有無			○			実務経験の具体的内容			ネイティブ教員による実践的な語学教育を伴う授業	

尾道市立大学授業計画

授業科目名		海外語学実践1		開講年次	1年	開講年度学期	2025年度前期		単位数	2単位
科目コード		G-FL-151L	担当教員名	Dawn Kobayashi、高垣 俊之				担当形態	単独	
【科目の位置付け】										
この授業の基礎となる科目			次に履修が望まれる科目							
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) 外国語によるコミュニケーション能力を身につけ、多様な価値や文化に対する理解を深めることを目的とします。併せて、主体的に異文化の中で生じる日常の問題に取り組むことができることを目指します。 (受講生の到達目標) 到達目標1:外国語で日常の会話をすることができる。 到達目標2:多様な価値や文化について説明することができる。 到達目標3:異文化の中で適切な行動をとることができる。										
【授業の概要】										
外国語のコミュニケーション能力を実践を通して伸ばすとともに、異文化理解を深めます。事前指導では研修の心構えや現地の文化や生活習慣などについて学びます。現地では集中プログラムの中で目標言語や文化を体験ベースで学習します。事後研修では、現地での学びを定着する活動を行います。										
【授業計画と授業の方法】 講義内容										
(授業計画)*大学が実施する語学研修に参加する場合 事前指導:(5回〜10回)渡航情報・注意、現地の習慣・文化、現地プログラムの説明、ホームステイの心構え、渡航手続き、etc. 現地研修:(2週間〜4週間) 事後指導: 現地での学習・体験の振り返り、報告書の作成、etc. 報告会 (授業の方法) 事前指導:資料を用いて説明します。 現地研修:現地のプログラムの中で学習します。 事後指導:現地研修での学びや体験を振り返ります。 *個人で海外語学研修を行う場合は学生便覧をご参照ください。										
テキスト・参考書		プリント								
授業時間外の学修		(事前学修) プリント等の配布資料を読んでください。 (事後学修) プリント等の配布資料を復習してください。								
成績評価の方法と基準		成績評価の方法) 現地教育機関の成績(60%)と事前・事後指導(40%) (成績評価の基準) 到達目標1:外国語の会話能力については、研修プログラムの成績を評価基準とします。 到達目標2:多様な価値や文化については、研修プログラムの成績を評価基準とします。 到達目標3:異文化における適切な行動については、事前・事後研修の提出物を評価基準とします。								
備考										
担当教員の実務経験の有無			☐	実務経験の具体的内容			海外での実習、フィールドワーク等を伴う授業			

尾道市立大学授業計画

授業科目名		海外語学実践2		開講年次	1年	開講年度学期	2025年度前期		単位数	2単位
科目コード		G-FL-251L	担当教員名	Dawn Kobayashi、高垣 俊之				担当形態	単独	
【科目の位置付け】										
この授業の基礎となる科目		海外語学実践1	次に履修が望まれる科目							
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) 外国語によるコミュニケーション能力を身につけ、多様な価値や文化に対する理解を深めることを目的とします。併せて、主体的に異文化の中で生じる日常の問題に取り組むことができることを目指します。 (受講生の到達目標) 到達目標1:外国語で日常の会話をすることができる。 到達目標2:多様な価値や文化について説明することができる。 到達目標3:異文化の中で適切な行動をとることができる。										
【授業の概要】										
外国語のコミュニケーション能力を実践を通して伸ばすとともに、異文化理解を深めます。事前指導では研修の心構えや現地の文化や生活習慣などについて学びます。現地では集中プログラムの中で目標言語や文化を体験ベースで学習します。事後研修では、現地での学びを定着する活動を行います。										
【授業計画と授業の方法】 講義内容										
(授業計画)*大学が実施する語学研修に参加する場合 事前指導:(5回～10回)渡航情報・注意、現地の習慣・文化、現地プログラムの説明、ホームステイの心構え、渡航手続き、etc. 現地研修:(2週間～4週間) 事後指導:現地での学習・体験の振り返り、報告書の作成、etc. 報告会 (授業の方法) 事前指導:資料を用いて説明します。 現地研修:現地のプログラムの中で学習します。 事後指導:現地研修での学びや体験を振り返ります。 *個人で海外語学研修を行う場合は学生便覧をご参照ください。										
テキスト・参考書		プリント								
授業時間外の学修		(事前学修) プリント等の配布資料を読んでください。 (事後学修) プリント等の配布資料を復習してください。								
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 現地教育機関の成績(60%)と事前・事後指導(40%) (成績評価の基準) 到達目標1:外国語の会話能力については、研修プログラムの成績を評価基準とします。 到達目標2:多様な価値や文化については、研修プログラムの成績を評価基準とします。 到達目標3:異文化における適切な行動については、事前・事後研修の提出物を評価基準とします。								
備考										
担当教員の実務経験の有無			○	実務経験の具体的内容			海外での実習、フィールドワーク等を伴う授業			

尾道市立大学授業計画

授業科目名		行政法		開講年次	3年	開講年度学期	2025年度前期		単位数	2単位
科目コード		E-MN-311L	担当教員名	檜垣 宏太				担当形態	単独	
【科目の位置付け】										
法律学の中では、憲法や刑法などの公法に分類される者である。公務員、とりわけ一般行政職を目指す学生にとっては、必須の科目といことができる。										
この授業の基礎となる科目		日本国憲法		次に履修が望まれる科目			民法			
【授業の目的と到達目標】										
特に初見の個別法を読み解くことができ、行政法における法的事案処理の仕方がわかるようになること。										
【授業の概要】										
法律学科目の中でも行政法は難しいと言われるが、全くそんなことはない。むしろ、複数の個別法を横断的に考察して一般原則を導出する必要上、もっとも常識的判断が用いられる科目であって、その意味ではとつきやすい科目である。そして、基本書の抽象的な理論体系が最初の躓きの石になっていると考えられるため、講義は基本的に具体的な判例をベースに質疑応答の形で行う予定である。事前に配布される判例を読んで来ることが望ましい。										
【授業計画と授業の方法】 講義内容										
第1回 イントロダクション 第2回 裁量がないパターン（ストロングライフ事件） 第3回 裁量があるパターン（呉市教研集会事件） 第4回 政治的空間①（岩沼市議会事件） 第5回 政治的空間②（泉佐野市民会館事件） 第6回 都市①（山本理顕、丹下健三、柳田国男ほか） 第7回 都市②（山本理顕、丹下健三、柳田国男ほか） 第8回 都市③（広尾総合設計許可事件①） 第9回 都市④（広尾総合設計許可事件②） 第10回 公共空間の物的規律①（浦安ヨット事件） 第11回 公共空間の物的規律②（国鉄松山駅前事件） 第12回 直接的領域規律①（オウム真理教解散請求事件） 第13回 直接的領域規律②（もんじゅ事件） 第14回 領域上の擬制的公共空間①（温泉津温泉事件） 第15回 領域上の擬制的公共空間②（旧高根町水道条例事件） ※なお、進度により内容を調整する場合がある。										
テキスト・参考書		【テキスト】荒木尚志=森田宏樹編集代表『ポケット六法』（有斐閣、2024年）【参考書】興津征雄『行政法Ⅰ』（新世社、2024）、木庭顕『笑うケースメソッドⅡ 現代日本公法の基礎を問う』（勁草書房、2017）、斎藤誠＝山本隆司編『行政判例百選Ⅰ・Ⅱ』（第8版）』（有斐閣、2022）								
授業時間外の学修		事前の予習で判例を読むこと：1時間程度 事後の復習：必要に応じて								
成績評価の方法と基準		期末試験100％（講義で扱った事項についておおむね理解できているかを問う）								
備考										
担当教員の実務経験の有無			○			実務経験の具体的内容			弁護士としての勤務経歴を持つ教員による実践的な授業	

尾道市立大学授業計画

授業科目名		ビジネス英語		開講年次	2年	開講年度学期	2025年度後期		単位数	2単位
科目コード		E-CS-207L		担当教員名	三上 ジュディス				担当形態	単独
【科目の位置付け】										
この授業の基礎となる科目		TOEIC1		次に履修が望まれる科目			TOEIC2			
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) グローバルおよび国内のビジネストピックについて話し合う際に、英語でのコミュニケーションの自信を養うこと。新しい世界秩序の異文化理解を得る。 (受講生の到達目標) 1. 一般的な話題について英語でコミュニケーションできること。 2. 話す・聞く・読む・書く四つのスキルを駆使して、英語で効果的に議論できるようになる。										
【授業の概要】										
授業中に英会話スキルを学習する。英語のコミュニケーション能力を養うとともに、英語を話す自信を身に着け、異文化理解を深める。										
【授業計画と授業の方法】 講義内容										
第1回 オリエンテーション 授業の進め方の説明。簡単な自己紹介、授業で使える英語。 第2回 New business order post-pandemicのテーマに基づいたグループディスカッション、ロールプレイ、アクティビティを行う。 宿題: テーマについて100語のバラグラフを書く。 第3回 Entrepreneurial Cultureのテーマで使用するフレーズと文法の紹介。 第4回 Entrepreneurial Cultureのテーマに基づいたグループディスカッション、ロールプレイ、アクティビティを行う。 宿題: テーマについて100語のバラグラフを書く。 第5回 Business Start-upsのテーマで使用するフレーズと文法の紹介。 第6回 Business Start-upsのテーマに基づいたグループディスカッション、ロールプレイ、アクティビティを行う。 宿題: テーマについて100語のバラグラフを書く。 第7回 Developing a strategic planのテーマで使用するフレーズと文法の紹介。 第8回 Developing a strategic planのテーマに基づいたグループディスカッション、ロールプレイ、アクティビティを行う。 宿題: テーマについて100語のバラグラフを書く。□ 第9回 Marketing and financeのテーマで使用するフレーズと文法の紹介。 第10回 Profiles of 21st century companiesのテーマに基づいたグループディスカッション、ロールプレイ、アクティビティを行う。 宿題: テーマについて100語のバラグラフを書く。 第11回 Innovation and technologyのテーマで使用するフレーズと文法の紹介。 第12回 Innovation and technologyのテーマに基づいたグループディスカッション、ロールプレイ、アクティビティを行う。 宿題: テーマについて100語のバラグラフを書く。□ 第13回 Writing a deckのテーマで使用するフレーズと文法の紹介。 第14回 Skills for Doing a pitchのテーマに基づいたグループディスカッション、ロールプレイ、アクティビティを行う。 宿題: テーマについて100語のバラグラフを書く。 第15回 復習とテスト準備: 授業内容の復習、期末試験対策のサポートとフィードバック。 (授業の方法) 第1回: パワーポイントを使った授業進行の説明。授業目的についてグループディスカッション。 第2回～第13回: グループ、ペア、個人の課題を通して、英語を学び、使う実践的な授業。 第14回: パワーポイントを使った復習、期末テスト対策のサポートとフィードバック。学生によるプレゼンテーション。 第15回: 学生によるプレゼンテーション。										
テキスト・参考書		Fundamentals of Digital Transformation for Discussion, Kaigai Connection, Published 2022 Online resources and tools for example.								
授業時間外の学修										
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 試験成績＝30%、ブックレポート＝20%、文章作成課題＝20%、スピーキングテスト＝30% (成績評価の基準) 到達目標1: 試験成績とスピーキングテストの評価基準とします。 到達目標2: 第2回、第4回、第6回、第8回、第10回、第12回、第14回の文章作成課題の評価基準とします。 到達目標3: プレゼンテーションの評価基準とします。								
備考		資料の配信、課題の提出はTEAMSで行います。								
担当教員の実務経験の有無			○ 実務経験の具体的内容			ネイティブ教員による実践的な語学教育を伴う授業				

尾道市立大学授業計画

授業科目名		租税論		開講年次	2年	開講年度学期	2025年度後期		単位数	2単位
科目コード		E-MN-210L	担当教員名	前田 謙二			担当形態	単独		
【科目の位置付け】										
この授業の基礎となる科目		簿記入門		次に履修が望まれる科目			税務会計論			
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) この授業の目的は、所得税法の問題を中心に租税法の基本的な考え方を理解することで、現代国家の財政を賄う税金の仕組みを理解をすることになります。ただ、現行税制の理解だけではなく現在の問題点も把握し、それに対して自分の考えを持てるようになることも目指します。 (受講生の到達目標) 到達目標1: 租税法の基本的な仕組みを説明できる。 到達目標2: 所得税法の基本的な仕組みを説明できる。 到達目標3: 所得税法の基本的な問題点について論じることができる。										
【授業の概要】										
最も身近な所得税法の問題を中心に、現行租税制度や所得税法の仕組みを体系的に理解します。出来るだけ、具体的な事例から理論的な理解へと講義を展開していきます。租税法の入門ですので、あまり法律の条文にこだわらず内容の理解や問題点を考えることを重視します。授業の予習として、参考書の税務大学校講本などの該当部分を読むことが効果的です。										
【授業計画と授業の方法】 講義内容										
(授業計画) 第 1回 日本の財政と税制の概略【講義】□ 第 2回 税法の基本概念と年末調整(演習)□ 第 3回 現行所得税の仕組み【講義・フィードバック】□ 第 4回 所得の概念(講義・課題・フィードバック)□ 第 5回 課税単位(講義・課題・フィードバック)□ 第 6回 所得税額算出手順の概観と利子・配当所得(講義・課題・フィードバック)□ 第 7回 譲渡所得(趣旨・課税範囲)(講義・課題・フィードバック)□ 第 8回 譲渡所得(計算方法・課税方法)(講義・課題・フィードバック)□ 第 9回 給与所得と退職所得(講義・課題・フィードバック)□ 第10回 事業所得(意義と範囲)と不動産所得(講義・課題・フィードバック) 第11回 事業所得(計算方法・課税方法)と一時所得と雑所得(講義・課題・フィードバック)□ 第12回 所得計算の通則(講義・課題・フィードバック)□ 第13回 収入金額と必要経費【講義・課題・フィードバック】□ 第14回 所得の人的帰属(講義・課題・フィードバック)□ 第15回 所得税額の計算(講義・課題・フィードバック) (授業の方法) 各回授業は、事前に配布したレジメに基づいて行います。講義において、説明時に「なぜ」であろうというようにできるだけ問いを投げかけますので、一緒に考えてください。また、各レジメの最後に練習問題があります。次回の講義では復習をかねて前回の練習問題の解答を解説してから、次の講義を進めていきます。										
テキスト・参考書		(テキスト) テキストとしては、谷口勢津夫ほか『基礎から学べる租税法(第3版)』(弘文堂、2022)を指定しますが、講義の予習復習に主に利用ください。講義自体は配布したレジメで行ないます(teamsを通じて事前に配付)。 なお、所得税法の条文など参考資料が入手できるホームページは講義の中で紹介します。 (参考書) 税務大学校講本(所得税法令和5年度版(https://www.nta.go.jp/about/organization/ntc/kohon/syotoku/mokuji.htm))は無料で入手できます。その他法律の条文集としては、中里実ほか『租税法判例六法(第6版)』(有斐閣、2023)があり、より深く理解するには、佐藤英明『ブレップ租税法(第4版)』(弘文堂、2021)や佐藤英明『スタンダード所得税法(第4版)』(弘文堂、2024)も参考になります。								
授業時間外の学修		(事前学修) 事前に配布している講義資料を、参考図書も参考に読むことにより予習をしてください。 (事後学修) 講義資料を参考にして、講義資料にある練習問題に取り組んでください。また、次回講義時の復習や練習問題の解説で誤った箇所に対する理解に努め、再度復習してください。								
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 期末試験の成績(100%)で評価します。□ (成績評価の基準) 到達目標1: 租税法の基本的な仕組みを問う問題について正しく答えることができる。 到達目標2: 所得税法に関する基本的な仕組みを問う問題について正しく答えることができる。 到達目標3: 所得税法(租税法全般を含む)の問題点について、論述でき自分の意見を説明することができる。								
備考		講義内容については、若干の変更もあり得ます(広島国税局幹部による特別講義など)。□ 所得税法の細部にこだわらず、全体的な考え方を理解してください。								
担当教員の実務経験の有無		○	実務経験の具体的内容				税理士である教員による授業			

尾道市立大学授業計画

授業科目名		税務会計論		開講年次	3年	開講年度学期	2025年度前期		単位数	2単位
科目コード		E-MN-306L	担当教員名	前田 謙二				担当形態	単独	
【科目の位置付け】										
この授業の基礎となる科目		簿記入門、商業簿記、企業法、財務諸表論、租税論		次に履修が望まれる科目			特になし			
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) この授業の目的は、法人税法の問題(国際税務を含む)を中心に、法人税法の基本的な仕組みを理解することで、現在経済活動の中心である法人の活動原理を法人税法の観点から理解することになります。ただ、現行税制の理解だけではなく、現在の問題点も把握し、それに対して自分の考えを持てるようになることも目指します。□ (受講生の到達目標) 到達目標1:法人税法の基本的な仕組みを説明できる。 到達目標2:国際課税に関する税法の仕組みを説明できる。 到達目標3:法人税法(国際課税を含む)の基本的な問題点について論じることができる。										
【授業の概要】										
会計や会社法の知識をベースに、法人税法の仕組みを体系的に理解します。今後の経済の更なる国際化も考慮して、国際課税の仕組みも講義内容に含めます。出来るだけ、具体的な事例から理論的な理解へと講義を展開していきますので、あまり法律の条文にこだわらず、内容の理解や問題点を考えることを重視します。授業の予習として、参考書の税務大学校講本などの該当部分を読むことが効果的です。										
【授業計画と授業の方法】 講義内容										
(授業計画) 第1回 租税法基礎理論【講義】□ 第2回 法人税法の特徴 [所得税法との比較・近年のトレンド](講義・課題・フィードバック)□ 第3回 納税義務者と課税範囲(講義・課題・フィードバック)□ 第4回 所得計算の通則 [確定決算主義・公正処理基準・別段の定め](講義・課題・フィードバック)□ 第5回 益金(講義・課題・フィードバック)□ 第6回 損金(講義・課題・フィードバック)□ 第7回 資本等取引等(講義・課題・フィードバック)□ 第8回 寄附金課税等(講義・課題・フィードバック)□ 第9回 欠損金控除(講義・課題・フィードバック)□ 第10回 組織再編税制(講義・課題・フィードバック)□ 第11回 連結納税とグループ税制(講義・課題・フィードバック) 第12回 国際課税の仕組み(講義・課題・フィードバック) 第13回 外国法人課税【講義・課題・フィードバック】□ 第14回 租税条約(講義・課題・フィードバック)□ 第15回 国際的租税回避事例【講義・課題・フィードバック】□ (授業の方法) 各回授業は、事前に配布したレジメに基づいて行います。講義において、説明時に「なぜ」でしょうというようにできるだけ問いを投げかけますので、一緒に考えてください。また、各レジメの最後に練習問題があります。次の講義では復習をかねて前回の練習問題の解答を解説してから、次の講義を進めていきます。										
テキスト・参考書		(テキスト) テキストとしては、谷口勢津夫ほか『基礎から学べる租税法(第3版)』(弘文堂、2022)を指定しますが、講義の予習復習に主に利用ください。講義自体は配布したレジメで行ないます(teamsを通じて事前に配付)。 なお、法人税法や租税条約の条文など参考資料が入手できるホームページは講義の中で紹介します。 (参考書) 税務大学校講本(法人税法令和5年度版(https://www.nta.go.jp/about/organization/ntc/kohon/houjin/mokuji.htm))は無料で入手できます。その他法律の条文集として、中里実ほか『租税法判例六法(第6版)』(有斐閣、2023)があり、より深く理解するには渡辺徹也『スタンダード法人税法(第3版)』(弘文堂、2023)も参考になります。								
授業時間外の学修		(事前学修) 事前に配布している講義資料を、参考図書も参考に読むことにより予習をしてください。 (事後学修) 講義資料を参考にして、講義資料にある練習問題に取り組んでください。また、次回講義時の復習や練習問題の解説で誤った箇所に対する理解に努め、再度復習してください。								
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 期末試験の成績(100%)で評価します。□ (成績評価の基準) 到達目標1:法人税法の基本的な仕組みを問う問題について正しく答えることができる。 到達目標2:国際課税に関する税法の仕組みを問う問題について正しく答えることができる。 到達目標3:法人税法(国際課税を含む)の問題点について、論述でき自分の意見を説明することができる。								
備考		講義内容については、若干の変更もあり得ます。□ 法人税法の細部にこだわらず、全体的な考え方を理解してください。								
担当教員の実務経験の有無		○	実務経験の具体的内容				税理士である教員による授業			

尾道市立大学授業計画

授業科目名		プログラミング1			開講年次	1年	開講年度学期	2025年度後期		単位数	2単位
科目コード		E-IN-104L		担当教員名	有吉 勇介				担当形態	メディア授業	
【科目の位置付け】											
教員の免許状取得のための選択科目 科目区分・・・教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報） 施行規則に定める科目区分又は事項等・・・コンピュータ・情報処理（実習を含む。）											
この授業の基礎となる科目		情報活用基礎Ⅰ		次に履修が望まれる科目				プログラミング2			
【授業の目的と到達目標】											
(授業の目的) 簡単なプログラムを読んで理解し、説明できるようになる。プログラミングの基本事項を理解し、簡単な説明ができるようになる。											
(受講生の到達目標) 到達目標1: 入出力や基本的な制御構造(順次、分岐、繰り返し)などのプログラムの流れを説明できるようになる。 到達目標2: 変数や型、配列などの基本的なデータ構造を説明できるようになる。 到達目標3: メソッドなどによるプログラムの部品化について説明できるようになる。 到達目標4: プログラムの流れを簡条書きやフローチャート等で設計できるようになる。 到達目標5: 簡単なプログラムを作成できるようになる。											
【授業の概要】											
現在、ほとんどのソフトウェアはCやJavaなどの手続き型という種類のプログラミング言語で作成されています。この授業では、手続き型言語によるプログラム作成のための基本事項や文法等について学びます。											
【授業計画と授業の方法】		講 義 内 容									
(授業計画) 第 1回 プログラミング入門(講義、演習) 第 2回 変数と型(講義、演習) 第 3回 式と代入、計算と演算子(講義、演習) 第 4回 条件と分岐1:if文の基本(講義、演習) 第 5回 条件と分岐2:複雑な選択(講義、演習) 第 6回 繰り返し1:while文(講義、演習) 第 7回 繰り返し2:for文(講義、演習) 第 8回 フローチャート(講義、演習) 第 9回 配列(講義、演習) 第10回 プログラムの部品化、メソッド1:呼出しと引数(講義、演習) 第11回 プログラムの部品化、メソッド2:戻り値(講義、演習) 第12回 ファイル入出力(講義、演習) 第13回 データ構造とアルゴリズムの基礎1:ソート(講義、演習) 第14回 データ構造とアルゴリズムの基礎2:探索(講義、演習) 第15回 応用とまとめ(講義、演習)											
(授業の方法) 授業は15回全て、講義動画の視聴によるオンデマンド方式で行う。各自で講義動画を視聴し、毎回の課題を行ない提出します。講義資料は事前にMoodle等で配るので、テキストと合わせて事前学習に役立てて下さい。											
テキスト・参考書		資料(スライド)を配布します。 (参考書) 『新・明解 Java入門 第2版』柴田 望洋, SBクリエイティブ									
授業時間外の学修		(事前学修) 授業資料を確認し、学習内容を把握しておいて下さい。 (事後学修) 授業で取り上げた練習課題を完成させ、期限までに指定の場所に提出して下さい。									
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 毎週の課題:約50%程度 期末試験:約50%程度 (成績評価の基準) 目標1: 授業で提示した、入出力や基本的な制御構造(順次、分岐、繰り返し)などのプログラムの流れを説明できる。 目標2: 授業で提示した、変数や型、配列などの基本的なデータ構造を説明できる。 目標3: 授業で提示した、メソッドなどによるプログラムの部品化について説明できる。 目標4: プログラムの流れを簡条書きやフローチャート等で設計できるようになる。 目標5: 授業で行った練習問題等の簡単なプログラムを自力で作成できる。									
備考		原則、プログラミングⅠ実習と同時受講して下さい。 プログラミングⅠ実習でしっかり復習して下さい。									
担当教員の実務経験の有無			○			実務経験の具体的内容			企業でのシステム設計に関わったことのある教員による授業		

尾道市立大学授業計画

授業科目名	プログラミング1実習			開講年次	1年	開講年度学期	2025年度後期		単位数	1単位
科目コード	E-IN-105P		担当教員名	有吉 勇介				担当形態	単独	
【科目の位置付け】										
教員の免許状取得のための必修科目 科目区分・・・教科及び教科の指導法に関する科目(高等学校 情報) 施行規則に定める科目区分又は事項等・・・コンピュータ・情報処理(実習を含む。)										
この授業の基礎となる科目			次に履修が望まれる科目				プログラミング2実習			
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) 手続き型言語で簡単なプログラムを作成できるようになる。 (受講生の到達目標) 到達目標1: 入出力や基本的な制御構造(順次、分岐、繰り返し)などを適切に組み合わせることができる。 到達目標2: 変数や型、配列などの基本的なデータ構造を適切に用いることができる。 到達目標3: メソッドなどによるプログラムの部品化を適切にできる。 到達目標4: 簡単なプログラムを作成できるようになる。										
【授業の概要】										
コンピュータに意図した作業を行わせるために、処理の流れを考え、それに基づきプログラムを作成できるようになることを目指します。										
【授業計画と授業の方法】 講義内容										
(授業計画) 第1回 プログラミング入門(講義、演習) 第2回 変数と型(講義、演習) 第3回 式と代入、計算と演算子(講義、演習) 第4回 条件と分岐1: if文の基本(講義、演習) 第5回 条件と分岐2: 複雑な選択(講義、演習) 第6回 繰り返し1: while文(講義、演習) 第7回 繰り返し2: for文(講義、演習) 第8回 フローチャート(講義、演習) 第9回 配列(講義、演習) 第10回 プログラムの部品化、メソッド1: 呼出しと引数(講義、演習) 第11回 プログラムの部品化、メソッド2: 戻り値(講義、演習) 第12回 ファイル入出力(講義、演習) 第13回 データ構造とアルゴリズムの基礎1: ソート(講義、演習) 第14回 データ構造とアルゴリズムの基礎2: 探索(講義、演習) 第15回 最終課題の口頭発表(演習) (授業の方法) 基本的に各回の授業は、簡単な講義・説明のあと、演習課題に取り組む。 授業資料は事前にMoodle等で配るので、テキストと合わせて事前学習に役立てること。										
テキスト・参考書		資料(スライド)を配布します。 (参考書) 『新・明解 Java入門 第2版』柴田 望洋, SBクリエイティブ								
授業時間外の学修										
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 毎週の課題: 約50%程度 期末課題: 約50%程度 (成績評価の基準) 目標1: 入出力や基本的な制御構造(順次、分岐、繰り返し)などを適切に組み合わせることができる。 目標2: 変数や型、配列などの基本的なデータ構造を適切に用いることができる。 目標3: メソッドなどによるプログラムの部品化が適切にできる。 目標4: 簡単なプログラムを作成できるようになる。								
備考		原則プログラミング1と同時受講すること								
担当教員の実務経験の有無			○			実務経験の具体的内容			企業でのシステム設計に関わったことのある教員による授業	

尾道市立大学授業計画

授業科目名		情報システム設計実習		開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講年度学期	2025年度前期		単位数	1単位
科目コード		E-IN-304P	担当教員名	有吉 勇介			担当形態	単独		
【科目の位置付け】										
この授業の基礎となる科目		プログラミングⅠ実習・Ⅱ実習 情報活用基礎Ⅰ・Ⅱ		次に履修が望まれる科目			データベース			
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) 情報システムの分析設計プロセスを理解し、UML図の作成と説明ができるようになる。										
(受講生の到達目標) 小規模な情報システムの設計仕様書を作成するために、 1: UMLの各図を作成できるようになる。 2: 情報システムの分析設計プロセスを理解し、それに沿って情報システムの設計ができるようになる。										
【授業の概要】										
この実習では1つの簡単な情報システムを題材として、その設計仕様書を半期を通して作成します。毎回の実習では情報システム設計論で説明した分析設計のステップを題材のシステムに対して行います。具体的には、プログラムの設計図であるUML図をPC上のUMLソフトで作成します。最終レポートでは題材としているシステムの設計仕様書を作成します。										
【授業計画と授業の方法】 講義内容										
(授業計画) 第 1回 ユースケース図(講義、演習) 第 2回 イベントフローとシナリオ(講義、演習) 第 3回 アクティビティ図(講義、演習) 第 4回 画面スケッチ、画面遷移図(講義、演習) 第 5回 オブジェクト図(講義、演習) 第 6回 ロバストネス図、シーケンス図(講義、演習) 第 7回 コミュニケーション図(講義、演習) 第 8回 統合クラス図、ライフサイクル分析図(講義、演習) 第 9回 配置図(講義、演習) 第10回 設計シーケンス図、設計コミュニケーション図(講義、演習) 第11回 設計VOPC、設計クラス図(講義、演習) 第12回 設計コミュニケーション図Ver.2、設計VOPC Ver.2(講義、演習) 第13回 要求図(講義、演習) 第14回 設計仕様書作成1:クラス設計(演習) 第15回 設計仕様書作成2:相互作用設計(演習)										
(授業の方法) 基本的には、各回の授業は、簡単な講義・説明のあと、演習課題に取り組みます。 授業資料は、事前にMoodle等で配るので、テキストと合わせて事前学習に役立てて下さい。										
テキスト・参考書		(テキスト) 井上樹著『ダイアグラム別UML徹底活用 第2版』翔泳社 (参考書) テクノロジックアート他『基礎からはじめるUML 2.4』ソーテック社 河合昭男著『最新UMLがわかる』技術評論社								
授業時間外の学修										
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 姿勢点(毎週の課題の提出状況等)×(毎週の課題の点数+最終レポートの評価) (成績評価の基準) 目標1: UMLの各図を作成できる。 目標2: 情報システムの分析設計プロセスを理解し、それに沿って情報システムの設計ができる。								
備考		原則、情報システム設計論と同時受講して下さい 情報システム設計論でしっかり予習して下さい								
担当教員の実務経験の有無		○	実務経験の具体的内容			企業でのシステム設計に関わったことのある教員による授業				

尾道市立大学授業計画

授業科目名	情報システム設計論			開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講年度学期	2025年度前期		単位数	2単位	
科目コード	E-IN-303L		担当教員名	有吉 勇介				担当形態	メディア授業		
【科目の位置付け】											
この授業の基礎となる科目		プログラミングⅠ・Ⅱ 情報活用基礎Ⅰ・Ⅱ		次に履修が望まれる科目			データベース				
【授業の目的と到達目標】											
(授業の目標) 情報システムの分析設計プロセスを理解し、簡単な説明ができるようになる。プログラムの設計図であるUML図を読み取れるようになる。											
(受講生の到達目標) 1: 情報システムの分析設計プロセスについて、簡単な説明ができるようになる。 2: UMLの各図について、簡単な説明ができるようになる。 3: UMLの各図を読み取れるようになる。											
【授業の概要】											
情報システム設計とは、「こんな情報システムを作ってほしい」という要望を分析整理し、プログラムの設計図である仕様書にまとめるまでの一連の作業です。この科目では、このプログラムの設計図の表記法であるUML(Unified Modeling Language)について学習します。この科目で学ぶオブジェクト指向分析設計とUMLの考え方は、業務分析・改善に応用されてビジネスプロセス管理に発展しており、情報系だけでなく経営系の学生にも役立つと思います。											
【授業計画と授業の方法】											
講義内容											
(授業計画) 第1回 ユースケース分析: ユースケース図(講義、演習) 第2回 ユースケース定義: イベントフローとシナリオ(講義、演習) 第3回 ユースケースの流れ: アクティビティ図(講義、演習) 第4回 画面設計: 画面イメージ、画面遷移図(講義、演習) 第5回 ドメイン分析: オブジェクト指向とオブジェクト図(講義、演習) 第6回 ロバストネス分析: BCEモデルとロバストネス図(講義、演習) 第7回 相互作用分析: シーケンス図とコミュニケーション図(講義、演習) 第8回 ライフサイクル分析・アーキテクチャ設計: ライフサイクル分析図・プラットフォームへの展開(講義、演習) 第9回 オブジェクト指向設計: クラス設計、属性設計(講義、演習) 第10回 関連設計: 誘導可能性・多重度(講義、演習) 第11回 操作設計: 可視性、シグネチャ設計(講義、演習) 第12回 SysML1: 構造分析(講義、演習) 第13回 SysML2: 振る舞い分析・パラメトリック分析(講義、演習) 第14回 ソフトウェア・テスト: レビュー、単体テスト、結合テスト(講義、演習) 第15回 開発アプローチ・情報システムのライフサイクル(講義、演習)											
(授業の方法) 各回の授業では、分析設計プロセスを1ステップずつ取りあげ、そこで作成するUML図等について学習します。 授業は15回全て、講義動画の視聴によるオンデマンド方式で行います。各自で講義動画を視聴し、毎回の課題を行って提出します。講義資料は事前にMoodle等で配るので、テキストと合わせて事前学習に役立ててください。											
テキスト・参考書		(テキスト) 井上樹著『ダイアグラム別UML徹底活用 第2版』翔泳社 (参考書) テクノロジックアート他『基礎からはじめるUML 2.4』ソーテック社 河合昭男著『最新UMLがわかる』技術評論社									
授業時間外の学修		(事前学修) 授業資料を確認し、学習内容を把握しておいて下さい。 (事後学修) 課題を完成させ、期限までに指定の場所に提出して下さい。									
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 姿勢点(毎週の課題の提出状況等)×(毎週の課題の点数+期末試験の点数) (成績評価の基準) 1: 情報システムの分析設計プロセスについて、簡単な説明ができる。 2: UMLの各図について、簡単な説明ができる。 3: UMLの各図を読み取ることができる。									
備考		原則、情報システム設計実習と同時受講すること 情報システム設計実習でしっかり復習すること									
担当教員の実務経験の有無			○	実務経験の具体的内容				企業でのシステム設計に関わったことのある教員による授業			

尾道市立大学授業計画

授業科目名	情報基礎理論			開講年次	2年	開講年度学期	2025年度後期		単位数	2単位
科目コード	E-IN-208L		担当教員名	有吉 勇介、本田 治				担当形態	オムニバス	
【科目の位置付け】										
この授業の基礎となる科目		情報とコンピュータ プログラミングⅠ		次に履修が望まれる科目						
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) 情報科学・情報技術の基本的事項を説明できるようになる。また、情報科学・情報技術の基礎的な計算ができるようになる。										
(受講生の到達目標) ハードウェア、オペレーティングシステム、情報セキュリティ管理、プログラムの4分野について 1: 基本的事項を説明できるようになる 2: 基礎的な計算ができるようになる										
【授業の概要】										
この科目は「情報とコンピュータ」等で学んだ情報科学・情報技術の知識をより深めるための科目です。これらの知識は、情報技術者はもちろん、情報を使いこなすことを求められる現代の社会人にとって必要不可欠なものです。この科目では、CPU・メモリ等のコンピュータハードウェアの基本的な仕組み、オペレーティングシステムの基礎、情報セキュリティ管理の基本、データ構造とアルゴリズムなどプログラムの基礎理論等について学習します。										
【授業計画と授業の方法】 講義内容										
(授業計画) 第1回 ハードウェア基礎1 コンピュータの構成要素、CPUの仕組み(講義) 第2回 ハードウェア基礎2 メインメモリの管理、キャッシュメモリの管理(講義) 第3回 ハードウェア基礎3 入出力装置の仕組み、補助記憶装置の仕組み(講義) 第4回 基本ソフトウェア1 OSの概要、プロセスの3状態(講義) 第5回 基本ソフトウェア2 プロセス・スケジューリング方式、排他制御(講義) 第6回 基本ソフトウェア3 実記憶管理、仮想記憶管理(講義) 第7回 (前半)ハードウェア基礎の復習と確認 (後半)基本ソフトウェア4 入出力制御(講義) 第8回 情報セキュリティ管理1 情報セキュリティ管理の基本(講義) 第9回 情報セキュリティ管理2 ISMS(講義) 第10回 (前半)基本ソフトウェアの復習と確認 (後半)情報セキュリティ管理3 リスク管理とインシデント対応(講義) 第11回 プログラム基礎1 配列、リスト、キュー、スタック(講義) 第12回 プログラム基礎2 木構造と二分探索(講義) 第13回 プログラム基礎3 AVL木による二分探索(講義) 第14回 プログラム基礎4 バブルソート、クイックソート、チェイン法(講義) 第15回 プログラム基礎5 マージソートとヒープソート(講義)										
(授業の方法) 講義資料は、ポータル・Moodle等で配るので、事前学習に役立てて下さい										
テキスト・参考書		ポータル・Moodle等に講義資料をアップロードするので、各自でダウンロードして下さい。								
授業時間外の学修		(事前学修) 講義資料を確認し、学習内容を把握しておいて下さい。 (事後学修) 課題等がある場合は、期限までに完成させて指定の場所に提出して下さい。								
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 毎授業の課題提出等:約33%程度 期末試験:約67%程度 (成績評価の基準) ハードウェア、オペレーティングシステム、情報セキュリティ管理、プログラムの4分野について 1: 基本的事項を説明できる 2: 基礎的な計算ができる								
備考		本田(ハードウェア基礎、プログラム基礎)と、有吉(オペレーティングシステム,情報セキュリティ管理)とによるオムニバス授業の予定です。								
担当教員の実務経験の有無			○ 実務経験の具体的内容			企業でのシステム設計に関わったことのある教員による授業				

尾道市立大学授業計画

授業科目名		システム工学		開講年次		3年		開講年度学期		2025年度前期		単位数		2単位	
科目コード		E-IN-307L		担当教員名		邵 忠				担当形態		メディア授業			
【科目の位置付け】															
この授業の基礎となる科目								次に履修が望まれる科目							
【授業の目的と到達目標】															
(授業の目的) 本講義は、受講生がシステムの概念・定義からシステム工学の発展と体系を理解し、システムのモデル化および最適化・評価の諸手法を習得して、実際のシステム最適化問題の解決に活用できることを到達目標とする。															
(受講生の到達目標) 到達目標1:システム工学の概念や定義を理解でき、専門用語を説明できる。 到達目標2:システム工学の歴史と現状、基礎知識を把握できる。 到達目標3:システム工学の組合せと制御の最適化理論と技法を習得し、説明できる。 到達目標4:システム工学の最適化技法を用いてサンプル実験や簡単な実用問題に適用できる。															
【授業の概要】															
システム構築の理論・方法論、人工システムの構築とその運用を対象とするシステム工学は、巨大化、複雑化になりつつある様々なシステムを総合的な見地から解析・設計・試験・運用・評価を行う、必要不可欠なものである。 当講義では、システムの基本概念から、システム工学の歴史とその必要性すなわちシステムの巨大化、複雑化、構築の長期化、費用の高額化の現実を説明し、システム構築についての具体的な内容、すなわち問題定式化、シミュレーション、最適化諸技法、システム評価などの内容を習得させ、演習問題を課して、計算手順及び使い方を習得させる。 当科目は情報システムなど理工学のシステムだけでなく、経済システムや経営システムなどの人文系システムの構築にも役立つ内容を習得できる。															
【授業計画と授業の方法】				講義内容											
(講義計画)															
第 1回 システムの基本概念システム工学の誕生と歴史 アリストテレスの「全体は部分の和以上のもの」の哲学的なシステム概念とシステム工学誕生と発展の内容の説明															
第 2回 システムの定義、目的、意義などの基礎知識と専門用語の説明 様々なシステムの実例からシステムを理解する															
第 3回 システム工学の必要性和役割、構築の手順 なぜシステムが必要なのか。システムは「どのように構築するか															
第 4回 システムのモデル化とシミュレーション システムのモデル化の意味と実施手順 シミュレーションの意味と方法															
第 5回 システムの最適化理論と方法 巡回セールスマン問題や設備配置問題を例に説明し、数値例練習で解け方を習得させる															
第 6回 システム最適化技法(1-1) 最適化技法の一つである分岐限界法の原理と仕組みを説明する															
第 7回 システム最適化技法(1-2) 分岐限界法の応用手順と問題点、数値例練習で理解を深める															
第 8回 前半のまとめと中間テスト実施 前半で習った内容の理解度を確認する中間テストを実施する テスト結果を解説する															
第 9回 システム最適化の技法(2-1) 生物遺伝のメカニズムを真似た遺伝アルゴリズムの仕組みを習得させる															
第10回 システム最適化の技法(2-2) 遺伝アルゴリズムの応用手順と問題点、数値例練習で理解を深める															
第11回 システムの制御 システム制御の理論と発展を説明する															
第12回 ファジ理論 曖昧な思考と実問題の解決の有効な方法論のファジ理論の成り立ちの説明															
第13回 ファジ集合 一般集合から拡張された新しい集合概念と現実的な意義の説明															
第14回 ファジ理論と制御 ファジ理論とファジ集合からできたファジ制御の実問題への活用事例を通じて理解を深める															
第15回 システムの評価 システム最適化評価の他に主観によるシステム評価の「階層分析法(AHP)」を実例を用いて説明する															
(講義方法) ・毎回事前プリントを配信し、必ず予習を行うこと。 ・講義は自作のパワーポイントスライドで進める。 ・授業中あるいは放課後に練習問題を出して次の講義時に提出してもらう。 ・提出したレポートや課題に対して、次の授業中に説明する。															
テキスト・参考書		教科書の代わりにプリントを配信する													
授業時間外の学修		(事前学修) 毎回事前プリントを配布し、授業の前までに必ず予習を行うこと。 (事後学修) 授業中に理解できていない内容・箇所や理解できない練習問題などについて、メールで聞いたり、復習を通じて理解に努めること。													
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 中間テスト(20%) 期末テスト(30%) 練習問題とレポート提出(30%) 受講態度(20%) (成績評価の基準) 到達目標1:システム工学の概念や定義を理解でき、専門用語を説明できる。 到達目標2:システム工学の歴史と現状、基礎知識を把握できる。 到達目標3:システム工学の組合せと制御の最適化理論を説明できる。 到達目標4:システム工学の最適化技法を用いてサンプル実験(数値例)や簡単な実用問題に適用できる。													
備考		配布したプリント及び参考書を予習し、復習の一環として課題を出す。 遅刻や欠席を極力に控えること。													
担当教員の実務経験の有無		○		実務経験の具体的内容				次の経歴・経験を持つ教員による授業 ・セメントや大型陶板プラントの建設や試運転に携わった経験 ・家電のプリント基板の製造現場での品質検査の業務に携わった経験 ・自動車用板ガラス加工品の業界検査委員として、検査実施に参加した経験 ・自動車や家電及びアパレル生産ラインなど多数の現場調査の経験							

尾道市立大学授業計画

授業科目名		製品開発論		開講年次		2年		開講年度学期		2025年度後期		単位数		2単位	
科目コード		E-MN-211L		担当教員名		邵 忠				担当形態		メディア授業			
【科目の位置付け】															
この授業の基礎となる科目		生産管理論（生産システム論）		次に履修が望まれる科目											
【授業の目的と到達目標】															
(授業の目的) 戦後日本企業内及び企業間で展開された全社的品質管理活動の実態を理解し、生産現場における 管理の7つ道具や品質管理の基礎知識などを勉強させ、品質管理の基礎の専門用語、基本的な技術と技法を習得し、活用できることを当授業の目的と到達目標とする。															
(受講生の到達目標) (1) 品質管理分野に関連する基礎知識や理論を説明できること。 (2) 現場での品質管理の諸手法や技法を習得し、実際の課題解決に活用できること。 (3) モノづくりやサービスの現場の品質管理の問題や課題について自分の主張や考えを論じられること。															
【授業の概要】															
当授業科目では、工業製品及びサービスに関する品質管理の歴史、特に戦後に始まった日本の品質管理活動の展開過程を解説して、品質管理が日本経済の発展への貢献とその重要性を理解させる。主に日本企業内の全員参加の「全社的品質管理(TQC)」と「統計的 品質管理(SQC)」を内容として講義を進める。 「全社的品質管理」は、日本企業の現場発の全員参加の品質管理活動であり、欧米の専門家集団による「統計的品質管理」と一線を画す効果的な品質管理手法のQC7つ道具として、のちに世界へ広がっていった。一方、「全社的品質管理」は「統計的品質管理」を排除するものではなく、補完的に活用することによって、品質管理から品質保証へ確実に実施するのである。 この講義はオンラインで行い、プリント配信で事前予習と事後復習を奨励する。また、理解を深めるために課題を出して、受講生の日常生活における様々な品質に関する事例や体験を交えながら自身の感想や考えを述べさせる機会を与える。															
【授業計画と授業の方法】		講 義 内 容													
(授業計画) 第 1回 授業のガイダンス 第 2回 品質管理の基礎知識(1): 品質の概念 品質管理は質の管理より、量の管理が重視し、管理は計画機能を持ち、管理サイクルで実施 第 3回 品質管理の基礎知識(2): 品質と品質管理の定義 工程に品質を組み込む全社的品質管理とはなにか 第 4回 品質管理の基礎知識(3): 品質管理の歴史 品質意識の芽生えと品質管理の誕生、戦後日本の品質管理の歴史 第 5回 品質管理の基礎知識(4): 品質問題とはなにか 品質問題の対象としての品質欠陥・事故・事件、品質のコストなど 第 6回 品質管理の基礎知識(5): 品質問題の対策と手段 品質意識と品質情報、PL（製造物責任）法と国際規格ISO9000など 第 7回 品質管理の基礎知識(6): 統計的品質管理(SQC)の基礎 データの平均値の意義、標準偏差(σ)、確率分布など 第 8回 中間試験 第 9回 品質管理の実技(1): 日本の全社的品質管理(TQC) QCストーリーとQC7つ道具によるQCサークル活の展開など 第10回 品質管理の実技(2): 7つ道具その一 チェックシート、バレート図 第11回 品質管理の実技(3): 7つ道具その二 ヒストグラム、特性要因図 第12回 品質管理の実技(4): 7つ道具その三 管理図、散布図 第13回 品質管理の実技(5): 統計的品質管理の全数検査と抜き取り検査 全数検査と抜き取り検査の違い、抜き取り検査の利点 第14回 品質管理の実技(6): 統計的品質管理の抜き取り検査方法 抜き取り検査方法の計算手順 第15回 これからの品質管理: 全社的品質経営への発展及び諸課題 第16回 期末試験															
(授業の方法) 授業は、中間試験と期末試験を含めてすべてオンライン講義形式で行い、パワーポイントの資料を事前にTeamsに配信して、それを用いて進めていく。授業内容の理解を深めるために、事前予習と事後復習、および授業中の聴講を求める。毎回、課題を出して、次回の講義でフィードバックをする。第8回目あたりで中間試験を実施して受講生の理解度を把握し、授業の改善を図ろうとする。第16回目に期末試験を実施して、授業への理解をチェックするとともに、受講生に対する公平な成績評価を行う。															
テキスト・参考書		(テキスト) プリント配布 (参考書) 奥村士郎著「品質管理入門テキスト」日本規格協会 ※ その他、授業中に適宜に指示する													
授業時間外の学修		(事前学修) 事前配布した資料を予習し、専門用語を理解すること。わからない場合、参考書やネット検索を利用して確認すること。疑問点があれば、メールや授業時に遠慮なく聞くこと。 (事後学修) 必ず期限内に課題を完成して提出すること。授業中に習った内容を復習し、理解を深めること。また、授業内容に関連する企業の品質及び品質管理の情報や事例に関心を寄せること。													
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 期末試験(40%)、中間試験(20%)、課題提出(40%) (成績評価の基準) 3つの到達目標に対する評価基準は下記の通りです。 (1) 品質管理分野に関連する基礎知識や理論について中間試験と期末試験及び課題提出で平均6割以上正解できること。 (2) 現場での品質管理の諸手法や技法、および実際の課題解決について、6割以上正解できること。 (3) モノづくりやサービスの現場の品質管理の問題や課題について自分の問題意識や主張を論じられること。													
備考		オンライン受講のため、随時に受講生からのご意見を受けさせながら、即座に授業改善に活用する。 上記の授業計画は、一応の目安であり、授業進行の状況より早めたり、遅れたりすることがある。 また、オンライン講義科目なので、誠実に授業に出席し、聴講することを求める。													
担当教員の実務経験の有無		○		実務経験の具体的内容				次の経歴・経験を持つ教員による授業 ・セメントや大型陶板プラントの建設や試運転に携わった経験 ・家電のプリント基板の製造現場での品質検査の業務に携わった経験 ・自動車用板ガラス加工品の業界検査委員として、検査実施に参加した経験 ・自動車や家電及びアパレル生産ラインなど多数の現場調査の経験							

尾道市立大学授業計画

授業科目名		システム監査		開講年次	3年	開講年度学期	2025年度前期		単位数	2単位
科目コード		E-IN-309L	担当教員名	佐藤 達男			担当形態	単独		
【科目の位置付け】										
教員の免許状取得のための選択科目 科目区分・・・教科及び教科の指導法に関する科目(高等学校 情報) 施行規則に定める科目区分又は事項等・・・情報通信ネットワーク(実習を含む。)										
この授業の基礎となる科目			次に履修が望まれる科目							
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) この授業の目的は、情報システム監査とその対象となるITシステムのマネジメントの基本を学ぶことです。ITシステムのマネジメントはサービスマネジメントプロジェクトマネジメントについて学びます。 (受講生の到達目標) 到達目標1:情報システム監査の基本を説明できる。 到達目標2:情報システムに関するマネジメント(プロジェクトマネジメント、サービスマネジメント)の基本を説明できる。										
【授業の概要】										
企業や組織にとって情報システムは、作業の効率化やコストダウンなどにとどまらず、ビジネスの根幹にかかわる重要な位置づけとなっており、情報システムのトラブルは組織内外に大きな影響を及ぼします。 本授業では、企業や組織が情報システムに関わる業務を適切に実施し、安全性や信頼性を保っているかを評価して、経営者や関係者に改善を提案する「システム監査」の意義と役割について学習します。また、その対象となるITマネジメント(サービスマネジメント、プロジェクトマネジメント)の概要について学習します。 ※授業計画は、履修者の人数および理解度などによって、内容を一部変更する場合があります。										
【授業計画と授業の方法】 講義内容										
(授業計画) 第1回 システム監査とITマネジメント(イントロダクション) 第2回 システム監査(1) システム監査とは 第3回 システム監査(2) システム監査計画 第4回 システム監査(3) システム監査の実施とフォローアップ① 第5回 システム監査(4) システム監査の実施とフォローアップ② 第6回 システム監査(5) 情報セキュリティ監査、内部統制 第7回 サーマネジメント(1) 第8回 サーマネジメント(2) 第9回 プロジェクトマネジメント(1)プロジェクトマネジメントとは 第10回 プロジェクトマネジメント(2)プロジェクトの企画・計画 第11回 プロジェクトマネジメント(3) スケジュール・コスト・品質マネジメント 第12回 プロジェクトマネジメント(4) 組織・コミュニケーションマネジメント 第13回 プロジェクトマネジメント(5) リスクマネジメント 第14回 ITシステム開発のマネジメント 第15回 授業全体の総括 (授業方法) 授業は15回全て、スライドを用いて教員が講義する形で行います。 第8回講義の中で、第7回までの範囲に関する中間テストを行います。										
テキスト・参考書		テキストは使用しません。講義資料(プリント)を配布します。								
授業時間外の学修		各回の授業内容は連動して知識として積み重なっていくので、授業内容で理解が足りないと感じた場合は、配布した講義資料(プリント)を復習してください。								
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 中間テスト(40%) 期末テスト(60%) (成績評価の基準) 到達目標1:情報システム監査の基本知識を問う問題について正しく答えることが出来ている。 到達目標2:サービスマネジメント、プロジェクトマネジメントの基本知識を問う問題について正しく答えることが出来ている。								
備考										
担当教員の実務経験の有無		○	実務経験の具体的内容			ITサービス企業におけるシステム監査、システム開発プロジェクトのマネジメント経験を有する教員による授業				

尾道市立大学授業計画

授業科目名		システム監査とITマネジメント		開講年次	3年	開講年度学期	2025年度前期		単位数	2単位
科目コード			担当教員名	佐藤 達男				担当形態	単独	
【科目の位置付け】										
教員の免許状取得のための選択科目 科目区分・・・教科及び教科の指導法に関する科目(高等学校 情報) 施行規則に定める科目区分又は事項等・・・情報通信ネットワーク(実習を含む。)										
この授業の基礎となる科目			次に履修が望まれる科目							
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) この授業の目的は、情報システム監査とその対象となるITシステムのマネジメントの基本を学ぶことです。ITシステムのマネジメントはサービスマネジメントプロジェクトマネジメントについて学びます。 (受講生の到達目標) 到達目標1:情報システム監査の基本を説明できる。 到達目標2:情報システムに関するマネジメント(プロジェクトマネジメント、サービスマネジメント)の基本を説明できる。										
【授業の概要】										
企業や組織にとって情報システムは、作業の効率化やコストダウンなどにとどまらず、ビジネスの根幹にかかわる重要な位置づけとなっており、情報システムのトラブルは組織内外に大きな影響を及ぼします。 本授業では、企業や組織が情報システムに関わる業務を適切に実施し、安全性や信頼性を保っているかを評価して、経営者や関係者に改善を提案する「システム監査」の意義と役割について学習します。また、その対象となるITマネジメント(サービスマネジメント、プロジェクトマネジメント)の概要について学習します。 ※授業計画は、履修者の人数および理解度などによって、内容を一部変更する場合があります。										
【授業計画と授業の方法】 講義内容										
(授業計画) (授業計画) 第1回 システム監査とITマネジメント(イントロダクション) 第2回 システム監査(1) システム監査とは 第3回 システム監査(2) システム監査計画 第4回 システム監査(3) システム監査の実施とフォローアップ① 第5回 システム監査(4) システム監査の実施とフォローアップ② 第6回 システム監査(5) 情報セキュリティ監査、内部統制 第7回 サービスマネジメント(1) 第8回 サービスマネジメント(2) 第9回 プロジェクトマネジメント(1) プロジェクトマネジメントとは 第10回 プロジェクトマネジメント(2) プロジェクトの企画・計画 第11回 プロジェクトマネジメント(3) スケジュール・コスト・品質マネジメント 第12回 プロジェクトマネジメント(4) 組織・コミュニケーションマネジメント 第13回 プロジェクトマネジメント(5) リスクマネジメント 第14回 ITシステム開発のマネジメント 第15回 授業全体の総括 (授業方法) 授業は15回全て、スライドを用いて教員が講義する形で行います。 第8回講義の中で、第7回までの範囲に関する中間テストを行います。										
テキスト・参考書		テキストは使用しません。講義資料(プリント)を配布します。								
授業時間外の学修		各回の授業内容は連動して知識として積み重なっていくので、授業内容で理解が足りないと感じた場合は、配布した講義資料(プリント)を復習してください。								
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 中間テスト(40%) 期末テスト(60%) (成績評価の基準) 到達目標1:情報システム監査の基本知識を問う問題について正しく答えることが出来る。 到達目標2:サービスマネジメント、プロジェクトマネジメントの基本知識を問う問題について正しく答えることが出来る。								
備考										
担当教員の実務経験の有無		○	実務経験の具体的内容				ITサービス企業におけるシステム監査、システム開発プロジェクトのマネジメント経験を有する教員による授業			

尾道市立大学授業計画

授業科目名		情報と職業		開講年次	3年	開講年度学期	2025年度後期		単位数	2単位
科目コード		E-IN-310L	担当教員名	田村 聡一郎				担当形態	単独	
【科目の位置付け】										
教員の免許状取得のための必修科目 科目区分・・・教科及び教科の指導法に関する科目(高等学校 情報) 施行規則に定める科目区分又は事項等・・・情報と職業										
この授業の基礎となる科目		特になし		次に履修が望まれる科目			特になし			
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) 現在の社会は多くの情報系企業によって支えられているが、その業務内容や職務内容を十分理解しているとは言えない。本講義では情報系企業の業種や職種とその内容、情報系企業で用いられるさまざまなツールやシステムを学ぶ。さらに企業人としての常識や企業倫理等を具体的に学習することによって、業務内容や職務内容、必要なスキルなどを理解することを目的とする。また情報教員希望学生は、教員になった際に正しく情報系企業の職業教育が出来ることを目的とする。										
(受講生の到達目標) 1. 情報系企業の業種や職種の概要を説明できる。 2. 情報系企業の各職種のキャリアパスと資格および必要スキルについて説明できる。 3. 情報システム開発の流れおよび各職種の役割を説明できる。 4. 情報系企業で用いられるツールやシステムの必要性や問題点が理解できる。										
【授業の概要】										
情報系企業の業種は多岐にわたり、またそれは年々変化している。また情報系企業における職種の变化や役割も変化し続けている。本講義では情報系企業の業種の区分けやその役割を学び、また情報系企業のさまざまな職種の役割や必要なスキルを学ぶ。そのうえで情報系企業で使われているツールやシステムの必要性や問題点を学ぶ。それらを学ぶことで、進路先としての情報系企業を具体的に想像できる事が期待できる。										
【授業計画と授業の方法】 講義内容										
第 1回 受講ガイダンス 第 2回 IT業界の概要 事前学習:IT業界の用語・概要等について調べる。1H 事後学習:授業内容について復習する。2H 第 3回 情報系企業の業種 事前学習:情報系企業の業種に関する用語・概要等について調べる。1H 事後学習:授業内容について復習する。2H 第 4回 情報系企業の職種と役割 事前学習:情報系企業の職種に関する用語・概要等について調べる。1H 事後学習:授業内容について復習する。2H 第 5回 キャリアパスとスキル 事前学習:情報系企業のキャリアパスに関する用語・概要等について調べる。1H 事後学習:授業内容について復習する。2H 第 6回 SEのスキルと資格 事前学習:SEのスキルに関する用語・概要等について調べる。1H 事後学習:授業内容について復習する。2H 第 7回 情報システムサービス・ソリューションプロバイダ 事前学習:ソリューションプロバイダに関する用語・概要等について調べる。1H 事後学習:授業内容について復習する。2H 第 8回 情報システムの開発と各職種の役割ーソフトウェア開発を主としたシステム導入 事前学習:システム開発に関する用語・概要等について調べる。1H 事後学習:授業内容について復習する。2H 第 9回 情報システムの開発と各職種の役割ーハードウェアを伴うシステム導入 事前学習:システム開発に関する用語・概要等について調べる。1H 事後学習:授業内容について復習する。2H 第10回 SEの就業システムーオーダー制 事前学習:就業システムに関する用語・概要等について調べる。1H 事後学習:授業内容について復習する。2H 第11回 現場におけるストレスと解消法 事前学習:情報系企業におけるストレスに関する用語・概要等について調べる。1H 事後学習:授業内容について復習する。2H 第12回 情報関連の資格 事前学習:情報関連の資格に関する用語・概要等について調べる。1H 事後学習:授業内容について復習する。2H 第13回 RFP提案依頼書の目的と概要 事前学習:RFPに関する用語・概要等について調べる。1H 事後学習:授業内容について復習する。2H 第14回 情報教員としての役割 事前学習:情報教員の仕事に関する用語・概要等について調べる。1H 事後学習:授業内容について復習する。2H 第15回 情報系企業におけるコミュニケーション 事前学習:情報系企業におけるコミュニケーションに関する用語・概要等について調べる。1H 事後学習:授業内容について復習する。2H										
なお、すべての授業回の最後に授業内容の理解を整理するために、その日のまとめやテーマについての考えを問うミニツレポートを課す。その際出てきた質問には次回授業でフィードバックする。										
テキスト・参考書		特になし。必要な資料は配付する。								
授業時間外の学修		授業計画の欄に授業回ごとに記載								
成績評価の方法と基準		定期試験(60%)、毎回実施するミニツレポートの内容、および授業に対する取り組みや態度(40%)で評価する。 定期試験、ミニツレポートの評価は上記(受講生の到達目標)の各項目について、 10・9:全体を深く理解し、応用することが出来る。 8:全体を理解している。 7:ほぼ理解している。 6:一部を理解している。 5:到達目標に達していない。 で評価する。								
備考		事前に配布した資料に目を通し、各項目についてインターネット、書籍、新聞などをもとに概要を調べる事で予習とする。 配布した資料の内容を理解することで復習とする。								
担当教員の実務経験の有無			○	実務経験の具体的内容			情報系企業におけるシステムエンジニアとしてのシステム設計およびプロジェクトマネジメント経験を有する教員による授業			

尾道市立大学授業計画

授業科目名		日本文化史		開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講年度学期	2025年度後期		単位数	2単位
科目コード		J-IC-211L/A-IC-231L	担当教員名	米倉 広晃				担当形態	単独	
【科目の位置付け】										
この授業の基礎となる科目				次に履修が望まれる科目						
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) 日本列島における古代から現代までの文化について、特に(1)名前(2)建物(3)乗物(4)服飾の四つを採り上げ、外国文化の移入・消化の過程から日本文化がもつ特質を考え、理解する。 (受講生の到達目標) 到達目標1:日本における名前・建物・乗物・服飾の各文化について、歴史的展開を説明できる。 到達目標2:外国文化の移入背景としての政治性的要求を説明できる。 到達目標3:伝統的・日本的とみなされている文化に対し、継続性・固有性の両面から客観的に論じることができる。										
【授業の概要】										
日本文化の特質を名前・建物・乗物・服飾の四つの要素を通じ、対外的な政治情勢や国内の慣習の実態といった背景もふまえながら、理解を深めていく。										
【授業計画と授業の方法】 講義内容										
第 1回 ガイダンス(講義) 第 2回 この授業を学ぶうえでの基礎知識(講義) 第 3回 名前の文化史 (1)集団名(講義) 第 4回 " (2)個人名(講義) 第 5回 " (3)称号・おくり名(講義) 第 6回 第1回小テスト / 授業のふり回り 第 7回 建物の文化史 (1)宗教・城郭建築(講義) 第 8回 " (2)宮殿・官庁建築(講義) 第 9回 乗物の文化史(講義) 第10回 第2回小テスト / 授業のふり回り 第11回 服飾の文化史 (1)前近代の髪型と顔の装い(講義) 第12回 " (2)飛鳥時代までの装い(講義) 第13回 " (3)朝廷の装い(講義) 第14回 " (4)武家の装い(講義) 第15回 " (5)近現代の装い(講義) (授業の方法) 授業時に適宜配布するレジュメ、および板書に基づきながら講義形式で行う。 授業内容の定着度確認のため、全2回の小テストを課す。小テストの直前回では、授業の内容・実施方法に関する質問・感想などを配布の用紙に記入してもらう。記入された質問は選抜し、小テスト後のふり回り時に可能な限り答える。また感想についても、授業の質的向上に資したい。										
テキスト・参考書		(テキスト)特になし。授業時に適宜レジュメを配布する。 (参考書)適宜、授業中に紹介する。								
授業時間外の学修		(事前学修)特に求めない。 (事後学修)授業内容の復習、授業中に紹介した書籍・資料等の閲覧。								
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 全2回の小テスト(40%)、期末試験(60%) (成績評価の基準) 到達目標1:日本における名前・乗物・建物・服飾の各文化について、その大まかな歴史的展開を理解できている。 到達目標2:外国文化の移入背景としての、国内外の政治的要求について論じることができている。 到達目標3:日本的・伝統的とみなされている文化について、継続性・固有性の両面から客観的に分析できている。								
備考										
担当教員の実務経験の有無			○		実務経験の具体的内容			学芸員として実務経験を持つ教員による授業		

尾道市立大学授業計画

授業科目名	日本歴史概説1			開講年次	2年	開講年度学期	2025年度前期		単位数	2単位
科目コード	J-RE-201L		担当教員名	米倉 広晃				担当形態	単独	
【科目の位置付け】										
この授業の基礎となる科目			次に履修が望まれる科目							
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) 日本古代の歴史を、時代ごとの天皇・皇族の在り方を通じて考察し、理解する。 (受講生の到達目標) 到達目標1: 奈良時代までの天皇統治の形成を、近隣諸国との対外関係とも併せて説明できる。 到達目標2: 日本の天皇制にみる、諸外国の君主制とは異なる特質を説明できる。 到達目標3: 近現代的皇室観にとらわれず、各時代に応じた皇族の範囲・身分的性格を説明できる。										
【授業の概要】										
古墳時代から平安時代までの日本の歴史について、各時代での天皇や皇族の在り方に焦点をあて、その背景にある国内外の社会情勢や政治動向などもおさえながら理解を深めていく。										
【授業計画と授業の方法】										
講 義 内 容										
第 1回 ガイダンス(講義) 第 2回 この授業を学ぶうえでの基礎知識(講義) 第 3回 ワカタケル大王の時代への道(講義) 第 4回 オオド王の登場と「天皇家」の成立(講義) 第 5回 天皇・皇族主導の集権体制構築への模索1(講義) 第 6回 第1回小テスト / 授業のふり返り 第 7回 天皇・皇族主導の集権体制構築への模索2(講義) 第 8回 現代まで続く天皇の称号と皇族身分の成立(講義) 第 9回 賜姓皇族とその系譜(講義) 第10回 第2回小テスト / 授業のふり返り 第11回 古代の女性天皇について(講義) 第12回 奈良時代の皇位継承争いと桓武天皇の即位1(講義) 第13回 奈良時代の皇位継承争いと桓武天皇の即位2(講義) 第14回 第3回小テスト / 授業のふり返り 第15回 桓武天皇とその子たちの時代(講義)										
(授業の方法) 授業時に適宜配布するレジュメ、および板書に基づきながら講義形式で行う。 授業内容の定着度確認のため、全3回の小テストを課す。小テストの直前回では、授業の内容・実施方法に関する質問・感想などを配布の用紙に記入してもらう。記入された質問は選抜き、小テスト後のふり返り時に可能な限り答える。また感想についても、授業の質的向上に資したい。										
テキスト・参考書			(テキスト)特になし。授業時に適宜レジュメを配布する。 (参考書)適宜、授業中に紹介する。							
授業時間外の学修			(事前学修)特に求めない。 (事後学修)授業内容の復習、授業中に紹介した書籍・資料等の閲覧。							
成績評価の方法と基準			(成績評価の方法) 全3回の小テスト(40%)、期末試験(60%) (成績評価の基準) 到達目標1:奈良時代までの天皇統治の形成を、近隣諸国との対外関係とも併せて理解できている。 到達目標2:諸外国の君主制と比較し、日本の天皇制の特質を理解できている。 到達目標3:現在とは異なる皇族の範囲・身分的性格について、各時代に応じた適切な理解ができている。							
備考										
担当教員の実務経験の有無			○	実務経験の具体的内容			学芸員として実務経験を持つ教員による授業			

尾道市立大学授業計画

授業科目名		日本歴史概説2		開講年次	2年	開講年度学期	2025年度後期		単位数	2単位
科目コード		J-RE-202L	担当教員名	米倉 広晃			担当形態	単独		
【科目の位置付け】										
この授業の基礎となる科目			次に履修が望まれる科目							
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) 鎌倉時代から現代までの日本の歴史を、時代ごとの天皇・皇族の在り方を通じて考察し、理解する。 (受講生の到達目標) 到達目標1: 現代の象徴天皇制にもつながる、武家政権下での天皇制の様相を説明できる。 到達目標2: 前近代と近現代とで、天皇家の宗教観・祖先観などに大きな断絶があることを説明できる。 到達目標3: 近現代的皇室観にとらわれず、前近代的背景もふまえて現在の皇位継承問題を論じることができる。										
【授業の概要】										
鎌倉時代から現代にかけての日本の歴史について、各時代における天皇・皇族の在り方を中心に検討し、その背景としての国内外の社会情勢や政治体制なども考えながら理解を深めていく。										
【授業計画と授業の方法】 講義内容										
第 1回 ガイダンス(講義) 第 2回 この授業を学ぶうえでの基礎知識(講義) 第 3回 皇位継承の混乱と皇統の分裂(講義) 第 4回 南北朝の動乱と皇統の収斂(講義) 第 5回 親王宣下の制度と官家の成立・展開(講義) 第 6回 第1回小テスト / 授業のふり返り 第 7回 江戸幕府の朝廷統制(講義) 第 8回 近世の女帝と光格天皇の即位(講義) 第 9回 皇族の出家と養子入り(講義) 第10回 第2回小テスト / 授業のふり返り 第11回 神武天皇の意識化と皇室の神道化(講義) 第12回 明治国家と天皇・皇族の軍人化(講義) 第13回 南北朝正間問題と歴代天皇の確定(講義) 第14回 第3回小テスト / 授業のふり返り 第15回 現在の皇位継承問題について(講義) (授業の方法) 授業時に適宜配布するレジュメ、および板書に基づきながら講義形式で行う。 授業内容の定着度確認のため、全3回の小テストを課す。小テストの直前回では、授業の内容・実施方法に関する質問・感想などを配布の用紙に記入してもらう。記入された質問は選抜し、小テスト後のふり返り時に可能な限り答える。また感想についても、授業の質的向上に資したい。										
テキスト・参考書		(テキスト) 特になし。授業時に適宜レジュメを配布する。 (参考書) 適宜、授業中に紹介する。								
授業時間外の学修		(事前学修) 特に求めない。 (事後学修) 授業内容の復習、授業中に紹介した書籍・資料等の閲覧。								
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 全3回の小テスト(40%)、期末試験(60%) (成績評価の基準) 到達目標1: 武家政権下での天皇制の様相から、現代の象徴天皇制との共通性を論じることができる。 到達目標2: 前近代と近現代とで異なる、天皇家の宗教観・祖先観について論じることができる。 到達目標3: 前近代までの歴史・文化的背景もふまえ、現在の皇位継承問題を論じることができる。								
備考										
担当教員の実務経験の有無		☐	実務経験の具体的内容			学芸員として実務経験を持つ教員による授業				

尾道市立大学授業計画

授業科目名		日本美術史Ⅰ		開講年次	1年	開講年度学期	2025年度前期		単位数	2単位
科目コード		J-RE-112L/A-SF-102L	担当教員名	市川 彰			担当形態	単独		
【科目の位置付け】										
教員の免許状取得のための必修科目 科目区分・・・教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術） 施行規則に定める科目区分又は事項等・・・美術理論及び美術史（鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの表現を含む）										
この授業の基礎となる科目				次に履修が望まれる科目			日本美術史Ⅱ			
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) 日本美術史のおおよその流れをつかむと同時に、実際の美術作品を「見る」きっかけとしてもらいたいと思います。さらに、作品の「良さ」を自身の言葉で語れるようになることを目的としています。										
(受講生の到達目標) 到達目標1;日本美術に関する基礎的な知識や情報を得ることができる。 到達目標2;作品を観察し、その結果を言語化することができる。 到達目標3;幅広い視野、多様な視点を持ち、自身が考えたことを文章で表現することができる。										
【授業の概要】										
日本美術史の流れを概観します。彫刻、絵画、書跡、工芸などの分野の別を問わず、それぞれの時代を代表する名品を、鑑賞するポイント、作品にまつわるエピソードなどを交えながら紹介していきます。										
【授業計画と授業の方法】 講義内容										
(授業計画) 第 1回 ガイダンス…[講義] 第 2回 「用途」を表現に見る…[講義] 第 3回 「目的」から表現を見る…[講義] 第 4回 「共通点と差異」から表現を見る…[講義] 第 5回 「物語」から表現を見る…[講義] 第 6回 「色と形」から表現を見る…[講義] 第 7回 「数と量」から表現を見る…[講義] 第 8回 「組・セット」を表現に見る…[講義] 第 9回 「手法」から表現を見る…[講義] 第10回 「捧げること」と表現の連関を見る…[講義] 第11回 「量感」から表現を見る…[講義] 第12回 「想像力」を表現に見る…[講義] 第13回 「思想・物語」を表現に見る…[講義] 第14回 「作者の個性」を表現に見る…[講義] 第15回 「優美であること」と表現の連関を見る…[講義] (授業方法) プロジェクターとスクリーンを使用して作品の画像を示しながら講義をおこないます。また、各回の内容に即した課題に取り組んで提出してもらいます。										
テキスト・参考書		使用しません。								
授業時間外の学修		たとえば衣・食・住に関わることなど、身の回りのさまざまな事柄を観察してみてください。その際に感じたこと、思ったことについて、どうして自身がそうに感じ、思ったのか、その理由を探ってみてください。 (事前学修) 各回のテーマ、キーワードについて、関連しそうな身近な事柄を探してみてください。 (事後学修) 各回の講義内容に即した課題に取り組んで提出してください。								
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 講義後に提出する課題シートの記述内容(60%)、期末試験(40%) (成績評価の基準) 到達目標1;基礎的な知識や情報についての設問に適切に答えることができています。 到達目標2;作品の観察を言語化することを求める設問に適切に答えることができています。 到達目標3;自身が持つ視点、自身が考えたことなどを的確な文章で表現することができています。								
備考		寺院や神社、博物館や美術館などを訪れて、作品の「実物」に接することを心がけてみてください。								
担当教員の実務経験の有無		☐	実務経験の具体的内容			学芸員として実務経験を持つ教員による授業				

尾道市立大学授業計画

授業科目名	日本美術史2			開講年次	1年	開講年度学期	2025年度後期		単位数	2単位
科目コード	J-RE-113L/A-SF-103L	担当教員名	市川 彰				担当形態	単独		
【科目の位置付け】										
教員の免許状取得のための必修科目 科目区分・・・教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術） 施行規則に定める科目区分又は事項等・・・美術理論及び美術史（鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの表現を含む）										
この授業の基礎となる科目		日本美術史 I		次に履修が望まれる科目						
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) 日本美術史のおおよその流れをつかむと同時に、実際の美術作品を「見る」きっかけとしてもらいたいと思います。さらに、作品の「良さ」を自身の言葉で語れるようになることを目的としています。 (受講生の到達目標) 到達目標1;日本美術に関する基礎的な知識や情報を得ることができる。 到達目標2;作品を観察し、その結果を言語化することができる。 到達目標3;幅広い視野、多様な視点を持ち、自身が考えたことを文章で表現することができる。										
【授業の概要】										
日本美術史の流れを概観します。彫刻、絵画、書跡、工芸などの分野の別を問わず、それぞれの時代を代表する名品を、鑑賞するポイント、作品にまつわるエピソードなどを交えながら紹介していきます。										
【授業計画と授業の方法】 講義内容										
(授業計画) 第 1回 ガイダンス…[講義] 第 2回 「物語」と表現の連関を見る…[講義] 第 3回 「形式」と表現の連関を見る…[講義] 第 4回 「恐れ」と表現の連関を見る…[講義] 第 5回 「現実」と表現の連関を見る…[講義] 第 6回 「空間」と表現の連関を見る…[講義] 第 7回 「観者」と表現の連関を見る…[講義] 第 8回 「顔貌」と表現の連関を見る…[講義] 第 9回 「魅力」と表現の連関を見る…[講義] 第10回 「作者」と表現の連関を見る…[講義] 第11回 「本場」と表現の連関を見る…[講義] 第12回 「新味」と表現の連関を見る…[講義] 第13回 「色彩」と表現の連関を見る…[講義] 第14回 「流派」と表現の連関を見る…[講義] 第15回 「個性」と表現の連関を見る…[講義] (授業方法) プロジェクターとスクリーンを使用して作品の画像を示しながら講義をおこないます。また、各回の内容に即した課題に取り組んで提出してもらいます。										
テキスト・参考書		使用しません。								
授業時間外の学修		たとえば衣・食・住に関わることなど、身の回りのさまざまな事柄を観察してみてください。その際に感じたこと、思ったことについて、どうして自身がそのように感じ、思ったのか、その理由を探ってください。 (事前学修) 各回のテーマ、キーワードについて、関連しそうな身近な事柄を探してみてください。 (事後学修) 各回の講義内容に即した課題に取り組んで提出してください。								
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 講義後に提出する課題シートの記述内容(60%)、期末試験(40%) (成績評価の基準) 到達目標1;基礎的な知識や情報についての設問に適切に答えることができています。 到達目標2;作品の観察を言語化することを求める設問に適切に答えることができています。 到達目標3;自身が持つ視点、自身が考えたことなどを的確な文章で表現することができています。								
備考		寺院や神社、博物館や美術館などを訪れて、作品の「実物」に接することを心がけてみてください。								
担当教員の実務経験の有無		○	実務経験の具体的内容				学芸員として実務経験を持つ教員による授業			

尾道市立大学授業計画

授業科目名		国語教育学専門演習a		開講年次	2年	開講年度学期	2025年度前期		単位数	2単位
科目コード		J-SG-361S/C-TL-323S	担当教員名	山田 和大			担当形態	単独		
【科目の位置付け】										
教員の免許状取得のための必修科目 科目区分・・・教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語） 施行規則に定める科目区分又は事項等・・・各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）										
この授業の基礎となる科目		教職に関する科目		次に履修が望まれる科目			国語科教育法2			
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) 国語科における教育目標及び育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された国語科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身に付けることを目指します。 (受講生の到達目標) 到達目標1: 具体的な教材に即して適切な教材分析を行い、「読むこと」に関する単元の学習目標や学習活動を学習指導要領に示された国語科の目標や内容をもとに設定することができる。 到達目標2: 具体的な教材に即して適切な教材分析を行い、基礎的な学習指導理論をふまえて、具体的な授業場면을想定した授業設計を行うことができる。										
【授業の概要】										
国語教育に関わる諸理論・概念、資料の収集方法と使い方、分析と考察の方法、思考方法(思想)の捉え方、正確な記述の方法について学びます。 各自、任意の教材を取り上げて表現と構造の分析・考察を行い、学習指導要領を踏まえた単元計画案を作成します。演習の回では、これを順次発表し、内容について議論します。										
【授業計画と授業の方法】 講義内容										
(授業計画) 第1回:教材の表現と構造の分析方法（講義） 第2回:国語科学習指導の現在と教材研究 文学教材の場合（講義） 第3回:国語科学習指導の現在と教材研究 評論文教材の場合（講義） 第4回:中学校文学教材の研究①教材の表現および構造についての分析・考察（演習） 第5回:中学校文学教材の研究②主体的・協働的に深い学びを創出していく単元計画案（演習） 第6回:中学校説明文教材の研究①教材の分析・考察（演習） 第7回:中学校説明文教材の研究②主体的・協働的に深い学びを創出していく単元計画案（演習） 第8回:中学校言語文化教材の研究①教材の分析・考察（演習） 第9回:中学校言語文化教材の研究②主体的・協働的に深い学びを創出していく単元計画案（演習） 第10回:高等学校文学教材の研究①教材の分析・考察（演習） 第11回:高等学校文学教材の研究②主体的・協働的に深い学びを創出していく単元計画案（演習） 第12回:高等学校評論文教材の研究①教材の分析・考察（演習） 第13回:高等学校評論文教材の研究②主体的・協働的に深い学びを創出していく単元計画案（演習） 第14回:高等学校古典教材の研究①教材の分析・考察（演習） 第15回:高等学校古典教材の研究②主体的・協働的に深い学びを創出していく単元計画案（演習） (授業の方法) 15回の授業の中で、国語教育に関わる諸理論・概念の理解、資料の収集方法と使い方、表現と構造の分析・考察の方法、正確な記述について、具体的に即して指導します。 履修者の人数によって、演習の回を増減します。 また、授業時間以外にも、発表準備及び完成資料作成のための相談に応じます。										
テキスト・参考書		文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年3月公示)解説 国語科編』(東洋館出版社)、文部科学省『高等学校学習指導要領(平成30年3月公示)解説国語編』(東洋館出版社)、国立教育政策研究所教育課程研究センター『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校国語』(東洋館出版社)、国立教育政策研究所教育課程研究センター『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 (高等学校国語)』(東洋館出版社)、(※上記テキストは、国語科教育法1・2、国語教育学専門演習a・bで共通して使用。文部科学省ホームページや国立教育政策研究所ホームページにあるデジタル版でもよい)								
授業時間外の学修		(事前学修) 次回取り上げる教材を読解して、表現や構造についての気づきを記録しておいてください。 次回発表担当者は、初回の授業で示された項目について、分析・考察して、発表資料を作成してください。 (事後学習) テキストの関連した章を読んでください。発表者は、授業で議論になったことを踏まえて、さらに分析・考察を深めて、資料を完成してください。 各回の事後学習として、1時間程度の復習を必要とします。								
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 課題研究の発表(20%)、授業での質問・意見等の参加状況(20%)、完成資料(60%) (成績評価の基準) 到達目標1:課題研究の資料において、適切な教材分析を記述しており、学習目標や学習活動について学習指導要領に示された国語科の目標や内容を踏まえ適切に記述している。 到達目標2:課題研究の資料において、適切な教材分析を記述しており、基礎的な学習指導理論をふまえて、具体的な授業場면을想定した単元計画案を作成している。また、演習発表での質疑応答において教材分析や発表者の単元計画案について、適切な意見を述べている。								
備考		Teamsを授業情報や資料の共有に活用します。								
担当教員の実務経験の有無			○		実務経験の具体的内容			教員免許を持ち、学校現場での実務経験を持つ教員による授業		

尾道市立大学授業計画

授業科目名		国語教育学専門演習b		開講年次	2年	開講年度学期	2025年度後期		単位数	2単位
科目コード		J-SG-362S/C-TL-324S	担当教員名	山田 和大			担当形態	単独		
【科目の位置付け】										
教員の免許状取得のための必修科目 科目区分・・・教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語） 施行規則に定める科目区分又は事項等・・・各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）										
この授業の基礎となる科目		教職に関する科目		次に履修が望まれる科目			国語科教育法2			
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) 国語科における教育目標及び育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された国語科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付けることを目指します。 (受講生の到達目標) 到達目標1:国語科学習指導の実践事例について、その学習目標や学習活動を学習指導要領に示された国語科の目標や内容に照らして説明することができる。 到達目標2:国語科学習指導の実践事例を取り上げて、その学習指導理論・授業設計について考察・評価して記述することができ、そこで得られた知見を基に具体的な授業場面を想定した授業設計を行うことができる。										
【授業の概要】										
国語科の教育実践が基盤としている諸理論・概念について学びます。 各自、任意の優れた授業実践を取り上げて、学習目標・単元の展開、評価の方法・授業の工夫と学びの実際の各観点から分析・考察を行い、現行の学習指導要領を踏まえた単元計画案を作成します。 演習の回では、これを順次発表し、内容について議論します。										
【授業計画と授業の方法】 講義内容										
(授業計画) 第1回:国語教育の現代的課題ー「主体的対話的で深い学び」の実現（講義） 第2回:国語教育の現代的課題ー習得・活用・探究の学び（講義） 第3回:国語科の単元学習①大村はまの「書くこと」の実践に学ぶ（講義） 第4回:国語科の単元学習②大村はまの「聞くこと・話すこと」の実践に学ぶ（講義） 第5回:中学校における文学の授業実践の分析・考察と単元計画案（演習） 第6回:高等学校における文学の授業実践の分析・考察と単元計画案（演習） 第7回:中学校における伝統的言語文化の授業実践の分析・考察と単元計画案（演習） 第8回:高等学校における伝統的言語文化の授業実践の分析・考察と単元計画案（演習） 第9回:中学校における論理的文章の授業実践の分析・考察と単元計画案（演習） 第10回:高等学校における論理的文章の授業実践の分析・考察と単元計画案（演習） 第11回:中学校における「書くこと」の授業実践の分析・考察と単元計画案（演習） 第12回:高等学校における「書くこと」の授業実践の分析・考察と単元計画案（演習） 第13回:中学校における「話すこと／聞くこと」の授業実践の分析・考察と単元計画案（演習） 第14回:高等学校における「話すこと／聞くこと」の授業実践の分析・考察と単元計画案（演習） 第15回:国語科におけるアクティブ・ラーニングの授業実践の分析・考察と単元計画案（演習） (授業の方法) 15回の授業の中で、国語教育に関わる諸理論・概念の理解、ICT活用を含む学習活動の工夫、学習者の学びの実践について、具体的に即して指導します。 履修者の人数によって、演習の回を増減します。 また、授業時間以外にも、発表準備及び完成資料作成のための相談に応じます。										
テキスト・参考書		文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年3月公示)解説 国語科編』(東洋館出版社)、文部科学省『高等学校学習指導要領(平成30年3月公示)解説国語編』(東洋館出版社)、国立教育政策研究所教育課程研究センター『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校国語』(東洋館出版社)、国立教育政策研究所教育課程研究センター『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料(高等学校国語)』(東洋館出版社)、(※上記テキストは、国語科教育法1・2、国語教育学専門演習a・bで共通して使用。文部科学省ホームページや国立教育政策研究所ホームページにあるデジタル版でもよい)								
授業時間外の学修		(事前学修)次回取り上げる教材と対象論文(実践報告)を読解して、気づきを記録しておいてください。次回発表担当者は、初回の授業で示された項目について、分析・考察して、発表資料を作成してください。 (事後学習)授業で取り上げた理論や概念について、授業で紹介する参考文献を読むなどして、理解を深めてください。発表者は、授業で議論になったことを踏まえて、さらに分析・考察を深めて、資料を完成してください。								
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 課題研究の発表(20%)、授業での質問・意見等の参加状況(20%)、課題研究の完成資料(60%) (成績評価の基準) 到達目標1:課題研究の資料において、国語教育の実践事例について、学習指導要領で該当するものを適切に取り上げて記述している。 到達目標2:課題研究の資料において、国語科学習指導の実践事例について、その学習指導理論・授業設計について適切な考察・評価を記述しており、そこで得られた知見を基に具体的な授業場面を想定した単元計画案を作成している。また、演習発表での質疑応答において、実践事例の考察・評価や発表者の単元計画案について、適切な意見を述べている。								
備考		Teamsを授業情報や資料の共有に活用します。								
担当教員の実務経験の有無			○		実務経験の具体的内容			教員免許を持ち、学校現場での実務経験を持つ教員による授業		

尾道市立大学授業計画

授業科目名		フィールドワーク		開講年次	3年	開講年度学期	2025年度前期、2025年度後期		単位数	2単位
科目コード		J-RE-342S	担当教員名	平山 直樹、藤川 功和、藤本 真理子				担当形態	複数	
【科目の位置付け】										
この授業の基礎となる科目			次に履修が望まれる科目							
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) 日本文学研究と創作に結びつく実地踏査をおこない、資料収集や調査研究能力を身につける。また、事前学修と事後学修では企画立案から成果報告までに必要な知識と技能を修得し、隣接する日本語学・歴史学・民俗学・地域学からも広く日本文化について学修する。 (受講生の到達目標) 到達目標1:フィールドワークの意義をふまえて実施可能なテーマを設定し、一定の仮説を立てて適切な技能を活用することができる。 到達目標2:事前学修とフィールドワークで得た情報を正確に分析し、公開可能な成果報告物を作成することができる。										
【授業の概要】										
教員引率型フィールドワークと、履修者個人実施型フィールドワークの両方とをとおして、計画・実施・報告までの手順を段階的に学び、実際に取り組む授業。教員引率型フィールドワークは津和野・山口エリアにおいて、日本文学科の研究分野に関連する施設や伝承地を2泊3日で探訪する予定。										
【授業計画と授業の方法】										
(授業計画) 第1回 講義:ガイダンス 第2回 演習:フィールドワークの報告書等を読む 第3回 演習:実地踏査に関する事前学修 第4回 演習:実地踏査に関する事前学修2 第5回 発表:個別計画書の最終確認 第6回～12回 フィールドワーク:2泊3日の実地踏査 第13回 演習:実地踏査に関する事後学修1 第14回 演習:実地踏査に関する事後学修2 第15回 発表:成果報告(研究レポート、または創作) (授業の方法) 第1回では年間スケジュールを説明する。 第2回～第5回ではフィールドワークを行うにあたっての必要な手順や心得を学びながら、自身が設定したテーマにふさわしい調査方法を検討し、実施に向けての準備を進める。 第6回～第12回では2泊3日のフィールドワークを実施する。なお、2025年度は島根県鹿足郡津和野町、山口県山口市近辺を踏査対象地域とする予定。 第13回～第14回ではフィールドワーク実施後の情報整理と分析を行う。 第15回では個人の学修成果を他者と共有できる形に整えて報告する。 (※ 上記の進行は日程調整の関係から随時変更する可能性もある。) 主な訪問先(※ 履修者数などの関係で変更することがある。) 1日目:島根県鹿足郡津和野町(森鴎外記念館、森鴎外旧宅、津和野町日本遺産センターなど) 2日目:山口県山口市(中原中也記念館、瑠璃光寺、山口県文書館など) 3日目:山口県山口市(山口市内散策)、山口県防府市(防府天満宮、毛利博物館など)										
テキスト・参考書		資料を配布する。								
授業時間外の学修		(事前学修) 事前の配布資料を確認し、研究テーマとの関連づけを想定した課題を授業専用ノートに記録しておくこと。 (事後学修) 各回の演習における成果を授業専用ノートに記録し、改善点と課題に関する情報整理をしておくこと。								
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 授業への取り組み(50%) 調査研究の事前準備(20%) 調査研究の成果報告物(30%) (成績評価の基準) 到達目標1:実施可能な計画に基づき一定の仮説・技能によるフィールドワークをおこない、その経過を適切に報告できている。 到達目標2:事前学修とフィールドワークで得た情報を分かりやすく分析し、事後学修をふまえた上で他者と共有できる成果報告物を作成している。								
備考		新年度のオリエンテーション期間に実施する事前の説明会に出席しておくこと。授業はポータルサイトとteamsも活用し、演習・実施報告にふさわしい授業形態で実施する。この授業専用ノート(フィールドワーク実施中も利用可能な形態のもの)を準備しておくこと。								
担当教員の実務経験の有無			○	実務経験の具体的内容			学外でのフィールドワーク等を伴う授業			

尾道市立大学授業計画

授業科目名		デザイン論		開講年次	1年	開講年度学期	2025年度前期		単位数	2単位
科目コード		A-SF-111L		担当教員名	桜田 知文、黒田 教裕、伊藤 麻子、林 宏、西原 美彩			担当形態	複数	
【科目の位置付け】										
教員の免許状取得のための選択科目 科目区分・・・教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術） 施行規則に定める科目区分又は事項等・・・デザイン（映像メディア表現を含む）										
この授業の基礎となる科目		構成実習 彫刻 総合基礎実習		次に履修が望まれる科目			デザイン実習1 情報機能論 編集とデザイン			
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) デザイン分野の幅広さと内容について理解し、自らが行うデザインについて論理的な支柱を獲得することを目的とします。 (受講生の到達目標) ・到達目標1:美術に関連する知識や情報を得ることで、幅広い視野で物事を捉え、論理的に考えをまとめることができる。 ・到達目標2:自分の考えをまとめたことを、言語化し発表することができる。 ・到達目標3:芸術表現と社会との関わりを理解し、自らの適性をもとにした具体的な将来像を文章で表現することができる。										
【授業の概要】										
オムニバス形式の授業を通して、様々な視点からデザインを捉え、仮定、考察、発想、展開などといったデザインの思考の活性を図ります。全授業の最後に「私のデザイン論」のテーマでレポートを提出してもらいます。 桜田:芸術、造形とデザインの発想と考え方 林:暮らしとデザイン 伊藤:自己作品とグラフィックデザインの解説 黒田:映像と時間 西原: 白木:デザインの思考から学ぶこと										
【授業計画と授業の方法】 講義内容										
(授業計画) 第1回:オリエンテーション(全教員)、オムニバス各教員の紹介「講義」 第2回:パッケージデザインの仕事の話(伊藤)「講義」「発表」 第3回:地域のブランディングデザインについて(伊藤)「講義」「発表」 第4回:自然素材とデザイン(林)「講義」「発表」 第5回:暮らしとデザイン(林)「講義」「発表」 第6回:(1)芸術とデザイン(2)自己の作品の解説(桜田)「講義」「発表」 第7回:(3)デザイナーの発想及び考え方を数人ピックアップして解説(桜田)「講義」「発表」 第8回:「ビデオ鑑賞・ディスカッション」 第9回:映像と時間(黒田)「講義」「発表」 第10回:映像とは何だろうか？(黒田)「講義」「発表」 第11回:短編アニメーションの世界(西原)「講義」「発表」 第12回:短編アニメーションと表現展開(西原)「講義」「発表」 第13回:漢字デザインから学ぶ 1「基本について考える」(白木)「講義」 第14回:漢字デザインから学ぶ 2「発想と哲学」(白木)「講義」 第15回:「ビデオ鑑賞・ディスカッション」 (授業の方法) デザインの教員5名と非常勤講師1名を合わせて6名の教員によるオムニバス形式の授業です。また第2回目の講義から「私のデザイン論」のテーマで各自2,3分のスピーチをしてもらいます。第8回と第15回の授業では、デザインについてのビデオを鑑賞しディスカッションを行います。										
テキスト・参考書		使用しません。								
授業時間外の学修		オリエンテーション時、各教員の専門領域を伝えるので、担当教員の業務領域を調べ、質問事項を持って出席してください。授業後は、毎回自分のデザイン論としてまとめておくこと。 (事前学修)授業に関するリサーチ (事後学修)毎回の授業後にコメントシート作成								
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 授業後に提出するコメントシートへの記述内容(60%)、期末レポート(40%) (成績評価の基準) 到達目標1:毎回授業後に提出するコメントシートで授業を受けた感想と気づきについて記述している。 到達目標2:「私のデザイン論」のスピーチが自分の言葉で言語化できている。 到達目標3:期末レポートで自らの適性をもとにした将来像をデザインの視点で論述している。								
備考		講義中に参照すべき資料を適宜紹介します。								
担当教員の実務経験の有無			○ 実務経験の具体的内容			創作活動、制作活動を行っている芸術家による授業				

尾道市立大学授業計画

授業科目名		空間造形論		開講年次	2年	開講年度学期	2025年度後期		単位数	2単位
科目コード		A-SF-211L	担当教員名	小野 環			担当形態	オムニバス		
【科目の位置付け】										
教員の免許状取得のための選択科目 科目区分・・・教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術） 施行規則に定める科目区分又は事項等・・・デザイン（映像メディア表現を含む）										
この授業の基礎となる科目			次に履修が望まれる科目							
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) 創作活動を継続していくための糧として、過去から現代までの多彩な空間表現に触れることで視野を広げ、知見を深めることを目的としています。										
(受講生の到達目標) ・到達目標1; 空間表現についての考え方や歴史に関する知識を修得している。 ・到達目標2; 多様な芸術表現に触れ、感受性を養うことができる。 ・到達目標3; 幅広い視野で美術表現を捉え、表現の可能性を探究することができる。										
【授業の概要】										
美術家やデザイナーにとって、表現を展開する空間との関係性の考察は避けることができない重要な課題です。オムニバス形式の授業を通して、現代における空間表現の多様性や豊かさに触れ、その可能性を考察していきます。										
小野:美術家の視点で、多彩な空間表現を紹介し、場所と作品の関係を考察。フィールドワーク・ワークショップも行う。(美術家) 渡邊:フィールドノートの実践を通じ、どのように空間をとらえ、記録するのかを考察。(建築家) 稲川:自身の表現上の実践を通じ、表現と文化的バックグラウンドの関係を考察。(美術家) 松岡:美術館学芸員の視点で、「美術」や「美術館制度」について紹介、考察。(広島市現代美術館学芸員) 山本:美術家の視点で、自身の表現活動や、インスタレーションの持つ可能性について考察。(美術家)										
【授業計画と授業の方法】			講 義 内 容							
(授業計画) 第1回(小野)ガイダンス～空間認知の多様性について「講義」 第2回(小野)自身の制作活動や場所をめぐる実践について紹介「講義」□ 第3回(小野)個人史と美術史の交わるところ～現代美術における空間表現の展開「講義」 第4回(小野)場所と空間～サイトスペシフィックとホワイトキューブ「講義」□ 第5回(渡邊)建築家の視点 フィールドワークとフィールドノート～その意義と方法について「講義」 第6回(稲川)美術家の視点 自身の実践について紹介「講義」 第7回(小野)瀬戸内国際芸術祭ができるまで～フィールドワークガイダンスとして「講義」 第8回フィールドワーク(1) 午前 豊島 豊島美術館 島内作品「フィールドワーク」□ 第9回フィールドワーク(2) 午後 豊島 豊島横尾館 島内作品「フィールドワーク」□ 第10回(小野)「空間との呼吸」フィールドワークの振り返りとミニワークショップ「講義」「演習」 第11回(松岡)学芸員の視点 「路上と観察をめぐる表現史」「講義」□ 第12回(松岡)学芸員の視点 美術館という空間～広島市現代美術館における試み「講義」 第13回(山本)美術家の視点 自作を語る「講義」□ 第14回(山本)美術家の視点 表現における強さと深さ～表現とアイデンティティ「講義」「演習」 第15回(小野)空間の記録と表現～ドキュメントの方法と役割「講義」										
(授業の方法) 多彩な現場で活動する美術家や学芸員の視点でさまざまな空間表現を紹介するオムニバス授業です。フィールドワークを行う他、授業内で随時ワークショップも行います。										
テキスト・参考書		各講義時に資料配布や参考資料の提示を行います。								
授業時間外の学修		(事前学修)担当教員の情報を授業前にリサーチしてください。 (事後学修)授業で出たキーワードや、作家、作品についてのリサーチしてください。								
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 授業への積極的な取り組み(50%)、フィールドワークレポート(20%)、最終レポート(30%)により評価します。 (受講生の到達目標) ・到達目標1; 各授業後に提出するコメントシートで授業の感想と新たに得た知識についてまとめ、記述できている。 ・到達目標2; フィールドワーク触れた多様な作品についての感想を自分の言葉で言語化できている。 ・到達目標3; 幅広い講師による授業内容を踏まえ、授業内のワークショップで、自身の視点を自覚した空間表現を探究することができる。								
備考		※講師の日程調整の都合で、授業の順番は変更になる場合があります。□ ※フィールドワークは休日に実施し、午前、午後の終日となります。アクセス可能な港までバスでの移動となりますが、それ以降の交通費および観覧料として5000円程度かかります。 ※講師の日程調整の都合で、授業の順番は変更になる場合があります。								
担当教員の実務経験の有無			○	実務経験の具体的内容			創作活動、制作活動を行っている芸術家によるフィールドワーク等を伴う授業			

尾道市立大学授業計画

授業科目名		図法及び製図		開講年次	1年	開講年度学期	2025年度後期		単位数	2単位
科目コード		A-SF-121S		担当教員名	渡邊 義孝			担当形態	単独	
【科目の位置付け】										
この授業の基礎となる科目				次に履修が望まれる科目						
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) 演習により基礎製図、三面図、透視図等の技法技術を習得し、静物デッサン、風景画及び漫画・アニメーションの背景における遠近法の理論習得を目標とする。 (受講生の到達目標) ・到達目標1:製図板・T定規・コンパス等の製図用具の正しい使用法を身に付けて基礎的な図形表現ができる。 ・到達目標2:三面図(第三角法)に習熟し、立体の投影図を短時間で作成できるようになる。 ・到達目標3:一点パース、二点パースの理論を体得し、実際の三次元空間を正確にスケッチできる。										
【授業の概要】										
美術家及びデザイナー、漫画家に必要な図法・製図の基礎知識を修得し、今後の創作活動に生かすことを目的とする。 構想した立体及び空間を図面化し、透視図法を習得し他者に伝達する技法を学ぶ。 授業では、解説資料と作図用紙を配布し、実習を通して技法と理論を身に付ける。教室内だけでなく、廊下・階段・校庭などさまざまな場所に移動しながら、視点の移動とそれによる空間の見え方を実践的に学ぶ。作図中に随時講師が巡回し指導する。										
【授業計画と授業の方法】				講 義 内 容						
(授業計画) 第1回 オリエンテーション(空間の透視図)(講義、課題、フィードバック) 第2回 製図用具の使い方1(線の練習1)(講義、課題、フィードバック) 第3回 製図用具の使い方2(線の練習2)(講義、課題、フィードバック) 第4回 空間の製図演習1(三面図)(講義、課題、フィードバック) 第5回 空間の製図演習2(三面図から1点透視図)(講義、課題、フィードバック) 第6回 空間の製図演習3(三面図から2点透視図)(講義、課題、フィードバック) 第7回 図学演習(五角形、七角形、楕円形)(講義、課題、フィードバック) 第8回 立体の製図演習1(三面図から2点透視図)(講義、課題、フィードバック) 第9回 立体の製図演習2(2点透視図のバリエーション)(講義、課題、フィードバック) 第10回 立体の製図演習3(分割と増殖その他の技法)(講義、課題、フィードバック) 第11回 空間の表現演習(講義、課題、フィードバック) 第12回 さまざまな技法(アクソメ、アイソメ)(講義、課題、フィードバック) 第13回 透視図法のおまとめ(講義、課題、フィードバック) 第14回 風景画実習1(2点透視図・学内風景スケッチ)(各自演習) 第15回 風景画実習2(2点透視図仕上げ)(各自演習) 第16回 風景画実習3+講評 (授業の方法) 各回授業の事後学習にはおよそ1時間程度を必要とし、課題への取り組みは指示された宛先に指定期日までに提出すること。										
テキスト・参考書		テキスト:椎名見早子『パース塾2実践編』(廣済堂出版) その他に随時資料を配付する								
授業時間外の学修		(事後学修)授業で学んだ技法を使って、授業終了後にノートまたはA4用紙に簡単なスケッチを行なう。								
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 修了製作(第14,15,16回の授業で作成したもの)【50%】、毎回提出される課題【30%】と授業への取り組み態度【20%】を総合評価する。 (成績評価の基準) 到達目標1:製図用具の正しい使い方を習得できたか 到達目標2:指定時間内に複雑な形状の物体を三面図で作図できるか 到達目標3:水平線と消失点の連関を把握し等間隔に並ぶ事物を正しく表現できているか								
備考		14、15、16回の計3回の授業時間を使って、修了製作(A3版の紙にモノクロまたは着色で1枚を製作し16回の時間内に提出する)を完成させる。								
担当教員の実務経験の有無			○	実務経験の具体的内容			創作活動、制作活動を行っている芸術家による授業			

尾道市立大学授業計画

授業科目名		金工演習		開講年次	2年	開講年度学期	2025年度後期		単位数	2単位
科目コード		A-SF-221S	担当教員名	桜田 知文			担当形態	オムニバス		
【科目の位置付け】										
教員の免許状取得のための選択科目(中学校・高等学校 美術) 科目区分・・・教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 美術) 施行規則に定める科目区分又は事項等・・・工芸										
この授業の基礎となる科目		塗装法演習		次に履修が望まれる科目			木工演習			
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) 金属についての理解を深め、金属加工機械及び工具の使用方法を理解し、機械や手仕事で作品を制作することによって、金工作品のみならず、今後の作品制作に結び付け、芸術表現を高めることが授業の目的です。										
(受講生の到達目標) ・到達目標1;素材の特性を理解し、基礎的な技術を活用して制作することができる。 ・到達目標2;専門分野の表現技術を習得し、制作に活用することができる。 ・到達目標3;自分の考えをまとめて発表することができる										
【授業の概要】										
金属という、身近に存在するものではあるが、加工ということではあまり経験のない素材について、金属材料の種類・特性・加工方法の基本的事項について学び、切断・接合・研磨・彫金技法・鋳造技法等を体験し、金工作品を制作します。										
【授業計画と授業の方法】 講義内容										
(授業計画) 第 1回 オリエンテーション(金属についての講義。安全作業及び手工具の種類と使い方の指導。) 第 2回 金工作業の基礎練習「演習」 第 3回 ガス型鋳造法による作品制作(原型製作)「演習」 第 4回 ガス型鋳造法による作品制作(原型製作、仕上げ)「演習」 第 5回 ガス型鋳造法による作品制作(鋳型製作、前半)「演習」 第 6回 ガス型鋳造法による作品制作(鋳型製作、後半)「演習」 第 7回 ガス型鋳造法による作品制作(鋳込み)「演習」 第 8回 彫金による作品制作1(甲丸リング制作)「演習」 第 9回 彫金による作品制作2(V字リング制作)「演習」 第10回 彫金による作品制作3(丸線リング制作)「演習」 第11回 彫金による作品制作4(平リング制作)仕上げ「講評」「演習」「発表」 第12回 ガス型鋳造法による作品制作(安全作業及び電動工具、機械の種類と使い方の指導)「演習」「講義」 第13回 ガス型鋳造法による作品制作(荒仕上げ)「演習」 第14回 ガス型鋳造法による作品制作(中仕上げ)「演習」 第15回 ガス型鋳造法による作品制作(最終仕上げ)・最終講評会「講評」「演習」「発表」 (授業の方法) オムニバス形式										
テキスト・参考書		使用しません。								
授業時間外の学修		(事前学修)作業工程の確認と制作の予定を把握してください。 (事後学修)制作作業の振り返りと反省点、問題点をチェックしてください。								
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 金工技法修得への積極的な取り組み(30%)、提出作品(70%)。 (成績評価の基準) ・到達目標1;素材の特性を理解し、基礎的な技術を活用して制作することができる。 ・到達目標2;専門分野の表現技術を修得し、制作に活用することができる。 ・到達目標3;完成作品の、最初に描いた作品イメージに近づけたか確認し、比較検討する力を付けることができる。								
備考		制作手順についてのプリントを適宜配布します。 指導者の指示に沿って、安全作業を遵守してください。 授業に出席する場合は必ず作業着、作業靴を着用すること。 材料費が3,500円程度必要です。								
担当教員の実務経験の有無			○ 実務経験の具体的内容			創作活動、制作活動を行っている芸術家による授業				

尾道市立大学授業計画

授業科目名	写真(映像)演習			開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講年度学期	2025年度前期		単位数	2単位
科目コード	A-SF-122S		担当教員名	野田 尚之				担当形態	単独	
【科目の位置付け】										
教員の免許状取得のための必修科目 科目区分・・・教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 美術) 施行規則に定める科目区分又は事項等・・・絵画(映像メディア表現を含む)										
この授業の基礎となる科目					次に履修が望まれる科目			情報機能論		
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) カメラや機材の事を理解した上で、制作意図に忠実な作品撮影ができるようになる。										
(受講生の到達目標) ・到達目標1:カメラ等の機材の扱い方を理解することで、思った通りの芸術表現を実現することができる。 ・到達目標2:表現意図通りの撮影が出来るようになって、新たな表現の作品制作へ挑戦できるようになる。 ・到達目標3:制作のスケジュールを自己管理できる。										
【授業の概要】										
各自の作品制作をサポートする為に、写真を理解して活用できるようになる事が重要だという観点から実習に徹した授業を行います。写真自体での制作も視野に入れた実習を、尾道という特徴を活かしながら進めていきます。										
【授業計画と授業の方法】 講義内容										
(授業計画) 第1回 写真が写る原理を知ろう『講義』 第2回 デジタルカメラを使ってみよう『講義』 第3回 カメラやレンズの機能を理解しよう『講義』 第4回 大学の周り(久山田ロケ)で撮影してみよう(雨天の場合は「第5回」と入れ替え)プリントで作品提出『実習』 第5回 Adobe Lightroom Classicを使った現像処理のやり方『講義』 第6回 尾道の街を撮影しよう①(雨天決行)『実習』 第7回 尾道の街を撮影しよう②(雨天決行)『実習』 第8回 尾道の街を撮影したプリントで作品提出『講評』 第9回 尾道のお寺を撮影しよう①(雨天決行)『実習』 第10回 尾道のお寺を撮影しよう②(雨天決行)『実習』 第11回 尾道のお寺を撮影したプリントで作品提出『講評』 第12回 照明機材を使って静物ライティング①『実習』 第13回 照明機材を使って静物ライティング②『実習』 第14回 照明機材を使って人物ライティング①『実習』 第15回 照明機材を使って人物ライティング②『実習』 (第16回 久山田ロケ、人物、静物を撮影したプリントで作品提出『講評』)										
(授業の方法) 講評時には各自の作品テーマに沿ったプレゼンテーションをしていただきます。 また全体でのディスカッションを通して作品への理解度をより深める作業を行います。 学外での撮影は状況によりこのスケジュールよりも早めに実施することがあります。										
テキスト・参考書		『(解説DVD)世界一わかりやすいデジタルカメラと写真の教科書 ミラーレス編』 中井精也 著 インプレス								
授業時間外の学修		(事前学習) 各演習前の準備(カメラ等のバッテリーやメモリーカード含む)と制作テーマの考察を行ってください。 (事後学習) 撮影後は写真のセレクト～調整～現像～プリントを行なってください。 また複数日に分かれて同じテーマの撮影がある場合は、初日の撮影後に次回の撮影をどう行っていくかの考察をお願いします。								
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 座学を含め撮影技術への積極的な取り組み(50%) 撮影した写真をプリントし提出物にて評価する。(50%) (成績評価の基準) ・到達目標1:カメラ等の扱い方を習得し、表現しようと思った通りの作品制作ができている。 ・到達目標2:写真の色々な表現方法を身につけ、新たな表現に挑戦できるようになる。 ・到達目標3:スケジュール通りの制作作業を遂行し、講評に参加することができている。								
備考		デジタル一眼レフカメラ、若しくはミラーレスカメラでマニュアル撮影できるものを用意する。 最初の授業時にカメラの購入等に関する説明をします。 カメラを購入しなくても、既に持ってる方や情報処理研究センターから借りる等でも対応可。 写真スタジオでミラーレスカメラ5台貸与可能。 カメラ用メディア(個人のSDカード)及び講評用インクジェット写真用紙が必要。 講評用プリンターインク代金として3,000円必要です。								
担当教員の実務経験の有無			○	実務経験の具体的内容			創作活動、制作活動を行っている芸術家による授業			

尾道市立大学授業計画

授業科目名		木工演習		開講年次	1年	開講年度学期	2025年度後期		単位数	2単位	
科目コード		A-SF-123S		担当教員名	林 宏、松本 祐助			担当形態	複数		
【科目の位置付け】											
教員の免許状取得のための必修科目(中学校 美術)、教員の免許状取得のための選択科目(高等学校 美術) 科目区分・・・教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 美術) 施行規則に定める科目区分又は事項等・・・工芸											
この授業の基礎となる科目						次に履修が望まれる科目		塗装法演習			
【授業の目的と到達目標】											
演習を通して木質材料の特性を理解し、加工のための機械、工具の使い方を学ぶことで、素材の特性を生かした作品制作を安全に行うことが授業の目的です。 (受講生の到達目標) ・到達目標1;木工機械や工具の扱い方を学ぶことで、基礎的な芸術表現に活用することができる。 ・到達目標2;木質材料の特性を理解し、特性を活かした作品を制作することができる。 ・到達目標3;多様な木の表現と自身の作品との関係性より、感受性を高めることができる。											
【授業の概要】											
木質材料の基礎知識および木工制作における基礎技法について、制作を通して身につけます。簡単な図面の作成や塗装法についても講義を行います。											
【授業計画と授業の方法】 講義内容											
①□額の制作、自身の作品を収めるための額の制作 サイズは5号未満 最終的には自身の作品を入れて講評を行う。 第1回 オリエンテーション 木質材料の基礎知識の講義 木工安全講習 「講義」 第2回「額の制作」自身の作品を収めるための額の制作ガイダンス スケッチ「演習」 第3回「額の制作」機械による製材 手作業による材料取り「演習」 第4回「額の制作」機械加工とノミなどを使った加工1「演習」 第5回「額の制作」機械加工とノミなどを使った加工2「演習」 第6回「額の制作」接着組み立て 「演習」 第7回「額の制作」仕上げ加工1「演習」 第8回「額の制作」仕上げ加工2 「演習」 第9回「額の制作」塗装 「演習」 ② カッティングボードの制作 サイズは210×360程度 第10回「カッティングボード」ガイダンス スケッチ「講義」 第11回「カッティングボード」機械による製材 手作業による材料取り「演習」 第12回「カッティングボード」機械加工とノミなどを使った加工1「演習」 第13回「カッティングボード」機械加工とノミなどを使った加工2「演習」 第14回「カッティングボード」仕上げ加工 塗装「演習」 第15回「額」および「カッティングボード」 総講評 「発表」 (授業の方法) 本演習授業では制作を始める前に木工安全講習の講義を行います。また普段の生活の中で使えるクラフト作品の制作を通じて、自身の生活を豊かなものにするねらいがあります。講評では各自が設定した自由なテーマをわかりやすく伝えるためのプレゼンテーションも行います。											
テキスト・参考書		使用しません。									
授業時間外の学修		(事前学習)演習前の制作計画と作業工程の確認をしてください。 (事後学習)演習後のまとめと次回の取り組みの計画をたててください。									
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 工具の適切な扱い方の修得と制作への積極的な取り組み(70%)、作品評価(30%)。 詳しくは第1回のガイダンスで伝えます。 (成績評価の基準) ・到達目標1;木工機械や工具の扱い方を修得し、美しい作品を制作することができている。 ・到達目標2;制作スケジュールに合わせて作業を遂行し、講評に参加することができる。 ・到達目標3;講評時に自身の作品と組み合わせ、作品をプレゼンテーションできる。									
備考		指導者の指示に沿って、安全作業を遵守して下さい。必ず作業着、作業靴を着用して出席してください。材料費が3500円程度必要です。									
担当教員の実務経験の有無			○	実務経験の具体的内容				創作活動、制作活動を行っている芸術家による授業			

尾道市立大学授業計画

授業科目名		塗装法演習		開講年次	1年	開講年度学期	2025年度前期		単位数	2単位
科目コード		A-SF-124S	担当教員名	桜田 知文、林 宏			担当形態	オムニバス		
【科目の位置付け】										
教員の免許状取得のための選択科目(中学校・高等学校 美術) 科目区分・・・教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 美術) 施行規則に定める科目区分又は事項等・・・工芸										
この授業の基礎となる科目			次に履修が望まれる科目			木工演習 金工演習				
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) 演習を通して塗料の特性を理解し、塗装法および用具の使い方など、基礎的なスキルを修得します。また様々な塗装の実例から、自身の制作の芸術表現を高めることが授業の目的です。 (受講生の到達目標) ・到達目標1:素材の特性を理解し、基礎的な技術を活用して制作することができる。 ・到達目標2:専門分野の表現技術を習得し、制作に活用することができる。 ・到達目標3:多様な塗装表現および表面処理に触れることで、感受性を養うことができる。										
【授業の概要】										
天然樹脂塗料(漆、シェラック、柿渋、各種オイル)、合成樹脂塗料の基礎知識、使用法について制作を通して身につける。また、金属塗装においては、いわゆる塗りの領域にとどまらず、化学反応、腐食、メッキなども含めた表面処理全般について学びます。										
【授業計画と授業の方法】 講義内容										
(授業計画) 第 1回 オリエンテーション 塗装の基礎知識の講義 各種塗装ガイドンス「講義」 第 2回「木の板皿」素地調整「演習」 第 3回「木の板皿」素地固め 木の染色「演習」 第 4回「木の板皿」塗装下地「演習」 第 5回「木の板皿」中塗り「演習」 第 6回「木の板皿」研ぎ 上塗り「演習」 第 7回「木の板皿」研ぎ 磨き「演習」 第 8回「木の板皿」加飾 磨き「演習」 第 9回「木の板皿」仕上げ 講評「発表」 第10回 金属塗装演習 安全作業の指導、及び道具の種類と使い方 下地作り「演習」 第11回「金属板」ホー○ハップによる硫化仕上「演習」 第12回「金属板」煮込み着色「演習」 第13回「金属板」硫酸銅による緑青発色「演習」 第14回「金属板」電気メッキ「演習」 第15回 観察記録制作&仕上予備日「報告」 (授業の方法) オムニバス形式										
テキスト・参考書		ありません。								
授業時間外の学修		(事前学修)ありません。 (事後学修)制作した作品や工程を写真撮影し、観察記録作成のための資料としてまとめます。								
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 塗装法習得への積極的な取り組み(50%)、観察記録のレポートと提出物(50%) (成績評価の基準) ・到達目標1:素材の特性を理解し、基礎的な技術を活用して制作することができる。 ・到達目標2:専門分野の表現技術を習得し、制作に活用することができる。 ・到達目標3:観察記録がよくまとめられている。								
備考		指導者の指示に沿って、安全作業を遵守してください。 授業に出席する場合は必ず作業着、作業靴を着用すること。 材料費が3500円程度必要です。								
担当教員の実務経験の有無			○	実務経験の具体的内容			創作活動、制作活動を行っている芸術家による授業			

尾道市立大学授業計画

授業科目名		壁画技法演習		開講年次	2年	開講年度学期	2025年度前期		単位数	2単位
科目コード		A-SF-222S	担当教員名	菅原 智子				担当形態	単独	
【科目の位置付け】										
この授業の基礎となる科目			次に履修が望まれる科目							
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) 古代より伝わる壁画技法の構造を知り、壁画技法を用いて基本的な制作ができるようになる。 (受講生の到達目標) ・到達目標1:壁画技法の構造を理解することで絵画の成り立ちについて考えることができる。 ・到達目標2:壁画技法を習得し、それを用いて自分なりの表現ができるようになる。 ・到達目標3:壁画技法の特性を理解し、今後の表現の可能性について考えることができる。										
【授業の概要】										
絵画の起源と歴史を知った上で壁画技法を習得するために、講義も含めた実習中心の授業を行います。 モザイクでは古代ローマ時代に多く作られた大理石モザイクをパネルを用いて、オリジナル原画で1点完成させます。 フレスコでは基本的なボンフレスコの技法をパネルを用いて、オリジナル原画または模写で1点完成させます。										
【授業計画と授業の方法】 講義内容										
(授業計画) 第1回 モザイク画概説 モザイクの支持体制作『講義・実習』 第2回 下地塗り 石材の準備『実習』 第3回 道具と材料の説明 石割り モザイク作品の下絵制作『実習』 第4回 制作:下絵制作続き 転写 制作(石の固着)開始『実習』 第5回 制作:全体の配色を石材の色と照らし合わせ、先ず背景などから始めて材料に慣れる『実習』 第6回 制作:徐々に主要部分に入る『実習』 第7回 制作:石の大きさや目地の流れを意識しながら制作を進める『実習』 第8回 制作:全体の調和を確認しながら進める『実習』 第9回 制作:モザイク作品完成『実習』 第10回 フレスコ画概説 フレスコの支持体制作 モルタル練り『講義・実習』 第11回 制作:下絵制作 カルトーネ(転写用下絵)制作『実習』 第12回 制作:下地塗り 試作『実習』 第13回 制作:中間層塗り 試作『実習』 第14回 制作:描画層塗り 描画『実習』 第15回 フレスコ作品完成 片付け 講評 採点『実習・講評』 (授業の方法) 制作の手順を全体で一斉に説明した後、各自個人の制作に入ります。 講評時には制作後の感想、作品のプレゼンテーションを発表していただきます。 授業の進行状況により予定が変更することもあります。										
テキスト・参考書		プリント配布								
授業時間外の学修		(事前学修) 壁画についての情報収集をできる範囲でしておいてください。 (事後学修) 各自制作の進度により、作品完成までの時間配分を考慮し、必要に応じて授業時間外(昼休み、授業開始前など)の制作を行ってください。								
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 提出作品の内容(完成度や独創性)(70%) 制作への積極的な取り組み(30%) (成績評価の基準) ・到達目標1:壁画技法の構造を理解している。 ・到達目標2:壁画技法を習得し、自分なりの表現で作品を完成させている。 ・到達目標3:壁画技法の特性を理解して、今後の表現の可能性について考えることができている。								
備考		汚れてもよい服装と動きやすい靴(サンダル不可)で参加してください。								
担当教員の実務経験の有無			○	実務経験の具体的内容			創作活動、制作活動を行っている芸術家による授業			

尾道市立大学授業計画

授業科目名	テンペラ画技法演習			開講年次	2年	開講年度学期	2025年度前期		単位数	2単位
科目コード	A-SF-223S		担当教員名	赤木 範陸				担当形態	単独	
【科目の位置付け】										
この授業の基礎となる科目			次に履修が望まれる科目							
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) 絵画は物理的には支持体と絵の具により成り立ち、絵の具は顔料と結合材の違いにより、異なる視覚効果を付与されることになる。この絵の具が重層的に塗り重ねられた際の物理的、視覚的特質を理解し、各自が自らの絵画制作に応用する力を習得できることが望ましい。 (受講生の到達目標) 到達目標 1; テンペラ画表現の基礎的な技術と知識を学び、素材の特性を知ることができる。 到達目標 2; テンペラ画の制作技術を修得し、課題制作に活用することができる。 到達目標 3; 制作スケジュールを自己管理することができる。										
【授業の概要】										
ヨーロッパ中世末期に成立した古典絵画技法から絵画の物理的構造を理解し、顔料が如何なるメディウムで溶かれ、絵の具として用いられたかを知り、どのように描かれたかをプロセスによる制作を通して探ることで、材料と技法が生み出している重層構造の視覚的效果を経験し、絵画理解を深める。 油彩画以前の絵画技法であるテンペラ技法演習では、エマルジョンキャンヴァスを自製し、テンペラで絵の具を練り、モチーフを観察しながら制作する。										
【授業計画と授業の方法】 講義内容										
(授業計画) 第 1回 オリエンテーション(テンペラ画の歴史の概要、手順の説明等)(講義)(演習) 第 2回 F15号木枠の生麻布張り、前膠塗り(演習) 第 3回 エマルジョン地塗り溶液を作成、前日に前膠塗りを施した生麻布への地塗り(演習) 第 4回 エマルジョンキャンヴァスに素描(描画用具は木炭、鉛筆等)(演習) 第 5回 卵テンペラメディウム作製、単色(パースイエロー等)のテンペラ絵具による下層描き(演習) 第 6回 卵テンペラの下層描き完成(演習) 第 7回 着色樹脂によるインプリマットゥーラ(演習) 第 8回 白色テンペラ絵の具による白色モデリング(明部のみを描く)(演習) 第 9回 白色モデリングの完成、白色テンペラ絵の具による薄白掛け(演習) 第10回 ラズール層(ここでは着色樹脂を使う)を施す(演習) 第11回 テンペラ絵の具による上層描き1(ローカルトーンの描き入れ)(演習) 第 12回 テンペラ絵の具による上層描き2(ローカルトーンの描き入れ)(演習) 第13回 テンペラ絵の具による上層描き3(ディテール描き入れ)(演習) 第14回 テンペラ絵の具による上層描き4(作品全体の調整)(演習) 第15回 作品講評(発表) (授業の方法) 本演習は、講義と実制作で構成されています。 初回にガイダンスを行い、2回目以降の課題制作では工程ごとに画材や制作方法を説明しながら制作を進めていきます。										
テキスト・参考書	オリジナルテキスト マックス・デルナー「絵画技術体系」美術出版社									
授業時間外の学修	事前学修 課題の内容と制作工程を確認し、必要な道具と資料を準備する。 事後学修 期間内に終わるよう各自で制作を進めておく。									
成績評価の方法と基準	(成績評価の方法) 制作態度 (30%)、プレゼンテーション (10%)、作品評価 (60%)。 (成績評価の基準) 到達目標 1; テンペラ画表現の基礎的な技術と知識を学び、本演習を通じて素材の特性を知ることができる。 到達目標 2; テンペラ画の制作技術を修得し、課題制作に活用することができる。 到達目標 3; 本演習において、制作スケジュールを自己管理することができる。									
備考	テキストは事前に必ず読み疑問点を把握しておく事。授業で何かをしてくれる事を待っているだけでは何も得られない。自ら探究する態度が必要である。									
担当教員の実務経験の有無	☐		実務経験の具体的内容			創作活動、制作活動を行っている芸術家による授業				

尾道市立大学授業計画

授業科目名		版画制作演習		開講年次	2年	開講年度学期	2025年度前期		単位数	2単位
科目コード		A-SF-224S	担当教員名	武雄 文子				担当形態	単独	
【科目の位置付け】										
教員の免許状取得のための選択科目 科目区分・・・教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 美術) 施行規則に定める科目区分又は事項等・・・絵画(映像メディア表現を含む)										
この授業の基礎となる科目			次に履修が望まれる科目							
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) ・直接手で描く絵画とは違う版画のプロセスを学び、シルクスクリーン(孔版)、銅版(凹版)という二つの版画技法それぞれの特性を理解し、平面作品を制作できる技術を修得する。										
(受講生の到達目標) ・到達目標1:版画の歴史や版画の特性を理解し、制作を行うことができる。 ・到達目標2:自身の表現に適した素材や技法について幅広く考察し、可能性を広げることができる。 ・到達目標3:版画の基礎的な技法や概念を修得することで、自身の分野へ応用し、様々な表現ができるようになる。										
【授業の概要】										
・版画技法の中でシルクスクリーンと銅版画を学びます。 ・直接手で描く絵画とは違う版画のプロセス、版を通した様々な表現方法、また複数のエディションができることなどを学び、特性を理解して自身の表現方法の広がりを模索します。 ・紙以外の支持体にも刷ることで、素材による見え方の違い、版画の特性を学びます。										
【授業計画と授業の方法】 講義内容										
(授業計画) 第1回 「版画について」 導入 シルクスクリーンについての説明、第1課題説明 下絵の作成『講義・実習』 第2回 ポジフィルム(原稿)の作成『実習』 第3回 製版、調色『実習』 第4回 紙への印刷『実習』 第5回 布への印刷・解版『実習』 第6回 銅版画についての説明 第2課題(ドライポイント)説明 下絵作成『講義・実習』 第7回 描画、刷り『実習』 第8回 第3課題(エッチング・アクアチント)説明 下絵、描画『実習』 第9回 描画『実習』 第10回 刷り『実習』 第11回 第4課題説明 下絵の制作『講義・実習』 第12回 描画『実習』 第13回 試し刷り、ブラッシュアップ『実習』 第14回 本刷り『実習』 第15回 本刷り/講評『実習・合評』 (授業の方法) すべて版画工房で実施します。講評会では完成した作品を観賞し、フィードバックを行います。										
テキスト・参考書		教員が作成、または蔵書から随時抜粋しプリント配布								
授業時間外の学修		(事前学修) どのような版画作品があるかを調べる。下絵や版計画の作成。 (事後学修) 授業で示したことをメモをとり、事後、プロセスなどを復習し学習する。								
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 作品制作への取り組み方、授業態度(50%) 作品の完成度(50%) (成績評価の基準) ・到達目標1:版画の歴史や版画の特性を理解し、それらを活かした制作を行うことができている。 ・到達目標2:自身の表現に適した素材や技法について幅広く考察し、自身で選択することで可能性を広げることができる。 ・到達目標3:版画の基礎的な技法や理論を学ぶことで、自身の分野へ応用する技術や視点を会得し、それらの技術、理論、視点を提示することができる。								
備考		・第一回のオリエンテーションで抽選を行うので、履修を希望する学生は必ず出席すること。 ・展覧会鑑賞、画集やインターネットによる版画情報の収集と作品鑑賞に努める。 ・材料費として実習費7,000円程度が必要。								
担当教員の実務経験の有無			○	実務経験の具体的内容			創作活動、制作活動を行っている芸術家による授業			

尾道市立大学授業計画

授業科目名		版画制作演習		開講年次	2年	開講年度学期	2025年度後期		単位数	2単位
科目コード		A-SF-224S	担当教員名	藤田 紗衣			担当形態	単独		
【科目の位置付け】										
教員の免許状取得のための選択科目 科目区分・・・教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術） 施行規則に定める科目区分又は事項等・・・絵画（映像メディア表現を含む）										
この授業の基礎となる科目					次に履修が望まれる科目					
【授業の目的と到達目標】										
授業の目的 シルクスクリーン（孔版）、銅版（凹版）という異なる技法の「版画」について、それぞれの特性を理解し、平面作品を制作できる技術を修得する。										
受講生の到達目標 ・版画の歴史や原理を理解するとともに版画の基礎的技術を学び実践することができる。 ・作品についてのディスカッションを積極的に行うことができる。 ・版画の基礎的な技法や概念を自分の専門分野へと応用することができる。										
【授業の概要】										
・版となる素材とそれを扱う様々な技法を体験しながら、どのように平面のイメージに展開させるかを学ぶ。 ・シルクスクリーン（孔版）、銅版（凹版）という異なる技法の「版画」について、それぞれの特性を理解し、平面作品を制作する。 ・版画の持つ「間接性」「複数性」について理解し、その可能性を探る。 ・手描きやパソコンを使用した表現を版画と掛け合わせ、新たな表現方法を探る。										
【授業計画と授業の方法】 講義内容										
第1回 講義「版画について」 シルクスクリーンについての説明、第一課題（2色のイメージを紙と布へ印刷）説明 下絵の作成【講義・演習】 第2回 ポジフィルム（原稿）の作成【演習】 第3回 製版、調色【演習】 第4回 紙への印刷【演習】 第5回 布への印刷・解版【演習】 第6回 第二課題（3色のイメージを紙or布に印刷）説明 下絵、原稿の作成【講義・演習】 第7回 製版、調色【演習】 第8回 印刷【演習】 第9回 印刷、解版【演習】 第10回 銅版画についての説明 課題説明 銅板とエンビ板でのドライポイントのための下絵とプレートマークの作成【講義・演習】 第11回 プレートマーク作成、製版【演習】 第12回 製版、刷り【演習】 第13回 エッチング 製版作業【演習】 第14回 エッチング 製版作業、刷り【演習】 第15回 刷り/講評【演習・ディスカッション】										
テキスト・参考書		教員が作成、または蔵書から随時抜粋しプリント配布								
授業時間外の学修		授業で示した書籍・参考作品の参照 下絵や版計画の作成								
成績評価の方法と基準		作品制作への取り組み方・ディスカッションの参加度・作品の完成度								
備考		・展覧会鑑賞、画集やインターネットによる版画情報の収集と作品鑑賞に努めること。 ・定員を15名程度とする。履修希望者は「抽選登録」をすること。履修希望が大きく定員を超える場合は、短期留学生、高学年の履修者を優先的に許可することがある。 ・材料費として実習費7,000円程度が必要。 ・作業の進行状況などにより授業スケジュールや課題内容を一部変更することがある。								
担当教員の実務経験の有無			○	実務経験の具体的内容			創作活動、制作活動を行っている芸術家による授業			

尾道市立大学授業計画

授業科目名	デッサン基礎実習			開講年次	1年	開講年度学期	2025年度前期、2025年度後期		単位数	4単位
科目コード	A-FS-101P		担当教員名	小野 環、中村 謙、桜田 知文			担当形態	複数		
【科目の位置付け】										
教員の免許状取得のための必修科目 科目区分・・・教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 美術) 施行規則に定める科目区分又は事項等・・・絵画(映像メディア表現を含む)										
この授業の基礎となる科目			次に履修が望まれる科目				油画実習1 デザイン実習1 日本画実習1			
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目標) 各自の志望コースにおける実習につながる基礎力を身につけることを目標とします。 (受講生の到達目標) ・到達目標1;描画・表現技術を修得し、制作に活用することができる。 ・到達目標2;自らの表現の問題を分析し課題を発見することができる ・到達目標3;対象や空間を客観的に観察することができる。										
【授業の概要】										
表現の基礎となる観察力や造形力を養う。										
【授業計画と授業の方法】 講義内容										
(授業計画) 第1回 共通課題「現場で描く/ガイダンス」「講義」「実習」 第2回 共通課題「現場で描く/支持体・描画材の準備」「実習」 第3回 共通課題「現場で描く/学内散策」「実習」 第4回 共通課題「現場で描く/視点を探る」「実習」 第5回 共通課題「現場で描く/制作開始」「実習」 第6回 共通課題「現場で描く/制作の継続」「実習」 第7回 共通課題「現場で描く/制作の展開」「実習」 第8回 共通課題「現場で描く/中間講評」「発表」 第9回 共通課題「現場で描く/振り返り」「実習」 第10回 共通課題「現場で描く/制作の再スタート」「実習」 第11回 共通課題「現場で描く/制作の継続、観察」「実習」 第12回 共通課題「現場で描く/制作の継続 描画の工夫」「実習」 第13回 共通課題「現場で描く/完成」「実習」 第14回 共通課題「現場で描く/制作全体の振り返り」「実習」 第15回 共通課題「現場で描く/講評」「発表」 ◆第16回以降は「日本画」「油画」「デザイン」の選択課題 日本画 第16回 「静物制作(日本画)/ガイダンス、構図を考える」「講義」「実習」 第17回 「静物制作(日本画)/空間、質感、物の形を把握する」「実習」 第18回 「静物制作(日本画)/全体バランスを掴み描き込む」「実習」 第19回 「静物制作(日本画)/完成、講評」「実習」 第20回 「複製制作(日本画)/プロポーションを掴む」「実習」 第21回 「複製制作(日本画)/質感を表現する」「実習」 第22回 「複製制作(日本画)/描き込みによるリアル感」「実習」 第23回 「複製制作(日本画)/完成、講評」「発表」 第24回 「古典模写/鳥獣戯画絵巻について」「講義」「実習」 第25回 「古典模写/画材の把握、準備」「実習」 第26回 「古典模写/場面の選択、構図の決定」「実習」 第27回 「古典模写/線の違いを把握する」「実習」 第28回 「古典模写/墨の濃さの違いを把握する」「実習」 第29回 「古典模写/全体の雰囲気を読む」「実習」 第30回 「古典模写/全体の微調整、学生同士で比較」「実習」 油画 第16回「人物表現1/ガイダンス」「講義」 第17回「人物表現1/描画素材、支持体を試す」「実習」 第18回「人物表現1/手法を探る」「実習」 第19回「人物表現1/人体のバランスを考える」「実習」 第20回「人物表現1/動きを捉える」「実習」 第21回「人物表現1/量感を捉える」「実習」 第22回「人物表現1/講評」「発表」 第23回「人物表現2/ガイダンス」「講義」 第24回「人物表現2/ドローイング」「実習」 第25回「人物表現2/描画素材、支持体の準備」「実習」 第26回「人物表現2/人物の構造を捉える」「実習」 第27回「人物表現2/空間との関係を探る」「実習」 第28回「人物表現2/全体のバランスを見直す」「実習」 第29回「人物表現2/仕上げ」「実習」 第30回「人物表現2/講評」「発表」 デザイン 第16回 「ストップモーション/オリエンテーション」「講義」 第17回 「ストップモーション/参考作品鑑賞」「講義」 第18回 「ストップモーション/アプリケーションの使い方」「講義」 第19回 「ストップモーション/アイデア出し」「実習」 第20回 「ストップモーション/動きの試作」「実習」 第21回 「ストップモーション/動きの検証」「実習」 第22回 「ストップモーション/撮影計画」「実習」 第23回 「ストップモーション/撮影(素材探索)」「実習」 第24回 「ストップモーション/撮影(構図の検証)」「実習」 第25回 「ストップモーション/撮影(動きの検証)」「実習」 第26回 「ストップモーション/編集(撮影素材を並べる)」「実習」 第27回 「ストップモーション/編集(カット順序の検証)」「実習」 第28回 「ストップモーション/編集(時間軸の調整)」「実習」 第29回 「ストップモーション/最終仕上げ」「実習」 第30回 「ストップモーション/講評」「発表」 (授業の方法) 第1回から第15回までは共通課題に取り組み、美術学科全教員による講評を行います。第16回以降は日本画、油画、デザインの3コースに分かれて、それぞれのコースの課題を行います。										
テキスト・参考書			特に使用しません。							
授業時間外の学修			ありません。							
成績評価の方法と基準			(成績評価の方法) 課題に対する積極的な取り組み(40%)、提出作品の造形力(30%)、表現技術の到達度(30%) (成績評価の基準) ・到達目標1;描画・表現技術を修得し、制作に活用することができる。 ・到達目標2;自らの表現の問題を分析し課題を発見することができる ・到達目標3;対象や空間を客観的に観察することができる。							
備考			各課題のオリエンテーションで課題のねらいや条件などの詳しい説明があります。時間に遅れないように必ず出席してください。							
担当教員の実務経験の有無			☐ 実務経験の具体的内容			創作活動、制作活動を行っている芸術家による授業				

尾道市立大学授業計画

授業科目名		構成実習		開講年次	1年	開講年度学期	2025年度前期、2025年度後期		単位数	2単位
科目コード		A-FS-102P	担当教員名		桜田 知文、中村 譲、小野 環			担当形態	複数	
【科目の位置付け】										
この授業の基礎となる科目		デッサン基礎実習 彫刻 総合基礎実習		次に履修が望まれる科目			日本画実習1 油画実習1 デザイン実習1			
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) 各自が設定したテーマについて基礎的な知識や技術を活用して作品を制作することができ、主体的に芸術表現への理解を深めることを目標とします。										
(受講生の到達目標) 到達目標1;各種画材の特性を理解し基礎的な技術を活用して作品を制作することができる。 到達目標2;課題のテーマを理解し制作プロセスを通してアイデアを展開することができる。 到達目標3;自身の芸術表現について主体的に探求することができる。										
【授業の概要】										
1年前期の総合基礎実習で各コースの課題を体験したのち、自分の適性を考慮して前期終了時にコース選択をします。、後期からそれぞれのコースに分かれて、コースのカリキュラムに沿った課題を行います。基礎的な技術や各自の表現方法を活かしながら、身近な素材を使って造形表現や構成力を養う課題の制作を行います。										
【授業計画と授業の方法】 講義内容										
(授業計画) 第1回 共通課題「自画像／スケッチを重ねる」 「講義」「実習」 第2回 共通課題「自画像／資料収集」 「実習」 第3回 共通課題「自画像／構成を考える」 「実習」 第4回 共通課題「自画像／表現手法の工夫」 「実習」 第5回 共通課題「自画像／実制作」 「実習」 第6回 共通課題「自画像／講評」 「発表」 ◆第7回以降は「日本画」「油画」「デザイン」の選択課題 日本画 第7回 「下図製作演習 (50号制作想定)／ガイダンス」 「講義」「実習」 第8回 「下図製作演習 (50号制作想定)／モチーフの設定 (取材1)」 「実習」 第9回 「下図製作演習 (50号制作想定)／モチーフの設定 (取材2)」 「実習」 第10回 「下図製作演習 (50号制作想定)／習作作成 (エスキース)」 「実習」 第11回 「下図製作演習 (50号制作想定)／習作作成 (画面構成)」 「実習」 第12回 「下図製作演習 (50号制作想定)／習作作成 (画面配色)」 「実習」 第13回 「下図製作演習 (50号制作想定)／習作作成 (描込みと全体感)」 「実習」 第14回 「下図製作演習 (50号制作想定)／完成に向けた調整」 「実習」 第15回 「下図製作演習 (50号制作想定)／講評」 「発表」 油画 第7回 「コラージュからの展開／ガイダンス」 「講義」「実習」 第8回 「コラージュからの展開／構想、アイデアスケッチ」 「実習」 第9回 「コラージュからの展開／コラージュ素材収集・支持体準備」 「実習」 第10回 「コラージュからの展開／コラージュ1枚目制作開始 複数並行して制作」 「実習」 第11回 「コラージュからの展開／コラージュ2枚目制作開始」 「実習」 第12回 「コラージュからの展開／コラージュ3枚目制作開始 」 「実習」 第13回 「コラージュからの展開／制作の見直し」 「実習」 第14回 「コラージュからの展開／完成」 「実習」 第15回 「コラージュからの展開／講評」 「発表」 デザイン 第7回 「ロゴ／オリエンテーション、実例の紹介・リサーチ」 「講義」 第8回 「ロゴ／アイデア出し、ラフ案制作」 「実習」 第9回 「ロゴ／実制作-コンセプト・造形・彩色・レイアウトの検討」 「実習」 第10回 「ロゴ／作品プレゼンテーションと講評」 「発表」 第11回 「クラフトデザイン木工／オリエンテーション・素材、用具の説明及び安全講義」 「講義」 第12回 「クラフトデザイン木工／アイデアスケッチ・製材・モック制作・検討」 「実習」 第13回 「クラフトデザイン木工／実制作・材料取り・切削加工」 「実習」 第14回 「クラフトデザイン木工／実制作・仕上げ・塗装」 「実習」 第15回 「クラフトデザイン木工／作品プレゼンテーションと講評」 「発表」 (授業の方法) 第1回から第6回までは3コース共通の課題「自画像」をコンペティション形式で制作し、美術学科全教員による講評を行います。 第7回以降は日本画、油画、デザインの3コースに分かれて、それぞれのコースの課題を行います。										
テキスト・参考書		様々な芸術作品の参考資料を必要に応じて提示します。								
授業時間外の学修		ありません。								
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) さまざまな素材を扱う課題に対する積極的な取り組み (40%)、提出作品の造形力 (30%)、表現技術の到達度 (30%) (成績評価の基準) 到達目標1;画材の特性を理解し、基礎的な技術を用いて制作した作品を講評会に提出できているか。 到達目標2;課題のテーマをもとに展開したアイデアを客観的に確認し、制作に結びつけているか。 到達目標3;提出作品において、独自の視点をもって主体的に造形表現ができているか。								
備考		各課題のオリエンテーションで課題のねらいや条件などの詳しい説明があります。時間に遅れないように必ず出席すること。してください。								
担当教員の実務経験の有無		○	実務経験の具体的内容			創作活動、制作活動を行っている芸術家による授業				

尾道市立大学授業計画

授業科目名		彫刻		開講年次	1年	開講年度学期	2025年度前期、2025年度後期		単位数	4単位
科目コード		A-FS-103P		担当教員名	秋山 隆			担当形態	単独	
【科目の位置付け】										
教員の免許状取得のための必修科目 科目区分・・・教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術） 施行規則に定める科目区分又は事項等・・・彫刻										
この授業の基礎となる科目					次に履修が望まれる科目					
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) 塑造・木彫制作を通して、対象物の構造や動きを捉える観察力と基礎的な造形力を段階的に身に付けることができるようになる。 (受講生の到達目標) ・到達目標1:使用する道具に慣れることにより、制作形態に適した道具の選択をすることができる。 ・到達目標2:素材の特性を理解することで、様々な芸術表現をすることができるようになる。 ・到達目標3:制作の時間配分を思考できる。										
【授業の概要】										
【塑造】-胸像の制作 はじめにクロッキー及びデッサンを行い、制作する部位を様々な方向から観察し、構造・奥行き・動き・量を捉え、次に、クロッキーを参考に心棒を組み、粘土づけをしていく。粘土づけの際は対象をよく観察し、表面ばかりを追うのではなく、内部構造を意識した捉え方を身につける。 【木彫】-乾物を彫る(模刻) 各自が気に入った乾物を選定し、制作する対象を様々な方向から観察しながらデッサンをおこなう。木材(樟 板材)の特性・道具の使用方法を理解しながら彫り出す。										
【授業計画と授業の方法】		講 義 内 容								
(授業計画) 第1回:【塑造】課題説明、クロッキー 「実習」 第2回:【塑造】素描、クロッキー、心棒説明 「実習」 第3回:【塑造】心棒組み 「実習」 第4回:【塑造】粘土練り、粘土(特性)についての説明 「実習」 第5回:【塑造】粘土粗付け(素材に慣れる) 「実習」 第6回:【塑造】粘土粗付け(量を意識) 「実習」 第7回:【塑造】制作 粘土付け(頭部の対称性) 「実習」 第8回:【塑造】制作 粘土付け(各部の位置と比率の確認) 「実習」 第9回:【塑造】制作 粘土付け(前後左右バランス確認・仕上げ) 「実習」 第10回:【塑造】作品提出 「講評」 第11回:【木彫】課題説明、デッサン 「実習」 第12回:【木彫】道具説明、製材 「実習」 第13回:【木彫】製材 「実習」 第14回:【木彫】製材した木材にデッサン 「実習」 第15回:【木彫】制作 木取り 「実習」 第16回:【木彫】制作 面取り(荒取り) 「実習」 第17回:【木彫】制作 小造り 「実習」 第18回:【木彫】制作 仕上げ(細部表現) 「実習」 第19回:【木彫】仕上げ(全体のバランス確認、仕上げ) 「実習」 第20回:【木彫】作品提出 「講評」 (授業の方法) 全人数を2グループに分け、「木彫」・「塑造」実習をおこなっていただきます。 講評時には、制作した作品についてそれぞれの所感を述べてもらい、それに沿った意見交換、講評をおこないます。										
テキスト・参考書		使用しない。								
授業時間外の学修		(事前学修) 塑造:人体骨格のプリントを配布しますので、参考にしながら実習に活かしてください。 木彫:貸与する道具等を必要に応じて調整(鑿・彫刻刀の刃こぼれ)を申し出てください。 (事後学修) 実習時間内に指摘された箇所を修正できるよう、考察をおこなってください。								
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 実習中の取り組み姿勢(40%)、授業内容の理解度(30%)などを基本とし、提出作品(30%)の内容で評価します。 (成績評価の基準) 到達目標1:表面的なものだけに捉われず、基本構造を理解して制作ができている。 到達目標2:素材特性を活かし、柔軟な発想のもと制作に取り組めるようになる。 到達目標3:長期制作になるため、各自が決めたスケジュールに沿った制作をおこない講評にのぞめている。								
備考		彫刻実習に必要な道具類は貸与しますので、デッサン道具、作業着(汚れても良いもの)は各自準備してください。								
担当教員の実務経験の有無			○	実務経験の具体的内容			創作活動、制作活動を行っている芸術家による授業			

尾道市立大学授業計画

授業科目名	総合基礎実習			開講年次	1年	開講年度学期	2025年度前期、2025年度後期		単位数	4単位
科目コード	A-FS-104P			担当教員名	中村 譲、小野 環、桜田 知文			担当形態	複数	
【科目の位置付け】										
この授業の基礎となる科目		デッサン基礎実習 構成実習 彫刻			次に履修が望まれる科目			油画実習1 日本画実習1 デザイン実習1		
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) 各コースの素材の特性を知り基礎的な制作を行った上で、コースの特色や美に対する考え方を理解します。そして、自分に合った表現技術、専門分野を自覚し志望コースを明確にするのが目的です。										
(受講生の到達目標) 到達目標1;いろいろな美や芸術の本質、美術の考え方を知ることができる。 到達目標2;素材の特性を知り基礎的な技術を活用して制作することができる。 到達目標3;専門分野の表現技術を習得し、自分に合った制作を見つけることができる。										
【授業の概要】										
油画、日本画、デザインの各課題を履修し、自己の資質と方向性を吟味します。 1年前期で各コースの課題を体験したのち、自分の適性を考慮して前期終了時に暫定的にコース選択をします。 後期からそれぞれのコースに分かれて、コースのカリキュラムに沿った課題を行い、基礎的な技術や各自の表現方法を活かしながら、各分野の素材を使って制作をします。										
【授業計画と授業の方法】 講 義 内 容										
前期 油画コース 第 1回「油画:大型静物油彩/ガイダンス」 「講義」「実習」 第 2回「油画:大型静物油彩/モチーフに対する視点を探す」 「実習」 第 3回「油画:大型静物油彩/ドローイングで検討する」 「実習」 第 4回「油画:大型静物油彩/画材の説明」 「実習」 第 5回「油画:大型静物/モチーフに対する視点を確定する」 「実習」 第 6回「油画:大型静物/油彩制作開始」 「実習」 第 7回「油画:大型静物/油彩制作 モチーフとの対話」 「実習」 第 8回「油画:大型静物人/油彩制作 画面との対話」 「実習」 第 9回「油画:大型静物/油彩制作 完成へ向けて」 「実習」 第10回「油画:大型静物油彩/講評」 「発表」 日本画コース 第1回「日本画:自由モチーフによる静物制作/ガイダンス、自由表現を心がけたエスキース作成」 「講義」「実習」 第2回「日本画:自由モチーフによる静物制作/モチーフのデッサン、本紙張込み説明」 「実習」 第3回「日本画:自由モチーフによる静物制作/デッサンを基に画面構成」 「実習」 第4回「日本画:自由モチーフによる静物制作/日本画材料の説明」 「実習」 第5回「日本画:自由モチーフによる静物制作/墨を用いた骨描き、下描き」 「実習」 第6回「日本画:自由モチーフによる静物制作/描込み、地塗り、下塗りを中心に」 「実習」 第7回「日本画:自由モチーフによる静物制作/描込み、本塗り、実際の彩色を中心に」 「実習」 第8回「日本画:自由モチーフによる静物制作/描込み、更にイメージに近づける」 「実習」 第9回「日本画:自由モチーフによる静物制作/描込み、仕上げに向けた調整、完成」 「実習」 第10回「日本画:自由モチーフによる静物制作/講評」 「発表」 デザインコース 第1回「デザイン:自分のマーク/古典から広くマークを学ぶ」 「講義」「実習」 第2回「デザイン:自分のマーク/自身の特徴を考える」 「実習」 第3回「デザイン:自分のマーク/自身の特徴をカタチにする」 「実習」 第4回「デザイン:自分のマーク/テーマを決定する」 「実習」 第5回「デザイン:自分のマーク/構想を練るラフ制作」 「実習」 第6回「デザイン:自分のマーク/バリエーションの検討」 「実習」 第7回「デザイン:自分のマーク/デザイン最終形の検討」 「実習」 第8回「デザイン:自分のマーク/作品制作」 「実習」 第9回「デザイン:自分のマーク/作品のプレゼンテーション」 「発表」 第10回「デザイン:自分のマーク/作品の検証」 「講評」										
後期 油画コース 第1回 「部屋からの発見／ガイダンス」 「講義」「実習」 第2回 「部屋からの発見／視点を探る」 「実習」 第3回 「部屋からの発見／物の観察」 「実習」 第4回 「部屋からの発見／空間の観察」 「実習」 第5回 「部屋からの発見／現象の観察」 「実習」 第6回 「部屋からの発見／作品の検討」 「実習」 第7回 「部屋からの発見／作品の選択」 「実習」 第8回 「部屋からの発見／講評」 「発表」 日本画コース 第1回 「植物制作(百合)／ガイダンス」 「講義」「実習」 第2回 「植物制作(百合)／デッサンとエスキース、モチーフの配置」 「実習」 第3回 「植物制作(百合)／デッサンとエスキース、画面の配色」 「実習」 第4回 「植物制作(百合)／デッサン完成」 「実習」 第5回 「植物制作(百合)／画面構成の決定」 「実習」 第6回 「植物制作(百合)／デッサンから線や調子の抽出」 「実習」 第7回 「植物制作(百合)／本紙に骨描き」 「実習」 第8回 「植物制作(百合)／下塗りとして効果的な彩色」 「実習」 第9回 「植物制作(百合)／描込み、質感の意識」 「実習」 第10回 「植物制作(百合)／描込み、配色の意識」 「実習」 第11回 「植物制作(百合)／描込み、部分の完成度」 「実習」 第12回 「植物制作(百合)／描込み、全体バランスの意識」 「実習」 第13回 「植物制作(百合)／描込み、更にイメージに近づける」 「実習」 第14回 「植物制作(百合)／描込み、完成に向けた調整、完成」 「実習」 第15回 「植物制作(百合)／講評」 「発表」 デザインコース 第1回 「シルエット構成／古典から広くシルエットを学ぶ」 「講義」 第2回 「シルエット構成／構想を練るラフ制作・表現の検証」 「実習」 第3回 「シルエット構成／作品制作」 「実習」 第4回 「シルエット構成／作品プレゼンテーションと講評」 「発表」 第5回 「立体造形/オリエンテーション・イメージを形にする・作品鑑賞」 「講義」 第6回 「立体造形/アイデア出し・エスキース制作」 「実習」 第7回 「立体造形/実制作・効果チェック」 「実習」 第8回 「立体造形/実制作・修正」 「実習」 第9回 「立体造形/実制作・最終チェック」 「実習」 第10回 「立体造形/作品プレゼンテーションと講評」 「発表」										
(授業の方法) 前期は各コースの課題それぞれ10回を3コース30回を行います。後期は日本画、油画、デザインの3コースに分かれて、それぞれのコースの課題を行います。										
テキスト・参考書		使用しません。								
授業時間外の学修		ありません。								
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) さまざまな素材を扱う課題に対する積極的な取り組み(40%)、提出作品の造形力(30%)、表現技術の到達度(30%) (成績評価の基準) 到達目標1;いろいろな美や芸術の本質、美術の考え方を知っている。 到達目標2;素材の特性を知り基礎的な技術を活用して制作できている。 到達目標3;専門分野の表現技術を習得し、自分に合った制作を見つけれられている。								
備考		各コース課題の目的に沿って研究、制作を行います。								
担当教員の実務経験の有無		☐	実務経験の具体的内容			創作活動、制作活動を行っている芸術家による授業				

尾道市立大学授業計画

授業科目名		日本画実習1		開講年次	2年	開講年度学期	2025年度前期、2025年度後期		単位数	12単位
科目コード		A-SJ-201P		担当教員名	中村 譲、鈴木 恵麻、山梨 千果子			担当形態	複数	
【科目の位置付け】										
教員の免許状取得のための必修科目 科目区分・・・教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術） 施行規則に定める科目区分又は事項等・・・絵画（映像メディア表現を含む）										
この授業の基礎となる科目		総合基礎実習、構成実習、デッサン基礎実習、彫刻実習		次に履修が望まれる科目			日本画実習2			
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) 人体デッサンや風景スケッチ、動物写生等を通して日本画の基礎となる技術を活用し制作に結びつけます。また箔や裏打ちの材料研究を行い、日本画の基礎的な技術の幅を広げ客観的に観察し、課題を発見できるようにします。										
(受講生の到達目標) ・到達目標1;日本画における考え方や歴史、知識を理解できるようにします。 ・到達目標2;日本画の素材を知り基礎的な技法を修得し、表現技術につながるように勤めます。 ・到達目標3;自身の作品についての客観的に観察することができるようにします。										
【授業の概要】										
授業計画1回分を同一週内で実施し、前期は静物、動物、風景のテーマで制作を行います。後期は自画像（絹本）で、日本画の素材と技術を体験し、コンクール形式の風景制作課題では自身の到達度を相対評価を行います。年度末には初めての自由課題制作を行い、2、3年生の合同講評会に参加します。										
【授業計画と授業の方法】 講義内容										
第1回:【静物制作】モチーフセット、エスキースによる構図検討「講義」「実習」 第2回:【静物制作】デッサン、小下図、大下図、彩色開始「実習」 第3回:【静物制作】描き込み「実習」 第4回:【静物制作】描き込み、仕上げ、講評「実習」「発表」 第5回:【動物スケッチ】クロッキー「実習」 第6回:【動物スケッチ】デッサン／風景スケッチ「実習」 第7回:【人体デッサン】クロッキー、観察による素描、提出「実習」 第8回:【風景制作Ⅰ】取材、スケッチ、小下図、大下図「実習」 第9回:【風景制作Ⅰ】画材準備、骨描き、下塗り「実習」 第10回:【風景制作Ⅰ】描き込み「実習」 第11回:【風景制作Ⅰ】仕上げ、講評「実習」「発表」 第12回:【動物制作】スケッチ、エスキース、小下図、大下図「実習」 第13回:【動物制作】骨描き、下塗り「実習」 第14回:【動物制作】描き込み「実習」 第15回:【動物制作】描き込み、仕上げ、講評「実習」「発表」 第16回:【自画像（絹本）制作】課題説明、自画像デッサン「講義」「実習」 第17回:【自画像（絹本）制作】工程説明、下準備、骨描き、描き込み「実習」 第18回:【自画像（絹本）制作】描き込み、仕上げ、講評「実習」「発表」 第19回:【人体デッサン／裏打ち講義】 第20回:【風景制作Ⅱ】（クラス内コンクール）50号 風景制作Ⅰからの展開、取材、準備等「実習」 第21回:【風景制作Ⅱ】骨描き、（彩色）序盤、下塗り等「実習」 第22回:【風景制作Ⅱ】（彩色）中盤、描き込み「実習」 第23回:【風景制作Ⅱ】（彩色）終盤、仕上げ、順位公表、講評「実習」「発表」 第24回:【人物制作Ⅰ】デッサン、小下図、大下図「実習」 第25回:【人物制作Ⅰ／箔講義】下塗り、描き込み「講義」「実習」 第26回:【人物制作Ⅰ】描き込み「実習」 第27回:【人物制作Ⅰ】仕上げ、講評「実習」「発表」 第28回:【自由制作】取材、表現の素材選択、準備等「実習」 第29回:【自由制作】下塗り、描き込み「実習」 第30回:【自由制作】仕上げ 2・3年生合同講評会「実習」「発表」 ※《動物スケッチ》は5月中旬から下旬に福山動物園にて、また《風景スケッチ》では5月中旬から下旬に一泊二日でスケッチ旅行（行き先／広島・岡山県内）を実施する予定。 （授業の方法） 前後期を通して、課題の概要を説明した後、その課題の到達すべき点について説明します。作品の構想、下描き、制作と段階を踏み、最後に講評会を行います。その際、それぞれの個性や問題点について話し合う機会を設け研究します。また平日の実習時間には教員が見回りを行い、学生にその場でアドバイスや指導を行います。										
テキスト・参考書		使用しません。								
授業時間外の学修		ありません。								
成績評価の方法と基準		（成績評価の方法） 実習への取り組み（30％）と、提出作品による表現技術の達成度（70％）を総合的に評価する。 （成績評価の基準） ・到達目標1;日本画における考え方や歴史、知識の理解をもとに作品が制作できている。 ・到達目標2;日本画の素材を知り基礎的な技法を活かした表現技術で制作できている。 ・到達目標3;自身の作品について客観的に観察し、具体的に理解することができる。								
備考		積極的に取材や作品鑑賞をすること。 画集などの資料を必要に応じて提示する。								
担当教員の実務経験の有無			○			実務経験の具体的内容			創作活動、制作活動を行っている芸術家による授業	

尾道市立大学授業計画

授業科目名		日本画実習2		開講年次	3年	開講年度学期	2025年度前期、2025年度後期		単位数	14単位
科目コード		A-SJ-301P	担当教員名	中村 譲、鈴木 恵麻、山梨 千果子				担当形態	複数	
【科目の位置付け】										
教員の免許状取得のための必修科目 科目区分・・・教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術） 施行規則に定める科目区分又は事項等・・・絵画（映像メディア表現を含む）										
この授業の基礎となる科目		日本画実習1		次に履修が望まれる科目				日本画実習3 卒業制作		
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) 日本画実習Ⅰで学んだことを踏まえ、さらに日本画材料の特性を理解し、幅広い視野で物事を捉え、主体的に考え表現の可能性の探求を目指します。 (受講生の到達目標) ・到達目標1;日本画における考え方や歴史、知識をさらに理解できるようにします。 ・到達目標2;日本画の素材を知り基礎的な技法を修得し、幅広い視野で物事を捉え、さらなる表現技術につながるように勤めます。 ・到達目標3;作品について主体的に表現を考え、制作することができるようにします。										
【授業の概要】										
授業計画1回分を同一週内で実施し、前期では風景と人物制作課題とともに古典模写を行い、日本画の知識を深めます。後期には人物と自由制作、そしてコンクール形式の自由制作課題を行い、自身の到達度を相対評価していきます。										
【授業計画と授業の方法】 講義内容										
(授業計画) 第1回:【古典模写】宋元画の研究(素材、描画法)、下準備「講義」「実習」 第2回:【古典模写】＜上げ写し＞表現研究、裏打ち、パネル張り込み「実習」 第3回:【古典模写】＜彩色＞描画法の研究「実習」 第4回:【古典模写】＜彩色＞仕上げ、提出「実習」「発表」 第5回:【人体デッサン】クロッキー「実習」 第6回:【人体デッサン】観察による表現、提出「実習」 第7回:【風景制作】取材、スケッチ、小下図、大下図「実習」 第8回:【風景制作】画材準備、骨描き、下塗り「実習」 第9回:【風景制作】描き込み「実習」 第10回:【風景制作】仕上げ、講評「実習」「発表」 第11回:【人体デッサン】クロッキー「実習」 第12回:【人物制作Ⅰ】デッサン、小下図、大下図「実習」 第13回:【人物制作Ⅰ】画材準備、骨描き、下塗り「実習」 第14回:【人物制作Ⅰ】描き込み「実習」 第15回:【人物制作Ⅰ】描き込み、仕上げ、講評「実習」「発表」 第16回:【人物制作Ⅱ】人物制作Ⅰからの展開 構想、取材、デッサン、小下図等下準備「実習」 第17回:【人物制作Ⅱ】大下図、地塗り「実習」 第18回:【人物制作Ⅱ】描き込み、構成や形態の見直し「実習」 第19回:【人物制作Ⅱ】仕上げ、講評「実習」「発表」 第20回:【人体デッサン】クロッキー「実習」 第21回:【人体デッサン】観察による素描Ⅰ「実習」 第22回:【人体デッサン】観察による素描Ⅱ「実習」 第23回:【人体デッサン】観察による素描Ⅲ、提出「実習」 第24回:【自由制作Ⅰ】(クラス内コンクール)50号 取材、準備等「実習」 第25回:【自由制作Ⅰ】(自由表現)序盤「実習」 第26回:【自由制作Ⅰ】(自由表現)中盤「実習」 第27回:【自由制作Ⅰ】(自由表現)終盤、仕上げ、順位公表、講評「実習」 第28回:【自由制作Ⅱ】取材、表現の素材選択、準備等「実習」 第29回:【自由制作Ⅱ】下塗り、描き込み「実習」 第30回:【自由制作Ⅱ】仕上げ 2・3年生合同講評会「実習」「発表」 第29回:【地域課題】プレゼンテーション資料作成「実習」 第30回:【地域課題】学内プレゼンテーション、講評「発表」 (授業の方法) 前後期を通して、課題の概要を説明した後、その課題の到達すべき点について説明します。作品の構想、下描き、制作と段階を踏み、最後に講評会を行います。その際、それぞれの個性や問題点について話し合う機会を設け研究します。また平日の実習時間には教員が見回りを行い、学生にその場でアドバイスや指導を行います。										
テキスト・参考書		使用しません。								
授業時間外の学修		ありません。								
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 実習への取り組み姿勢(30%)と、提出作品による理解度・到達度(70%)を総合的に評価する。 (成績評価の基準) ・到達目標1;日本画における考え方や歴史、知識をさらに理解し制作できている。 ・到達目標2;日本画の素材を生かした技法を用いて幅広い視野に立ち、表現技術の向上につながっている。 ・到達目標3;作品について主体的に表現を考え、制作することができる。								
備考		積極的に取材や作品鑑賞をすること。 画集等の参考資料を必要に応じて提示します。								
担当教員の実務経験の有無		○		実務経験の具体的内容				創作活動、制作活動を行っている芸術家による授業		

尾道市立大学授業計画

授業科目名		日本画実習3			開講年次	4年	開講年度学期	2025年度前期、2025年度後期		単位数	10単位
科目コード		A-SJ-401P		担当教員名	中村 譲、鈴木 恵麻、山梨 千果子				担当形態	複数	
【科目の位置付け】											
教員の免許状取得のための必修科目 科目区分・・・教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術） 施行規則に定める科目区分又は事項等・・・絵画（映像メディア表現を含む）											
この授業の基礎となる科目		日本画実習2		次に履修が望まれる科目				卒業制作			
【授業の目的と到達目標】											
(授業の目的) 日本画実習Ⅰ・Ⅱでの研究成果を基に、個性あるテーマや表現を、卒業制作や将来を視野に入れて表現できるようにすることが目的です。造形力や構成力、完成度を高め、自分の考えをまとめて発表できるようにします。 (受講生の到達目標) ・到達目標1：日本画における考え方や歴史、知識を深く理解することができる。 ・到達目標2：日本画の素材を深く理解し技法に応用し、幅広い視野で物事を捉え、さらに向上した表現技術につながるようになることができる。 ・到達目標3：自らの適性を理解し将来像が描けるように作品について主体的に表現を考え、制作することができる。											
【授業の概要】											
授業計画1回分を同一週内で実施し、前期は人物デッサン、古典模写、人物制作50号、自由制作50～100号で制作します。後期は自画像制作15号と卒業制作のための補助的な研究を行います。											
【授業計画と授業の方法】 講義内容											
(授業計画) 第1回：【人体デッサン】クロッキー「実習」 第2回：【人体デッサン】観察による自由表現、提出「実習」 第3回：【人物制作】スケッチ、小下図、大下図「実習」 第4回：【人物制作】画材と描画法の研究「実習」 第5回：【人物制作】技法の研究「実習」 第6回：【人物制作】表現の研究 講評「実習」「発表」 第7回：【古典模写】下準備(模本、パネル、基底材、絵具)「講義」「実習」 第8回：【古典模写】(上げ写し)「実習」 第9回：【古典模写】(彩色)表現研究「実習」 第10回：【古典模写】(彩色)仕上げ、提出「実習」 第11回：【自由制作】取材、スケッチ、小下図、大下図「実習」 第12回：【自由制作】制作工程の研究「実習」 第13回：【自由制作】画材と描画法の研究「実習」 第14回：【自由制作】技法の研究「実習」 第15回：【自由制作】仕上げ 講評「実習」「発表」 第16回：【自画像制作】クロッキー、エスキース「実習」 第17回：【自画像制作】自画像デッサン「実習」 第18回：【自画像制作】小下図、大下図「実習」 第19回：【自画像制作】技法研究「実習」 第20回：【自画像制作】表現研究「実習」 第21回：【自画像制作】地塗り、下塗り「実習」 第22回：【自画像制作】大まかな描込み「実習」 第23回：【自画像制作】細部の描込み「実習」 第24回：【自画像制作】問題点解決「実習」 第25回：【自画像制作】仕上げ【卒業制作の補助研究】客観的意見の聴取、課題の洗い出し「実習」 第26回：【自画像制作】額装【卒業制作の補助研究】課題の克服「実習」 第27回：【自画像制作】一次提出、講評会【卒業制作の補助研究】一次提出、講評会、課題の整理「実習」「講義」 第28回：【卒業制作の補助研究】撮影「実習」 第29回：【卒業制作の補助研究】展示計画「実習」 第30回：【卒業制作の補助研究】後期講評、最終提出「実習」「講義」 (授業の方法) 前後期を通して、課題の概要を説明した後、その課題の到達すべき点について説明します。前期は作品の構想、下描き、制作と段階を踏み、最後に講評会を行います。その際、それぞれ個性や問題点について各自が具体的に理解できているか話し合う機会を設け研究します。後期は卒業制作の補助研究において作品の構想段階、下描き段階、制作、完成にむけて自分の考えをまとめて発表できるようにしていきます。また平日の実習時間には教員が見回りを行い、学生にその場でアドバイスや指導を行います。											
テキスト・参考書		使用しません。									
授業時間外の学修		ありません。									
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 実習への取り組み姿勢(30%)と、提出作品による造形力・表現技術の達成度(70%)を総合的に評価する。 ・到達目標1：日本画における考え方や歴史、知識を深く理解し制作できている。 ・到達目標2：日本画の素材を深く理解し技法に応用して制作し、幅広い視野で物事を捉え、さらに向上した表現技術につながっている。 ・到達目標3：卒業制作の補助研究を通して自らの適性を理解し、将来像が描けるように作品について主体的に表現を考え制作し、自分の考えをまとめて発表することができている。									
備考		積極的に取材や作品鑑賞をすること。 画集等の参考資料を必要に応じて提示します。									
担当教員の実務経験の有無		○		実務経験の具体的内容				創作活動、制作活動を行っている芸術家による授業			

尾道市立大学授業計画

授業科目名		油画実習1			開講年次	2年	開講年度学期	2025年度前期、2025年度後期		単位数	12単位
科目コード		A-SO-211P		担当教員名	小野 環、稲川 豊、橋野 仁史、西村 有未				担当形態	複数	
【科目の位置付け】											
教員の免許状取得のための選択科目 科目区分・・・教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術） 施行規則に定める科目区分又は事項等・・・絵画（映像メディア表現を含む）											
この授業の基礎となる科目		デッサン基礎実習 構成実習 彫刻 総合基礎実習		次に履修が望まれる科目				油画実習2			
【授業の目的と到達目標】											
(授業の目的) 制作を通じ、絵画表現に関する基礎的な技術や素材の特性を学び、自身の興味・関心に対する理解を深めることで主体的に制作を行なっていくための礎とします。各課題の講評、ディスカッション時には、制作動機やプロセスについて各自が発表を行い、主体的に表現していく姿勢を育む機会を作ります。											
(受講生の到達目標) ・到達目標1；絵画表現の基礎的な技術を学び、制作体験を通じて素材の特性を知ることができる。 ・到達目標2；自身の表現にとって必要な専門分野の技術を活かし、表現することができる。 ・到達目標3；制作動機や方法について主体的に考え、表現することができる。											
【授業の概要】											
近隣のフィールドを活かした風景課題や各教員が担当する課題など、油彩を中心に様々なメディアでの表現を通じて、基礎的な技術・知識を習得すると同時に、自身の感覚や資質に対する理解を深めていきます。また、並行して自由制作での実験を繰り返しながら自らの制作の方向性を模索していきます。適宜ディスカッションの機会を作ります。											
【授業計画と授業の方法】 講 義 内 容											
(授業計画) 第 1回 「自由制作/テーマの模索」「講義」「実習」 第 2回 「風景オイルスケッチ/制作 鞆の浦・松永・フラワーセンター・MOU周辺」「講義」「実習」 第 3回 「風景オイルスケッチ/制作 大久野島・福山動物園・糸崎・岩子島、講評」「実習」「発表」 第 4回 「自主制作/取材・資料収集、描画素材・支持体準備」「実習」 第 7回 「課題制作【橋野】油彩 観葉植物/ドローイング、構想」「講義」「実習」 第 8回 「課題制作【橋野】油彩 観葉植物/構図、色彩、表現手法を探る」「実習」 第 9回 「課題制作【橋野】油彩 観葉植物/油彩制作」「実習」 第10回 「課題制作【橋野】油彩 観葉植物/講評」「発表」 第11回 「課題制作【西村】ドローイング/レクチャー、言葉から想像して描く」「講義」「実習」 第12回 「課題制作【西村】ドローイング/静と動を描く」「実習」 第13回 「課題制作【西村】ドローイング/異なる素材もしくは媒体を組み合わせて描く」「実習」 第14回 「課題制作【西村】ドローイング/講評」「発表」 第15回 「自主制作/前期の振り返り」「実習」 第16回 「オムニバス実習【小野】「場所のリサーチ/フィールドワーク」」「講義」「実習」 第17回 「オムニバス実習【小野】「場所で作る/制作」」「実習」「発表」 第15回 「自主制作/ドローイング 制作方針を探る」「実習」 第16回 「自主制作/ドローイング 面談」「実習」「発表」 第17回 「自主制作/作品制作 制作開始」「実習」 第18回 「自主制作/作品制作 制作における実験」「実習」 第19回 「自主制作/作品制作 制作の展開」「実習」 第20回 「自主制作/作品制作 テーマの見直し」「実習」 第21回 「自主制作/作品制作 展示計画を考える」「実習」 第22回 「自主制作/プレゼンテーション、ディスカッション」「発表」 第23回 「自主制作/作品制作 作品の比較検討」「実習」 第24回 「自主制作/作品制作 制作の展開」「実習」 第25回 「自主制作/ドローイング 面談」「実習」「発表」 第26回 「自主制作/作品制作 制作の振り返り」「実習」 第27回 「自主制作/作品制作 完成」「実習」 第28回 「自主制作/学内展示 展示展示準備」「実習」 第29回 「自主制作/学内展示 作品展示作業」「実習」 第30回 「自主制作/学内展示 講評」「発表」 (授業の方法) 初回授業時に通年で授業の流れを説明した後、各課題開始時にそれぞれの担当教員がガイダンスを、課題終了時に講評会、面談等を行い、それぞれの取り組みを振り返ります。年度途中には、学年を超えた作品プレゼンテーション、ディスカッションの機会を設けます。学年最後に、通年の「自主制作」で制作した作品を展示し、自身の作品を多角的に検討する機会として講評会を行います。 ※ 実習期間中には、ゲストスピーカー（外部講師）によるレクチャー、ワークショップなどを予定しています。講師名、日時、内容などの詳細はteamsやメールでお知らせします。											
テキスト・参考書		課題ごとに参照資料を提示します。									
授業時間外の学修		ありません。									
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 制作への積極的な取り組みと基礎的な技術の修得度（40％）、自らの制作動機を踏まえた提出作品の内容（60％） (成績評価の基準) ・到達目標1；絵画表現の基礎的な技術を学び、制作体験を通じて素材の特性を知ることができる。 ・到達目標2；自身の表現にとって必要な専門分野の技術を活かし、表現することができる。 ・到達目標3；主体的に制作動機や方法について考え、表現することができる。									
備考		各課題のオリエンテーションで課題のねらいや条件などの詳しい説明があります。時間に遅れないように必ず出席してください。									
担当教員の実務経験の有無		○	実務経験の具体的内容				創作活動、制作活動を行っている芸術家による授業				

尾道市立大学授業計画

授業科目名		油画実習2		開講年次	3年	開講年度学期	2025年度前期、2025年度後期		単位数	14単位	
科目コード		A-SO-311P	担当教員名	小野 環、稲川 豊、橋野 仁史、西村 有未				担当形態	複数		
【科目の位置付け】											
教員の免許状取得のための選択科目 科目区分・・・教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 美術) 施行規則に定める科目区分又は事項等・・・絵画(映像メディア表現を含む)											
この授業の基礎となる科目		油画実習1		次に履修が望まれる科目				油画実習3 卒業制作			
【授業の目的と到達目標】											
(授業の目的) 自らの特性に合ったテーマを表現するため、自ら課題を立てて、実験を繰り返しつつ制作を行っていきます。年度末に制作した作品を大学美術館で進級制作展として展示します。また、講評会やディスカッションでは他学生や教員と対話を行い、自らの制作について多角的に検討する機会とします。											
(受講生の到達目標) ・到達目標1:油画実習1の課題を通して修得した基礎的な知識や技術を展開することができる。 ・到達目標2:主体的に自分のテーマを見つけ、表現することができる。 ・到達目標3:プレゼンテーションや進級制作展などの機会に、自分の考えをまとめて発表できる。											
【授業の概要】											
各教員が担当する課題や自由制作(進級制作)等を通じ、自己の表現を多角的に模索していきます。 大学美術館での作品展示は、作品の組み合わせや作品配置、空間との関係性など展示方法について考え、実践する機会となります。											
【授業計画と授業の方法】 講義内容											
(授業計画) 第 1回 「自主制作/ガイダンス」「講義」「実習」 第 2回 「自主制作/テーマの模索」「実習」 第 3回 「自主制作/資料等の収集」「発表」 第 4回 「課題制作【稲川】スタジオ制作について考える/レクチャー」「講義」「実習」 第 5回 「課題制作【稲川】スタジオ制作について考える/ドローイング」「実習」 第 6回 「課題制作【稲川】スタジオ制作について考える/面談」「発表」「実習」 第 7回 「自主制作/描画素材、支持体の準備」「実習」 第 8回 「自主制作/制作開始」「実習」 第 9回 「自主制作/制作の展開」「実習」 第10回 「自主制作/制作の振り返り」「実習」 第11回 「自主制作/バリエーションの実験」「実習」 第12回 「自主制作/作品の比較検証」「実習」 第13回 「自主制作/作品の完成」「実習」 第14回 「自主制作/ポートフォリオ作成」「実習」 第15回 「自主制作/プレゼンテーション、ディスカッション」「発表」 第16回 「自主制作/大学美術館展示ガイダンス」「実習」 第17回 「課題制作【小野】フィールドワーク ガイダンス、リサーチ、ドローイング/面談」「実習」 第18回 「課題制作【小野】フィールドワーク 制作、発表/「実習」「発表」 第19回 「自主制作/作品制作 構想を練る」「実習」 第20回 「自主制作/作品制作 支持体の準備」「実習」 第21回 「自主制作/作品制作 開始」「実習」 第22回 「自主制作/面談」「実習」「発表」 第23回 「自主制作/作品制作 作品の見直し・展開」「実習」 第24回 「自主制作/プレゼンテーション、ディスカッション」「発表」 第25回 「自主制作/作品制作 作品の比較検討」「実習」 第26回 「自主制作/作品制作 仕上げ」「実習」 第27回 「自主制作/作品制作 完成」「実習」 第28回 「自主制作/大学美術館展示準備」「実習」 第29回 「自主制作/大学美術館展示レクチャー・展示演習」「実習」 第30回 「自主制作/プレゼンテーション、ディスカッション」「発表」											
(授業の方法) 初回授業時に通年での授業の流れを説明した後、各課題開始時にそれぞれの担当教員がガイダンスを、課題終了時に講評会、面談等を行い、それぞれの取り組みを振り返ります。年度途中には、学年を超えた作品プレゼンテーション、ディスカッションの機会を設けます。学年最後に、展覧会作りと作品展示を経験する機会として大学美術館で進級制作展を開催し、自身の作品を多角的に検討する機会として講評会を行います。 ※ 実習期間中には、ゲストスピーカー(外部講師)によるレクチャー、ワークショップ、ゼミなどを予定しています。講師名、日時、内容などの詳細はteamsやメールでお知らせします。											
テキスト・参考書		課題ごとに参照資料を提示します。									
授業時間外の学修		ありません。									
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 制作プロセスを含む実習への積極的な取り組み(40%)、自らの制作動機を踏まえた提出作品の内容(60%) (受講生の到達目標) ・到達目標1:油画実習1の課題を通して修得した基礎的な知識や技術を展開することができる。 ・到達目標2:主体的に自分のテーマを見つけ、表現することができる。 ・到達目標3:プレゼンテーションや進級制作展などの機会に、自分の考えをまとめて発表することができる。									
備考		各課題のオリエンテーションで課題のねらいや条件などの詳しい説明があります。時間に遅れないように必ず出席してください。									
担当教員の実務経験の有無			○	実務経験の具体的内容				創作活動、制作活動を行っている芸術家による授業			

尾道市立大学授業計画

授業科目名	油画実習3			開講年次	4年	開講年度学期	2025年度前期、2025年度後期		単位数	10単位
科目コード	A-SO-411P		担当教員名	小野 環、稲川 豊、橋野 仁史、西村 有未			担当形態	複数		
【科目の位置付け】										
教員の免許状取得のための選択科目 科目区分・・・教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 美術) 施行規則に定める科目区分又は事項等・・・絵画(映像メディア表現を含む)										
この授業の基礎となる科目		油画実習1・2		次に履修が望まれる科目						
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) 油画実習2までの経験を生かしつつ、自らの表現上の問題を分析し、制作をさらに主体的に発展させることが目的です。ディスカッションを通じて、制作動機や方法についても思索を深め、考えをまとめていきます。										
(受講生の到達目標) ・到達目標1;制作を通じ、自らの適性を理解し、将来像を描くことができる。 ・到達目標2;自らの制作について主体的に考え、表現することができる。 ・到達目標3;プレゼンテーションの機会などで作品制作における自分の考えをまとめて発表することができる。										
【授業の概要】										
卒業制作を充実させるために、各自が様々な実験を行いつつ制作を進めていきます。										
【授業計画と授業の方法】 講義内容										
(授業計画) 第 1回 「作品制作/ガイダンス」「講義」 第 2回 「作品制作/自らの興味に沿ったテーマの模索」「実習」 第 3回 「作品制作/研究計画書作成」「実習」 第 4回 「作品制作/研究内容の検討」「実習」 第 5回 「作品制作/研究計画書の修正」「実習」 第 6回 「作品制作/研究計画書の確定」「実習」 第 7回 「作品制作/テーマに関連した取材」「実習」 第 8回 「作品制作/テーマに関連した資料収集」「実習」 第 9回 「作品制作/テーマについて多角的に探る」「実習」 第10回 「作品制作/多様な素材、手法を試す」「実習」 第11回 「作品制作/描画素材、支持体の準備」「実習」 第12回 「作品制作/制作 ドローイング」「実習」 第13回 「作品制作/制作 イメージの生成」「実習」 第14回 「作品制作/制作 イメージの展開」「実習」 第15回 「作品制作/制作 作品制作」「実習」 第16回 「作品制作/作品制作に関わる記録、まとめ」「実習」 第17回 「作品制作/プレゼンテーション、ディスカッション」「発表」 第18回 「作品制作/制作の進捗状況および作品内容の検証」「実習」 第19回 「作品制作/検証結果に基づいた研究計画の変更」「実習」 第20回 「作品制作/検証結果に基づいた取材、資料収集」「実習」 第21回 「作品制作/描画素材、支持体の追加、変更」「実習」 第22回 「作品制作/制作 作品内容の変更」「実習」 第23回 「作品制作/制作 ドローイング」「実習」 第24回 「作品制作/制作 イメージの生成」「実習」 第25回 「作品制作/制作 イメージの展開」「実習」 第26回 「作品制作/制作 作品制作」「実習」 第27回 「作品制作/プレゼン 作品のテーマ、内容について」「発表」 第28回 「作品制作/作品のテーマ、内容についての確認と検証」「実習」 第29回 「作品制作/作品制作に関わる記録・まとめ」「実習」 第30回 「作品制作/実習全体の振り返り」「発表」										
(授業の方法) 初回授業時に授業概要を説明した後、各学生が研究計画書を作成し、それをもとに教員と面談を行います。テーマを模索し、さまざまな実験をしながら通年で制作を継続します。年度途中に、学年を超えた作品プレゼンテーション、ディスカッションの機会を設けるほか、教員との面談・スタジオでのチュートリアルを定期的に行い、自身の制作を振り返る機会とします。 ※実習期間中には、ゲストスピーカー(外部講師)によるレクチャー、ワークショップ、自主ゼミなどを予定しています。講師名、日時、内容などの詳細はteamsやメールでお知らせします。										
テキスト・参考書		様々な参考資料を必要に応じて提示します。								
授業時間外の学修		ありません。								
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 制作プロセスを含む実習への積極的な取り組み(60%)、自らの制作動機を踏まえた提出作品の内容(40%) (受講生の到達目標) ・到達目標1;制作を通じ、自らの適性を理解し、将来像を描くことができている。 ・到達目標2;自らの制作について主体的に考え、表現することができる。 ・到達目標3;プレゼンテーションの機会などで作品制作における自分の考えをまとめて発表することができる。								
備考		各課題のオリエンテーションで課題のねらいや条件などの詳しい説明があります。時間に遅れないように必ず出席してください。								
担当教員の実務経験の有無		○	実務経験の具体的内容				創作活動、制作活動を行っている芸術家による授業			

尾道市立大学授業計画

授業科目名		デザイン実習1		開講年次	2年	開講年度学期	2025年度前期、2025年度後期		単位数	12単位
科目コード		A-SD-221P		担当教員名	桜田 知文、黒田 教裕、伊藤 麻子、林 宏、西原 美彩			担当形態	複数	
【科目の位置付け】										
教員の免許状取得のための選択科目 科目区分・・・教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術） 施行規則に定める科目区分又は事項等・・・デザイン（映像メディア表現を含む）										
この授業の基礎となる科目		デッサン基礎実習 構成実習 彫刻 総合基礎実習		次に履修が望まれる科目			デザイン実習2			
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) それぞれの専門分野に対する理解を深めながら、作品を制作するための基礎的な知識や技術、素材の特性を知り制作に結びつけることを目的としています。また各課題の講評時には、自身の作品についてのコンセプトやアイデアを人に伝える練習を行います。										
(受講生の到達目標) ・到達目標1;各専門分野における素材の特性や基礎的な知識を理解し、制作に活用することができる。 ・到達目標2;各専門分野の基礎的な技術を修得し、主体的に制作に活用することができる。 ・到達目標3;作品についての制作コンセプトをまとめて発表することができる。										
【授業の概要】										
前期は選択課題を通してデザインの基礎を修得していきます。 後期からグラフィックデザイン、アドバタイジング、イラストレーション、アニメーション、映像デザイン、造形デザイン、クラフトデザインの課題制作を進めます。それぞれの基礎課題を通して、新たな表現や技術を修得します。またリサーチを通して、デザインと実社会との基本的な関係性を学んでいきます。										
【授業計画と授業の方法】		講 義 内 容								
(授業計画) 第1回:【選択課題制作1】オリエンテーション、課題説明、構想と試作「実習」 第2回:【選択課題制作1】ラフデザイン、リサーチ「実習」 第3回:【選択課題制作1】プロトタイプ制作から完成へ「実習」 第4回:【選択課題制作2】課題説明、構想と試作「実習」 第5回:【選択課題制作2】ラフデザイン、リサーチ「実習」 第6回:【選択課題制作2】プロトタイプ制作から完成へ「実習」 第7回:【選択課題制作3】課題説明、構想と試作「実習」 第8回:【選択課題制作3】ラフデザイン、リサーチ「実習」 第9回:【選択課題制作3】プロトタイプ制作から完成へ「実習」 第10回:【選択課題制作4】課題説明、構想と試作「実習」 第11回:【選択課題制作4】ラフデザイン、リサーチ「実習」 第12回:【選択課題制作4】プロトタイプ制作から完成へ「実習」 第13回:【選択課題制作5】課題説明、構想と試作「実習」 第14回:【選択課題制作5】ラフデザイン、リサーチ「実習」 第15回:【選択課題制作5】プロトタイプ制作から完成へ、プレゼンテーション、前期全体講評「発表」 第16回:【基礎課題制作1】オリエンテーション、課題説明、構想と試作「実習」 第17回:【基礎課題制作1】ラフデザイン「実習」 第18回:【基礎課題制作1】プロタイプ制作から完成へ「実習」 第19回:【基礎課題制作2】課題説明、構想と試作「実習」 第20回:【基礎課題制作2】ラフデザイン、リサーチ、素材の検証「実習」 第21回:【基礎課題制作2】プロトタイプ制作「ディスカッション」 第22回:【基礎課題制作2】プロトタイプ制作から完成へ「実習」 第23回:【基礎課題制作3】課題説明、構想と試作「実習」 第24回:【基礎課題制作3】ラフデザイン、リサーチ「ディスカッション」 第25回:【基礎課題制作3】プロトタイプ制作、フィードバック「ディスカッション」 第26回:【基礎課題制作3】プロトタイプ制作から完成へ「実習」 第27回:【基礎課題制作4】課題説明、構想と試作「実習」 第28回:【基礎課題制作4】ラフデザイン、リサーチ、素材の検証「実習」 第29回:【基礎課題制作4】プロタイプ制作から完成へ「実習」 第30回:【基礎課題制作4】プレゼンテーション、後期全体講評「発表」										
(授業の方法) 前期はそれぞれの研究室から出された課題の中から興味のある課題を選択し、各分野の基礎的な技術を学んでいきます。後期は前期での体験を踏まえて、自分の適性や興味をもとに研究室選択を行い、各研究室から出される応用課題を通してより専門的な知識や技術を学んでいきます。										
テキスト・参考書		使用しません。								
授業時間外の学修		ありません。								
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 実習課題への積極的な取り組みと基礎的な技術の修得度(40%)、提出作品の美しさや造形としての完成度(60%) (成績評価の基準) ・到達目標1;提出作品において、素材の特性を理解し各専門分野の基礎的な知識をもとに作品が制作できているか。 ・到達目標2;提出作品において、各専門分野の基礎的な技術を用いて工夫をこらした制作ができているか。 ・到達目標3;提出作品についてのプレゼンテーションにおいて、自信の言葉でわかりやすく説明ができているか。								
備考		各領域の現在社会の動向を調査しておく。 授業の中で参照すべき資料を適宜紹介します。								
担当教員の実務経験の有無		○		実務経験の具体的内容			創作活動、制作活動を行っている芸術家による授業			

尾道市立大学授業計画

授業科目名		デザイン実習2		開講年次	3年	開講年度学期	2025年度前期、2025年度後期		単位数	14単位	
科目コード		A-SD-321P	担当教員名	桜田 知文、黒田 教裕、伊藤 麻子、林 宏、西原 美彩				担当形態	複数		
【科目の位置付け】											
教員の免許状取得のための選択科目 科目区分・・・教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 美術) 施行規則に定める科目区分又は事項等・・・デザイン(映像メディア表現を含む)											
この授業の基礎となる科目		デザイン実習1		次に履修が望まれる科目				デザイン実習3			
【授業の目的と到達目標】											
(授業の目的) それぞれの専門分野で必要とするより高度な知識や技術を修得し、それらを活かして応用課題をこなすことが目的です。併せて、地域社会とデザインとの関わりを自分なりの視点で捉え、問題を分析し、課題の発見や解決を通して、企画力・表現力・プレゼンテーション能力を修得していきます。											
(受講生の到達目標) ・到達目標1:デザイン実習1の基礎課題を通して修得した知識や技術を応用課題に生かすことができる。 ・到達目標2:各自のテーマに沿ってリサーチを行い、課題を発見し自ら解決することができる。 ・到達目標3:客観的な視点で捉え、作品についてのコンセプトを他の人に伝わるようにプレゼンテーションをすることができる。											
【授業の概要】											
デザイン実習1を基盤として、前期は研究室ごとの応用課題制作を行い、より専門的かつ高度な知識や技術を獲得していきます。後期は地域プレゼンテーション課題において、地域へのリサーチとコミュニケーションをとりながら課題制作を進め、最終的には学外での展示・発表を行います。											
【授業計画と授業の方法】 講義内容											
(授業計画) 第1回:【応用課題制作1】オリエンテーション、課題説明、構想と試作「講義」「実習」 第2回:【応用課題制作1】ラフデザイン「実習」 第3回:【応用課題制作1】プロトタイプ制作から完成へ「実習」 第4回:【応用課題制作2】課題説明、構想と試作「講義」「実習」 第5回:【応用課題制作2】ラフデザイン、リサーチ、素材の検証「実習」 第6回:【応用課題制作2】プロトタイプ制作、ディスカッション「実習」 第7回:【応用課題制作2】プロトタイプ制作から完成へ「実習」 第8回:【応用課題制作3】課題説明、構想と試作「講義」「実習」 第9回:【応用課題制作3】ラフデザイン、リサーチ、ディスカッション「実習」 第10回:【応用課題制作3】プロトタイプ制作、ディスカッション、フィードバック「実習」 第11回:【応用課題制作3】プロトタイプ制作から完成へ「実習」 第12回:【応用課題制作3】マーケティングリサーチ「フィールドワーク」 第13回:【応用課題制作3】リサーチを元にしたブラッシュアップ「実習」 第14回:【応用課題制作3】プレゼンテーション資料の作成「実習」 第15回:【応用課題制作3】プレゼンテーション、前期全体講評「発表」 第16回:【地域課題】オリエンテーション、リサーチ「講義」「フィールドワーク」 第17回:【地域課題】ブレインストーミング「グループディスカッション」 第18回:【地域課題】テーマの発見「実習」 第19回:【地域課題】計画の立案、素材の検討「実習」 第20回:【地域課題】ラフデザイン(1)の制作「実習」 第21回:【地域課題】ラフデザイン(1)をもとにしたリサーチ「実習」 第22回:【地域課題】リサーチを反映したラフデザイン(2)の制作「実習」 第23回:【地域課題】ラフデザインからプロトタイプへ「実習」 第24回:【地域課題】プロトタイプの検証「実習」 第25回:【地域課題】仕上げ工程の立案、素材の再検討「実習」 第26回:【地域課題】仕上げ、ディスカッション「実習」「グループディスカッション」 第27回:【地域課題】仕上げ、ディスカッションのフィードバック「実習」 第28回:【地域課題】仕上げ、ブラッシュアップ「実習」 第29回:【地域課題】プレゼンテーション資料作成「実習」 第30回:【地域課題】学内プレゼンテーション、講評「発表」											
(授業の方法) 前期は2年後期に選択した研究室の応用課題を行います。後期は地域プレゼンテーション課題において、各自が選んだテーマに沿ってリサーチを行い、デザインの力で地域の問題を解決する制作を行います。また最終的には学外での展示・発表を行いプレゼンテーション能力の獲得を目指します。											
テキスト・参考書		使用しません。									
授業時間外の学修		ありません。									
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 各課題における制作プロセスを含む実習への積極的な取り組みと、デザインの専門知識や技術の習熟度(30%)、提出作品の美しさや造形としての完成度(70%) (成績評価の基準) ・到達目標1:提出作品において、既に獲得した基礎的な知識や技術を活かして、応用課題に取り組むことができているか。 ・到達目標2:提出作品において、自分でテーマを設定し自ら課題を発見し問題解決ができているか。 ・到達目標3:自身の作品についてプレゼンテーションを行い、質疑応答に答えることができているか。									
備考		授業の中で参照すべき資料を適宜紹介します。 作品制作は早めに取りかかり、試行錯誤できるタイムスケジュールを組むこと。									
担当教員の実務経験の有無			○	実務経験の具体的内容				創作活動、制作活動を行っている芸術家による授業			

尾道市立大学授業計画

授業科目名	デザイン実習3			開講年次	4年	開講年度学期	2025年度前期、2025年度後期		単位数	10単位
科目コード	A-SD-421P		担当教員名	桜田 知文、黒田 教裕、伊藤 麻子、林 宏、西原 美彩				担当形態	複数	
【科目の位置付け】										
教員の免許状取得のための選択科目 科目区分・・・教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術） 施行規則に定める科目区分又は事項等・・・デザイン（映像メディア表現を含む）										
この授業の基礎となる科目			デザイン実習2		次に履修が望まれる科目			卒業制作		
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) デザイン実習2で修得した高度な専門知識や技術を展開し、自己の研究テーマをさらに発展させることが目的です。制作プロセスにおいてはスケジュール管理を自ら行い、デザインにおける主体的な自己表現を追求するとともに、客観的な視点を通してより専門的なデザインを行えるようにします。										
(受講生の到達目標) ・到達目標1：デザイン実習2の応用課題を通して獲得した高度な知識や技術を、自己の研究テーマの発展に活かすことができる。 ・到達目標2：研究テーマについてのリサーチや情報の整理と、制作プロセスにおけるスケジュールの自己管理ができる。 ・到達目標3：主体的な自己表現と合わせて自己の制作に対する客観的な視点を持つことができる。										
【授業の概要】										
各自の研究テーマを明確にしつつ、デザイン実習2で獲得した知識や技術をさらに発展させた制作を行います。作品制作のプロセスでは試行錯誤を積極的に行い、自己のデザインの可能性を広げつつ、確かな表現力や技術力を獲得していきます。										
【授業計画と授業の方法】 講義内容										
(授業計画) 第1回：【専門領域課題】オリエンテーション、事前リサーチ「講義」「実習」 第2回：【専門領域課題】ブレインストーミング「グループディスカッション」 第3回：【専門領域課題】リサーチ「フィールドワーク」「実習」 第4回：【専門領域課題】計画の立案、素材の検討「グループディスカッション」「実習」 第5回：【専門領域課題】ラフデザイン(1)の制作「実習」 第6回：【専門領域課題】ラフデザイン(1)のブラッシュアップ「実習」 第7回：【専門領域課題】ラフデザイン(2)の制作「実習」 第8回：【専門領域課題】ラフデザイン(2)からプロトタイプへ「実習」 第9回：【専門領域課題】プロトタイプ(1)の制作「実習」 第10回：【専門領域課題】プロトタイプ(1)のブラッシュアップ「実習」 第11回：【専門領域課題】プロトタイプ(2)の制作「実習」 第12回：【専門領域課題】プロトタイプ(2)の制作、検証「実習」「グループディスカッション」 第13回：【専門領域課題】プロトタイプ(2)の制作、検証結果の反映「実習」 第14回：【専門領域課題】プロトタイプ(2)の仕上げ、プレゼンテーション資料作成「実習」 第15回：【専門領域課題】プレゼンテーション、講評「発表」 第16回：【自主制作】オリエンテーション、課題の整理、テーマの模索「講義」「実習」 第17回：【自主制作】テーマの決定、素材の検討、リサーチ「実習」 第18回：【自主制作】ラフデザインの制作「実習」 第19回：【自主制作】ラフデザインの制作、検証「実習」「グループディスカッション」 第20回：【自主制作】プロトタイプの制作、検証結果の反映「実習」 第21回：【自主制作】プロトタイプの制作、ブラッシュアップ「実習」 第22回：【自主制作】仕上げ工程の立案、素材の再検討「実習」 第23回：【自主制作】仕上げ、検証「実習」「グループディスカッション」 第24回：【自主制作】仕上げ、検証結果の反映「実習」 第25回：【自主制作】仕上げ、ブラッシュアップ「実習」 第26回：【自主制作】プレゼンテーション資料作成「実習」 第27回：【自主制作】プレゼンテーション、講評「発表」 第28回：【卒業制作の補助研究】撮影「実習」 第29回：【卒業制作の補助研究】展示計画「実習」 第30回：【卒業制作の補助研究】学内展示「発表」										
(授業の方法) 自ら設定したテーマをもとに担当教員との定期的な打ち合わせを行ないながら制作を進めていきます。制作プロセスにおいてはラフ制作からプロトタイプの作成とブラッシュアップまで、自らスケジュールの管理を行い制作を進めていきます。また研究室内でのグループディスカッションなどを通して、客観的な視点を獲得することを目指します。										
テキスト・参考書		使用しません。								
授業時間外の学修		ありません。								
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 各課題における制作プロセスを含む実習への積極的な取り組みと、デザインの専門知識や技術の習熟度(20%)、提出作品の美しさや造形としての完成度(80%) (成績評価の基準) ・到達目標1：提出作品において、既に獲得した専門的な知識や技術を活かして、テーマの制作に取り組むことができているか。 ・到達目標2：作品制作のプロセスにおいて、情報の整理とスケジュールの自己管理ができているか。 ・到達目標3：グループディスカッションなどで積極的に発言し、客観的な視点を獲得できているか。								
備考		授業の中で参照すべき資料を適宜紹介します。 デザイン実習3の制作と平行して卒業制作のプランを練ること。								
担当教員の実務経験の有無			○		実務経験の具体的内容			創作活動、制作活動を行っている芸術家による授業		

尾道市立大学授業計画

授業科目名		古美術研究(演習)		開講年次	3年	開講年度学期	2025年度前期、2025年度後期		単位数	4単位
科目コード			担当教員名	小野 環、稲川 豊、橘野 仁史、西村 有未				担当形態	複数	
【科目の位置付け】										
この授業の基礎となる科目		美学 西洋美術史1・2 テンペラ画技法演習 壁画技法演習		次に履修が望まれる科目						
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) 古今東西の多様な美術作品やその背後にある環境に直に触れることで、美術に対する知見を広げ、関心を持った作品、作家などの研究を進めて制作に活かすことを目的としています。										
(受講生の到達目標) ・到達目標1:異なる文化圏の多様な芸術表現に触れ感受性を養うことができている。 ・到達目標2:事前学習で得られた海外の美術や文化についてのリサーチや情報を整理しまとめることができている。 ・到達目標3:幅広い鑑賞体験で得た内容を自身の制作につなげて考え、役立てることができる。										
【授業の概要】										
台湾の各都市を巡り、美術館、博物館など美術作品を中心に実地視察、研究を行う。										
【授業計画と授業の方法】 講義内容										
(授業計画) 第 1回「事前ガイダンス」「講義」 第 2回「実地視察(ローマ)/国立近代美術館」「演習」 第 3回「実地視察(ローマ)/ヴァチカン美術館、システィーナ礼拝堂、サン・ピエトロ寺院」「演習」 第 4回「実地視察(フィレンツェ)/リッカルディ宮、メディチ家礼拝堂、サンタクロチェ教会」「演習」 第 5回「実地視察(フィレンツェ)/ウフィツィ美術館、ストロツツィ宮」「演習」 第 6回「実地視察(フィレンツェ)/アカデミア美術館、サン・マルコ教会」「演習」 第 7回「実地視察(フィレンツェ)/マリノマリニ美術館、ラスコーベラ博物館」「演習」 第 8回「実地視察(パリ)/ルーブル美術館、オランジュリー美術館」「演習」 第 9回「実地視察(パリ)/オルセー美術館、ロダン美術館、マイヨール美術館」「演習」 第10回「実地視察(パリ)/マルモッタン美術館、パリ市立美術館」「演習」 第11回「実地視察(パリ)/ボンビドゥセンター、ピカソ美術館」「演習」 第12回「実地視察(パリ)/ギメ美術館、グラン・パレ、モロー美術館」「演習」 第13回「実地視察(パリ)/自然史博物館、ケ・ブランリー博物館」「演習」 第14回「実地視察(パリ)/ルイ・ヴィトン美術館、ギャラリー」「演習」 第15回「レポート作成」「報告」										
(授業の方法) 事前学修では西洋美術史の流れに沿って、訪問予定地にある作品や建築、歴史について学びます。その後実際にイタリア、フランスを巡り、多彩な作品に触れることによって古代から近現代までの西洋美術についての理解を深めます。実地視察終了後、各自が演習で視察した作品などについて考察し、レポートとしてまとめ、提出します。 ※実地視察の実施や訪問国については、国際情勢等を踏まえて判断します。 実地視察中止の場合は、代替課題をteams等により配信します。										
テキスト・参考書		事前ガイダンスで参照資料を提示します。								
授業時間外の学修		事前学修(訪問先の美術館や収蔵作品を調べておく)								
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 事前ガイダンスと現地視察への取り組み姿勢(70%)、レポート課題の内容(30%)を評価の基準とする。 (成績評価の基準) ・到達目標1:異なる文化圏の多様な芸術表現に触れ感受性を養うことができている。 ・到達目標2:事前学習で得られた海外の美術や文化についてのリサーチや情報を整理しまとめることができている。 ・到達目標3:幅広い鑑賞体験で得た内容を自身の制作につなげて考え、役立てることができる。								
備考		各課題のオリエンテーションで課題のねらいや条件などの詳しい説明があります。時間に遅れないように必ず出席してください。								
担当教員の実務経験の有無		○	実務経験の具体的内容				創作活動、制作活動を行っている芸術家によるフィールドワーク等を伴う授業			

尾道市立大学授業計画

授業科目名		古美術研究(演習)			開講年次	3年	開講年度学期	2025年度前期、2025年度後期		単位数	4単位
科目コード			担当教員名	桜田 知文、黒田 教裕、伊藤 麻子、林 宏、西原 美彩				担当形態	複数		
【科目の位置付け】											
この授業の基礎となる科目		デザイン実習1 デザイン実習2 日本美術史1、2		次に履修が望まれる科目				デザイン実習3			
【授業の目的と到達目標】											
(授業の目的) 古代からの日本の歴史の中にあるデザインと美の関係を学び理解を深めることで、自身の制作への幅を広げるとともに、日本独自の美術様式について新たな視点を獲得することを目的としています。											
(受講生の到達目標) ・到達目標1:多様な芸術表現に触れ感受性を養うとともに、幅広い視野で物事を捉え自身の制作に活かすことができる。 ・到達目標2:事前学習で得られた仏像や壁画など日本の美術や文化についてのリサーチや情報を整理しまとめることができる。 ・到達目標3:現地調査やフィールドワークを通して、自らの視点で日本のデザインについての発見をレポートにまとめることができる。											
【授業の概要】											
事前学習の講義では仏像や壁画など日本の歴史の中の美について学びます。また実際に奈良、京都、大阪を巡り、現地演習を通して歴史の中で培われたデザインを学ぶことで、自身の作品制作のための見識と知識の幅を広げます。											
【授業計画と授業の方法】 講義内容											
(授業計画) 第1回:オリエンテーション「講義」 第2回:事前学習1 仏像彫刻「講義」 第3回:事前学習2 絵巻物・障壁画「講義」 第4回:現地演習1 国立民族学博物館「フィールドワーク」 第5回:現地演習2 京都国立博物館「フィールドワーク」 第6回:現地演習3 興福寺、新薬師寺、長谷寺「フィールドワーク」 第7回:現地演習4 飛鳥散策「フィールドワーク」 第8回:現地演習5 東大寺大仏殿「フィールドワーク」 第9回:現地演習6 法隆寺「フィールドワーク」 第10回:現地演習7 奈良文化財研究所「フィールドワーク」 第11回:現地演習8 角屋もてなしの文化美術館「フィールドワーク」 第12回:課題制作1 現地調査「フィールドワーク」「演習」 第13回:課題制作2 資料整理「演習」 第14回:課題制作3 本制作「演習」 第15回:課題制作4 仕上げ、提出「演習」											
(授業の方法) 事前学習では日本の仏像や壁画における美術様式の時代による変遷や特徴を、様々な資料やスライドをもとに多角的に学びます。その後実際に奈良、京都、大阪を巡り、歴史の中にあるデザインと美の関係についての理解を深めます。現地調査やフィールドワークを行い、日本独自の美術様式についてデザインの視点から得た新たな気づきを、研究室ごとの課題レポートとしてまとめ提出してもらいます。※現地演習内容に関しては変更する場合があります。											
テキスト・参考書		ありません。									
授業時間外の学修		事前に特別拝観先、現地調査の見学先などの情報収集を行ない、必要に応じて見学先の予約等を行なっておくこと。 (事前学修)講義前に講義内容についてリサーチ (事後学修)所属研究室ごとの課題レポート制作									
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 日本の美術についての理解度と事前学修レポートの成績(20%)、現地演習でのフィールドワーク(50%)、各研究室レポート課題の提出(30%) (成績評価の基準) ・到達目標1:古代からの多様な日本の美術表現に触れ、自らの制作に生かすことができている。 ・到達目標2:事前学習において日本独自の美術表現についての理解をレポートにまとめることができる。 ・到達目標3:現地フィールドワークへ参加し、日本の美術とデザインについての新たな視点を獲得し、研究室ごとのレポートにまとめることができる。									
備考		古美術研究のしおりや事前学習で配布されるプリントなどを使用します。 科目ナンバリング:A-SD-322S									
担当教員の実務経験の有無		○	実務経験の具体的内容				創作活動、制作活動を行っている芸術家によるフィールドワーク等を伴う授業				

尾道市立大学授業計画

授業科目名		古美術研究(演習)		開講年次	3年	開講年度学期	2025年度前期、2025年度後期		単位数	4単位
科目コード			担当教員名	中村 譲、鈴木 恵麻、山梨 千果子				担当形態	複数	
【科目の位置付け】										
この授業の基礎となる科目		日本画実習1 日本画実習2 日本美術史1、2		次に履修が望まれる科目				日本画実習3		
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) 古典絵画・彫刻・建築等、実地に視察・研究することで日本美術の歴史に関する知識を修得することが目的です。多様な芸術表現に触れ、感受性を養い、情報をリサーチして整理することを学び、そこで得た知識を現在の創作に活かします。 (受講生の到達目標) ・到達目標1;多様な芸術表現に触れ感受性を養うとともに、幅広い視野で物事を捉え自身の制作に活かすことができる。 ・到達目標2;事前学習で得られた仏像や壁画など日本の美術や文化についてのリサーチや情報を整理しまとめることができる。 ・到達目標3;現地調査やフィールドワークを通して、日本美術の歴史から美や芸術の本質を学び、自己の表現の可能性を探ることができる。										
【授業の概要】										
事前学習として、日本の古典絵画や仏像などの彫刻作品について学びます。その後実際に奈良から京都へと研究旅行を行い、旅行中に2度の現地講義を受講して、古美術への見識と知識を深めていきます。										
【授業計画と授業の方法】 講義内容										
(授業計画) 講義、実習(現地でのスケッチ等) 《期間》 11月上旬～中旬 8泊9日 《行き先》 奈良 興福寺、飛鳥周辺(高松塚古墳、キトラ古墳、石舞台、飛鳥寺、橘寺、岡寺)、秋篠寺、薬師寺、当麻寺、室生寺、聖林寺、安倍文殊院、法隆寺、中宮寺、法輪寺、法起寺、東大寺(大仏殿、戒壇院、俊乗堂、法華堂、東大寺ミュージアム)、正倉院、新薬師寺、唐招提寺、薬師寺、安産寺、信貴山朝護孫子寺、奈良国立博物館など 「演習」 京都 南禅寺(金地院、大方丈)、養源院、三十三間堂、智積院、大徳寺(孤蓬庵、真珠庵、大方丈)、相国寺(承天閣美術館)、妙心寺(隣華院)、 広隆寺、教王護国寺、平等院、(株)ナカガワ胡粉絵具、醍醐寺、法界寺、京都国立博物館など 「演習」 ※拝観先の都合により変更になる場合あり。 《事前講義》 7月中 2コマ「講義」 非常勤講師 苫名 悠、荒木 泰恵 (授業の方法) 事前学習では日本の仏像や壁画における美術様式の時代による変遷や特徴を、様々な資料やスライドをもとに多角的に学びます。その後実際に奈良、京都を巡り、歴史的な日本の美についての理解を深めます。現地調査やスケッチなどのフィールドワークを通して表現者の観点から見た感想や意見を現地で意見交換します。										
テキスト・参考書		古美術研究演習の手引きを作成し、持参します。								
授業時間外の学修		事前に特別拝観先、現地調査の見学先などの情報収集を行ない、必要に応じて見学先の予約等を行なっておくこと。(事前学修)講義前に講義内容についてリサーチ								
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 古美術研究事前学内講義のレポート(20%)、現地講義と研究旅行への取り組み姿勢(80%)を重視し、評価の基準とする。 (成績評価の基準) ・到達目標1;多様な芸術表現に触れ感受性を養うとともに、幅広い視野で物事を捉え自身の制作に活かしている。 ・到達目標2;事前学習で得られた仏像や壁画など日本の美術や文化についてのリサーチや情報を整理しまとめることができる。 ・到達目標3;現地調査やフィールドワークを通して、日本美術の歴史から美や芸術の本質を学び、自己の表現の可能性を探ることができる。								
備考		事前に拝観先、自由研究日の見学先などの情報収集を行なっておくこと。 科目ナンバリング:A-SJ-302S								
担当教員の実務経験の有無		○	実務経験の具体的内容				創作活動、制作活動を行っている芸術家によるフィールドワーク等を伴う授業			

尾道市立大学授業計画

授業科目名		卒業制作		開講年次	4年	開講年度学期	2025年度前期、2025年度後期		単位数	10単位
科目コード			担当教員名	小野 環、稲川 豊、橘野 仁史、西村 有未				担当形態	複数	
【科目の位置付け】										
この授業の基礎となる科目		油画実習1・2		次に履修が望まれる科目						
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) 学部4年間の集大成として作品を制作し、卒業制作展で4年間の成果を社会に向けて発表することが授業の目的です。 (受講生の到達目標) ・到達目標1:自らの制作について主体的に考え、表現することができる。 ・到達目標2:プレゼンテーションの機会などで作品制作における自分の考えをまとめて発表することができる。 ・到達目標3:卒業制作のプロセスを通じて芸術表現と社会との関わりについての理解を深めることができる。										
【授業の概要】										
油画実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを通して身につけた造形力をいかして、各自の研究テーマを掘り下げて卒業制作に取り組む。										
【授業計画と授業の方法】 講義内容										
(授業計画) 第1回「卒業制作/ガイダンス」「講義」 第2回「卒業制作/自らの興味に沿ったテーマの摸索」「実習」 第3回「卒業制作/研究内容の検討」「実習」 第4回「卒業制作/研究計画書作成」「実習」 第5回「卒業制作/面談」「発表」 第6回「卒業制作/研究計画書の修正、まとめ」「実習」 第7回「卒業制作/テーマに関連した取材」「実習」 第8回「卒業制作/テーマに関連した資料収集」「実習」 第9回「卒業制作/ドローイング」「実習」 第10回「卒業制作/素材の選択」「実習」 第11回「卒業制作/素材の準備」「実習」 第12回「卒業制作/制作開始」「実習」 第13回「卒業制作/制作 イメージの側面から考える」「実習」 第14回「卒業制作/制作 素材の側面から考える」「実習」 第15回「卒業制作/制作 行為の側面から考える」「実習」 第16回「卒業制作/作品制作に関わる記録、振り返り」「実習」 第17回「卒業制作/プレゼンテーション、ディスカッション」「発表」 第18回「卒業制作/制作の進捗状況および作品内容の検証」「実習」 第19回「卒業制作/検証結果に基づいた取材、資料収集」「実習」 第20回「卒業制作/制作 複数作品の制作」「実習」 第21回「卒業制作/制作 イメージの側面からの再検討」「実習」 第22回「卒業制作/制作 素材の側面からの再検討」「実習」 第23回「卒業制作/制作 行為の側面からの再検討」「実習」 第24回「卒業制作/面談・意見交換」「発表」 第25回「卒業制作/制作 作品の発展」「実習」 第26回「卒業制作/制作 作品の見極め」「実習」 第27回「卒業制作/プレゼン 卒業制作展に向けて」「実習」 第28回「卒業制作/ポートフォリオ作成 撮影、編集」「実習」 第29回「卒業制作/ポートフォリオ作成 まとめ」「実習」 第30回「卒業制作/卒業制作展準備」「発表」 (授業の方法)学生自らが制作テーマを定め、卒業制作作品の制作を行います。そのプロセスの中で、教員との定期的な面談を行い、多角的に作品の内容や形式について吟味しながら制作を行います。卒業制作展では、社会に向けて作品を発表し、ギャラリートークでは自身の作品についてのプレゼンテーションを行います。										
テキスト・参考書		随時、参照資料を提示します。								
授業時間外の学修		ありません。								
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 制作プロセスを含む実習への積極的な取り組み(20%)、自らの制作動機を踏まえた提出作品の内容(80%)。 (成績評価の基準) ・到達目標1:自らの制作について主体的に考え、表現することができている。 ・到達目標2:プレゼンテーションの機会などで作品制作における自分の考えをまとめて発表することができている。 ・到達目標3:卒業制作及び卒業制作展における展示経験などを通じて芸術表現と社会との関わりについての理解を深めることができている。								
備考		各課題のオリエンテーションで課題のねらいや条件などの詳しい説明があります。時間に遅れないように必ず出席してください。								
担当教員の実務経験の有無			○	実務経験の具体的内容			創作活動、制作活動を行っている芸術家による授業			

尾道市立大学授業計画

授業科目名		卒業制作		開講年次	4年	開講年度学期	2025年度前期、2025年度後期		単位数	10単位
科目コード			担当教員名	桜田 知文、黒田 教裕、伊藤 麻子、林 宏、西原 美彩				担当形態	複数	
【科目の位置付け】										
この授業の基礎となる科目		デザイン実習3		次に履修が望まれる科目						
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) 学部4年間の集大成として作品を制作し、学外で行う卒業制作展で展示することが授業の目的です。 (受講生の到達目標) ・到達目標1;自ら設定したテーマについてリサーチや情報の整理に基づく制作プロセスを経た上で、ブラッシュアップを重ね作品の質を高めることができる。 ・到達目標2;制作スケジュールに基づき自己管理を行い、卒業制作展に作品を提出することができる。 ・到達目標3;自身の作品についてのコンセプトやプレゼンテーション資料を作成し、発表および質疑応答に答えることができる。										
【授業の概要】										
デザイン実習1・2・3で学んできたことを踏まえ、各自の研究テーマを掘り下げて卒業制作に取り組みます。また研究室ごとのグループディスカッションを通して、自身の作品についての客観的な視点を獲得するようにします。卒業前までに自身のデザインワークをまとめたポートフォリオ提出してもらいます。										
【授業計画と授業の方法】		講義内容								
(授業計画) 第1回:【卒業制作】オリエンテーション、事前リサーチ「講義」「実習」 第2回:【卒業制作】ブレインストーミング「グループディスカッション」 第3回:【卒業制作】リサーチ「フィールドワーク」 第4回:【卒業制作】ディスカッション、計画の立案、素材の検討「グループディスカッション」「実習」 第5回:【卒業制作】テーマの決定「実習」 第6回:【卒業制作】ラフデザイン(1)の制作「実習」 第7回:【卒業制作】ラフデザイン(1)のブラッシュアップ「実習」 第8回:【卒業制作】ラフデザイン(2)の制作「実習」 第9回:【卒業制作】ラフデザイン(2)からプロトタイプへ「実習」 第10回:【卒業制作】プロトタイプ(1)の制作「実習」 第11回:【卒業制作】プロトタイプ(1)のブラッシュアップ「実習」 第12回:【卒業制作】プロトタイプ(2)の制作「実習」 第13回:【卒業制作】プロトタイプ(2)の制作、検証「実習」「グループディスカッション」 第14回:【卒業制作】プロトタイプ(2)の制作、検証結果の反映「実習」 第15回:【卒業制作】プロトタイプ(2)の仕上げ、中間プレゼンテーション資料作成「実習」 第16回:【卒業制作】中間プレゼンテーション、中間チェック「発表」 第17回:【卒業制作】中間チェックを踏まえたディスカッション「グループディスカッション」 第18回:【卒業制作】ラフデザイン(3)の制作「実習」 第19回:【卒業制作】ラフデザイン(3)の制作、検証「実習」「グループディスカッション」 第20回:【卒業制作】プロトタイプ(3)の制作、検証結果の反映「実習」 第21回:【卒業制作】プロトタイプ(3)の制作、ブラッシュアップ「実習」 第22回:【卒業制作】仕上げ工程の立案、素材の再検討「実習」 第23回:【卒業制作】仕上げ、検証「実習」「グループディスカッション」 第24回:【卒業制作】仕上げ、検証結果の反映「実習」 第25回:【卒業制作】仕上げ、ブラッシュアップ「実習」 第26回:【卒業制作】最終プレゼンテーション資料作成「実習」 第27回:【卒業制作】最終プレゼンテーション、講評「発表」 第28回:【卒業制作】講評、採点「発表」 第29回:【卒業制作】講評を踏まえたブラッシュアップ「実習」 第30回:【卒業制作】学内展示「発表」 (授業の方法) 担当教員との定期的なミーティングやグループディスカッションを通して自ら設定したテーマを掘り下げながら制作していきます。学内展示では自身の作品についてのコンセプトをわかりやすくプレゼンテーションします。学外展示では卒業制作に関わる各担当を決め協働して作品展示を行います。また広報や図録制作など、社会に向けて作品を発表し、ギャラリートークでは自身の作品についてのコンセプトをわかりやすくプレゼンテーションします。										
テキスト・参考書		使用しません。								
授業時間外の学修		ありません。								
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 作品制作に対する姿勢や制作過程でのリサーチや情報整理(20%)、提出作品の出来栄や完成度をふまえて総合的に判断します。(80%) (成績評価の基準) ・到達目標1;提出作品において、テーマについてのリサーチとブラッシュアップを重ねて、作品の質を高めることができるか。 ・到達目標2;制作スケジュールを自己管理し、卒業制作展に作品を提出することができるか。 ・到達目標3;客観的な視点をもとにまとめた作品コンセプトについて、プレゼンテーションを行い質疑応答ができているか。								
備考		授業の中で参照すべき資料を適宜紹介します。 4年生までに、本学および他の美術系大学の卒業制作も観て研究しておくこと。 科目ナンバリング:A-SD-422T								
担当教員の実務経験の有無		○	実務経験の具体的内容			創作活動、制作活動を行っている芸術家による授業				

尾道市立大学授業計画

授業科目名		卒業制作			開講年次	4年	開講年度学期	2025年度前期、2025年度後期		単位数	10単位
科目コード			担当教員名	中村 譲、鈴木 恵麻、山梨 千果子				担当形態	複数		
【科目の位置付け】											
この授業の基礎となる科目		日本画実習3		次に履修が望まれる科目							
【授業の目的と到達目標】											
(授業の目的) 学部在学中に学んだ自らの芸術表現の問題や課題を把握し、自己の集大成を発表し、最終講評会に提出することが目的です。大画面での制作スケジュールを組み立て、自分の考えをまとめて作品の完成度を追求していきます。 (受講生の到達目標) ・到達目標1; 自らの芸術表現の問題を分析し、課題を発見して制作に活かすことができる。 ・到達目標2; 制作スケジュールに基づき自己管理を行い、卒業制作展に作品を展示することができる。 ・到達目標3; 自身の作品内容について、発表および質疑応答に答えることができる。											
【授業の概要】											
学部4年間の集大成として、これまで積み重ねてきた研究成果をテーマを自由に制作し、卒業制作に取り組みます。											
【授業計画と授業の方法】 講 義 内 容											
(授業計画) 卒業制作 変形120号(1550×1939mm)～150号 第1回【卒業制作】ガイダンス、取材「講義」「実習」 第2回【卒業制作】取材、テーマの検討「実習」 第3回【卒業制作】取材、素材収集、支持体や画材の検討「実習」 第4回【卒業制作】小下図制作「実習」 第5回【卒業制作】小下図研究会「講義」「実習」「発表」 第6回【卒業制作】支持体準備、パネル下処理、制作スケジュールの組立「実習」 第7回【卒業制作】支持体準備、ドーサ引き「実習」 第8回【卒業制作】大下図制作、素材や構成の再検討「実習」 第9回【卒業制作】大下図制作、取材の追加「実習」 第10回【卒業制作】大下図研究会「講義」「実習」「発表」 第11回【卒業制作】研究会を踏まえた大下図のブラッシュアップ、本紙の貼り込み「実習」 第12回【卒業制作】本紙へトレース、構成等の吟味「実習」 第13回【卒業制作】骨描き「実習」 第14回【卒業制作】下塗り「実習」 第15回【卒業制作】下地の積み重ね「実習」 第16回【卒業制作】制作、制作スケジュールの振り返り「実習」 第17回【卒業制作】制作【自画像制作】支持体準備、取材「実習」 第18回【卒業制作】制作【自画像制作】下図制作「実習」 第19回【卒業制作】額縁の検討、発注、制作「実習」 第20回【卒業制作】進捗の把握と今後の展開について検討【自画像制作】トレースから下地制作「実習」 第21回【卒業制作】検討内容の反映【自画像制作】制作「実習」 第22回【卒業制作】仕上げを見据えた内容の充実【自画像制作】制作「実習」 第23回【卒業制作】本画研究会「講義」「実習」「発表」 第24回【卒業制作】作品の発展について検討「実習」 第25回【卒業制作】仕上げ【自画像制作】仕上げ「実習」 第26回【卒業制作】仕上げ、額の取付「実習」 第27回【卒業制作】一次提出「講義」「実習」「発表」 第28回【卒業制作】撮影「実習」 第29回【卒業制作】展示計画「実習」 第30回【卒業制作】提出「発表」 9月に小下図研究会を行う 10月に大下図研究会を行う 12月に本画研究会を行う (授業の方法) 教員との定期的な研究会を通して作品を完成させていきます。また平日の実習時間には教員が見回りをを行い、学生にその場でアドバイスを指導を行います。学外展示では卒業制作に関わる各担当を決め協働して作品展示を行います。また広報や図録制作など、社会に向けて作品を発表し、ギャラリートークでは自身の作品についてのコンセプトをわかりやすくプレゼンテーションします。											
テキスト・参考書		画集等の参考資料を必要に応じて提示する。									
授業時間外の学修		ありません。									
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 実習の取り組みと、提出作品による理解度・到達度を点数化し評価する。 (成績評価の基準) ・到達目標1; 自らの芸術表現の問題を分析し課題を発見し、制作に活かしている。 ・到達目標2; 制作スケジュールに基づき自己管理を行い、卒業制作展に作品を提出することができる。 ・到達目標3; 自身の作品内容について、発表および質疑応答に答えることができている。									
備考		十分な計画・取材・準備等を行うこと。 画集等の参考資料を必要に応じて提示する。									
担当教員の実務経験の有無		○	実務経験の具体的内容				創作活動、制作活動を行っている芸術家による授業				

尾道市立大学授業計画

授業科目名		文化財保存学概論		開講年次	1年	開講年度学期	2025年度前期		単位数	2単位
科目コード		A-RC-101L	担当教員名	山田 祐子			担当形態			
【科目の位置付け】										
この授業の基礎となる科目		博物館学入門		次に履修が望まれる科目						
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) さまざまな環境におかれた文化財の損傷、劣化やその対策について知り、文化財の保存・修復を行う際の基本的な考え方を述べることができるようになる。 (受講生の到達目標) 到達目標1: 日本の「文化財」の定義について説明することができる。 到達目標2: 文化財作品を見る際に、作品の構造や素材といった切り口から捉えることができる。 到達目標3: 文化財作品を見る際に、作品の損傷状態や保存環境の問題に気づくことができる。										
【授業の概要】										
文化財保護法制定までの流れとその内容を通して、日本における文化財保護の歴史および文化財の定義や概念について学ぶ。また、文化財を劣化させるさまざまな要因について具体例を交えて紹介し、文化財を保存する上で必要な保存環境について学ぶ。さらに、日本の文化財の形態や構造を知り、作品修復に使用される材料や道具に触れることで日本文化や文化財を構築する材料への理解を深める。作品調査や修復材料を用いた演習を通して作品の構造や素材への理解を深める。										
【授業計画と授業の方法】										
講義内容										
(授業計画) 第1回:「文化財保護法」 ー「文化財保護法」制定までの歴史的背景と法律の内容についてー(講義) 第2回:保存環境1 ー文化財の劣化要因のうち、温湿度と光が作品に与える影響についてー(講義) 第3回:保存環境2 ー文化財の劣化要因のうち、大気汚染と生物被害が作品に与える影響についてー(講義) 第4回:絵画の構造 ー日本絵画の技法と材料、構造についてー(講義) 第5回:装演文化財の形態・構造 ー掛軸、屏風、冊子に代表される日本の絵画作品の装丁ー(講義) 第6回:装演文化財の形態・構造 ーそれぞれの装丁の特徴と構造ー(講義) ー掛軸作品を用いた掛け下ろしの取り扱い演習ー(演習) 第7回:装演文化財の修復に使用される材料 ー掛軸、屏風、冊子などの作品の修復に用いる紙、絹ー(講義) 第8回:装演文化財の修復に使用される材料 ー掛軸、屏風、冊子などの作品の修復に用いる接着剤(糊、膠、フノリなど)ー(講義) 第9回:作品調査 ー文化財を修復するにあたってどのような調査を行い、どのように判断するのかについてー(講義) 第10回:作品調査 ー傷んだ掛軸作品を観察し、損傷の診断を行う(実践的な学習として、実際の作品を観察しながら調査カルテを作成するグループワークを行う)ー(演習) 第11回:修復素材調査 ー修復に用いる素材を使った演習。素材の観察を通してそれぞれの違いを知るー(演習) 第12回:修復事例紹介 ー実際の修復現場ではどのような処置を行なっているのかについて、事例を通して紹介ー(講義) 第13回:予防保存 ー日常的な作品管理についてー(講義) 第14回:糊吹き ー文化財の修復に使用する小麦でんぷん糊を作る、使うー(演習) 第15回:文化財レスキュー ー自然災害等で被災した文化財を救うための活動についてー(講義) (授業の方法) パワーポイントでの講義を中心とし、動画なども用いて説明を行います。 演習では実際の掛軸作品や修復材料を用いて、作品取扱いの練習や損傷した作品の状態観察、修復材料の調整(糊を作って使う、など)を行います。										
テキスト・参考書		教科書は使用せず、必要に応じてプリント配布								
授業時間外の学修		受講前および受講後に美術館、博物館のような文化財を扱う施設等への自主見学								
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 授業・演習への参加態度(50%) 課題レポート(50%) (成績評価の基準) 到達目標1:日本の「文化財」の定義を理解し、説明することができる。 到達目標2:文化財作品の構造や素材に興味関心を持ち、そのような切り口から作品を捉えることができる。 到達目標3:文化財作品のおかれた状況に気を配り、損傷状態や保存環境の問題に気づくことができる。								
備考		この授業の基礎となる科目として「博物館学入門」が望まれるが、受講経験がなくてもよい								
担当教員の実務経験の有無			○			実務経験の具体的内容			文化財の修復と保存環境を含む保存継承に携わっている教員による授業	

尾道市立大学授業計画

授業科目名	情報機能論			開講年次	2年	開講年度学期	2025年度後期		単位数	2単位
科目コード	A-RC-201L		担当教員名	黒田 教裕			担当形態	オムニバス		
【科目の位置付け】										
この授業の基礎となる科目	デザイン実習1 デザイン論 編集とデザイン		次に履修が望まれる科目			デザイン実習2				
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) デザイン分野の様々な領域で活躍するクリエイターによる講義を通して、自らの創作活動における課題や将来への道筋を見出していくことが授業の目的です。										
(受講生の到達目標) ・到達目標1;幅広いデザイン分野についての情報や新たな気づきを得ることができる。 ・到達目標2;毎回の授業後に提出するコメントシートに自分の制作領域との関連について述べることができる。 ・到達目標3;自身にとっての「情報」とは何か、また将来への視点を自分の言葉で論述することができる。										
【授業の概要】										
この授業はデザイン分野の様々な領域で活動しているクリエイターの方々から講義を受けることで、「情報」と「機能」を多角的に捉え直し、実習制作へのヒントを獲得していきます。また自身にとっての課題を見出すことで、卒業後の職業イメージを明確にすることを目標としています。										
【オムニバス担当教員】 今氏亮二、加藤芳夫、佐古百美、玉木明、野田尚之、弥中敏和										
(今氏):広義に捉えた「編集」と、そこから生まれるデザインの可能性を考察する (加藤):会社の表現(商品ブランド/パッケージデザイン)と個人の表現(アートワーク)複線のクリエイティブな生き方について考える (佐古):イラストレーションの担う役割について、主に絵本を中心に考える (玉木):デザインにおける重要な能力は、実践力とともに実践する以前の読解力である。本講では、デザインを「いかに読み」、「いかに実践する」かを考察する (野田):色々な広告表現について考察する・最新の映像世界を体感する (弥中):ヒトにとって「情報とは」「機能とは」なにかを考え、デザインを行うための思考的基盤づくりとする										
【授業計画と授業の方法】 講 義 内 容										
(授業計画) 第 1回 (黒田):オリエンテーション「講義」 第 2回 (今氏):カタチを作るための編集工学入門「講義」 第 3回 (今氏):編集から生まれるデザインの可能性「講義」 第 4回 (加藤):記憶の中のカタチを取り出すワークショップ。パッケージデザインとブランドについて考える「実習」「講義」 第 5回 (加藤):人が生きる中でクリエイティブとは何かを考える。仕事と表現者の複線の生き方を紹介する「講義」 第 6回 (佐古):イラストレーションの仕事の多様性と仕事の進め方について「講義」 第 7回 (佐古):出版(主に児童書、絵本)の現状と未来、絵本の本質について考える「講義」 第 8回 (玉木):デザインの読み方「講義」 第 9回 (玉木):デザインの描き方「講義」 第10回 (黒田):画面上に見える映像と頭の中で生まれる映像「講義」 第11回 (黒田):情報から意味を見出す「講義」 第12回 (野田):自らが仕事で制作した広告写真や商業映像を見せながら、実際の広告の世界を体感する「講義」 第13回 (野田):作家として制作した写真や映像、Webコンテンツを見せながら、最新の映像世界やその展開方法について考える「講義」 第14回 (弥中):ヒトが情報や機能を求める背景「講義」 第15回 (弥中):デザインがなすべきこと「講義」										
(授業方法) 授業は企業や作家等の実務経験者によるオムニバス形式となります。また実際の授業の順番は授業計画とは異なります。 オムニバス担当教員;今氏亮二、加藤芳夫、佐古百美、玉木明、野田尚之、弥中敏和										
テキスト・参考書		使用しません。								
授業時間外の学修		オリエンテーション時、各教員の専門領域を伝えるので、担当教員の業務領域を調べ、質問事項を持って出席してください。授業後は興味がある情報の分野についてリサーチを行い、期末レポートのためにまとめておくこと。 (事前学修)授業に関するリサーチ (事後学修)毎回の授業後にコメントシート作成								
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 授業後に提出するコメントシートへの記述内容(60%)、期末レポート(40%) (成績評価の基準) 到達目標1;レポート等において、様々なデザイン領域についての知識や情報についての特性を説明することができるか。 到達目標2;毎回授業後に提出するコメントシートの内容が自分の言葉で言語化できているか。 到達目標3;期末レポートで自らの適性をもとにした将来像を「情報」をキーワードに論述できているか。								
備考		講義中に参照すべき資料を適宜紹介します。								
担当教員の実務経験の有無			○	実務経験の具体的内容			創作活動、制作活動を行っている芸術家による授業			

尾道市立大学授業計画

授業科目名		編集とデザイン		開講年次	2年	開講年度学期	2025年度前期		単位数	2単位
科目コード		A-RC-224L/G-HU-224L	担当教員名	伊藤 麻子、小畑 拓也			担当形態	オムニバス		
【科目の位置付け】										
この授業の基礎となる科目			次に履修が望まれる科目							
【授業の目的と到達目標】										
エディトリアルデザインの制作プロセス(企画立案→サムネール作成→取材→執筆→レイアウト→校正)を理解すること。文字の可読性や視認性、誘目性などを考慮しながら、その他の構成要素(写真・イラストレーション・表・地図など)との関係性を理解し、美しく読みやすい、魅力的なレイアウトとは何かを学ぶこと。また、WEB サイトやSNS といったメディアとの比較も視野に入れて、将来的に様々なメディアに携わる「編集とデザイン」の基礎を獲得することが授業の目的です。										
・到達目標1;情報の整理やリサーチすることができ、自分の考えを言語化し書くことができる。 ・到達目標2;多様な芸術表現に触れ感受性を養うことができ、芸術表現の基礎的なスキルを習得することができる。 ・到達目標3;芸術表現と社会との関わりを理解することができ、知識や情報を得ることができる。										
【授業の概要】										
文章表現のルール、取材・調査と記事、校正の重要性などの編集必須項目から基礎を学びます。また情報を伝達する雑誌などを例として、デザインの専門家の解説を交えながら、文章・画像・図などを組み合わせた美しく読みやすい誌面づくりや、効果的なページ構成への理解を深めます。加えて第一線で活躍している、デザイナーなどをゲストスピーカーとして招き、エディトリアルデザインの現状と今後の可能性を探ります。										
【授業計画と授業の方法】										
講 義 内 容										
(授業計画) 第 1回 伊藤・小畑:オリエンテーション(授業概要について)「講義」 第 2回 小畑:文章表現のルール1(言葉づかいのいろいろ)「講義」 第 3回 小畑:文章表現のルール2(文章の組み立て)「講義」 第 4回 小畑:文章表現のルール3(禁則処理・約物の使い方)「講義」 第 5回 小畑:取材・調査と記事1(取材・調査の手順)「講義」 第 6回 小畑:取材・調査と記事2(編集と注釈)「講義」 第 7回 小畑:取材・調査と記事3(見出しと物語性)「講義」 第 8回 小畑:校正の重要性「講義」 第 9回 伊藤・非常勤講師(平林):誌面デザインと広告デザインの解説と魅力の紹介「講義」 第10回 非常勤講師(平林):ブックカバーデザインの解説と魅力の紹介「講義」 第11回 非常勤講師(大悟法):自身のブックデザイン解説「講義」 第12回 フォントワークス(藤田):筑紫フォントについて「講義」 第13回 非常勤講師(大悟法):書籍・雑誌に見るデザインの流行「講義」 第14回 モリサワ:文字セミナー「講義」 第15回 非常勤講師(植松):オンスクリーンメディアのデザイン「講義」 授業の方法)										
テキスト・参考書		配布資料による								
授業時間外の学修		(事前学修) 日頃から編集された本・雑誌などに目を通して編集というもののへの関心を持つようにする。 小畑:2回目の授業以降、前回の授業で提示されたキーワードの辞書・事典による定義・解説を整理しておくこと。 (事後学修) 授業を通じて知り得た内容を実際の生活の中からも見つけ出し確認する。 小畑:授業内容を整理して、毎回の小レポートに取り組むこと。 小畑担当部分の各回の事前・事後学習(講義内容の整理と講義で提示されたキーワードをもとにした情報収集)にはおよそ1時間が必要です。								
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 前半(小畑)授業への取組み意欲・態度(50%)＋実技要素を含んだ小レポート(50%) 後半(伊藤)と期末レポート (成績評価の基準) ・到達目標1;情報の整理やリサーチすることができ、レポートにおいて自分の考えを言語化し書くことができているか。 ・到達目標2;多様な芸術表現に触れ感受性を養うことができ、芸術表現の基礎的なスキルを習得することができているか。 ・到達目標3;芸術表現と社会との関わりを理解することができ、知識や情報をレポートにおいて自身の言葉でまとめることができているか。								
備考		自分の興味の範疇でよいので編集された雑誌などを研究し、構成や文章表現を学ぶこと。 文字(タイポグラフィ)と図版(写真)との関係もページをめくりながら眺めてみよう。 小畑担当分について、課題提示と提出は大学ポータルサイト、授業時間外の質疑応答はMicrosoft Teams上で行うので、PC等のデバイス・ネットワーク環境を整えておくこと。 また、毎回授業内容を確認・整理して実践するための小レポートを課す。 第10回～第15回はゲストによる講義、オムニバス授業。								
担当教員の実務経験の有無			○ 実務経験の具体的内容			創作活動、制作活動を行っている芸術家による授業				